



興福寺・五重塔（ライトアップ）

東山三十六峰を背に聳え立つ  
 智恩院三門 空無相無願を表す  
 重厚さが深い見るものを圧倒する  
 楼上の釈迦如来・十六羅漢が  
 光と影の京の街を見守る  
 石畳が行灯の暖かい光に映える  
 揺らぐロウソクの明かりが  
 集う人々の祈りを照らし出す  
 興福寺五重塔に向かう階段  
 五二段は仏門に入る修行の段階  
 端に置かれた斜めに切られた竹筒  
 暖かくやわらかい光は  
 登って行く善男善女に語りかけ  
 どこまでもどこまでも  
 照らしてくれているのです

新公会堂前（燈花会）



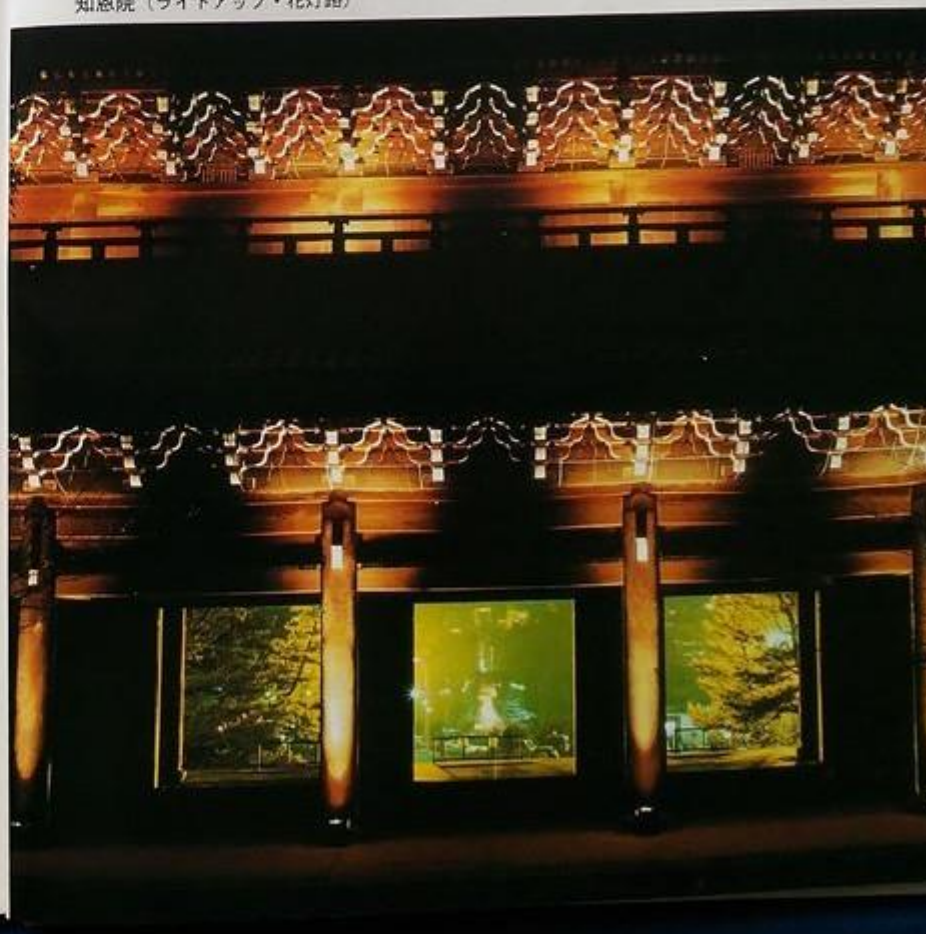
Photo essay

香華燈



題字 中田蘭石  
 撮影 由井 収  
 文 松永 恵一

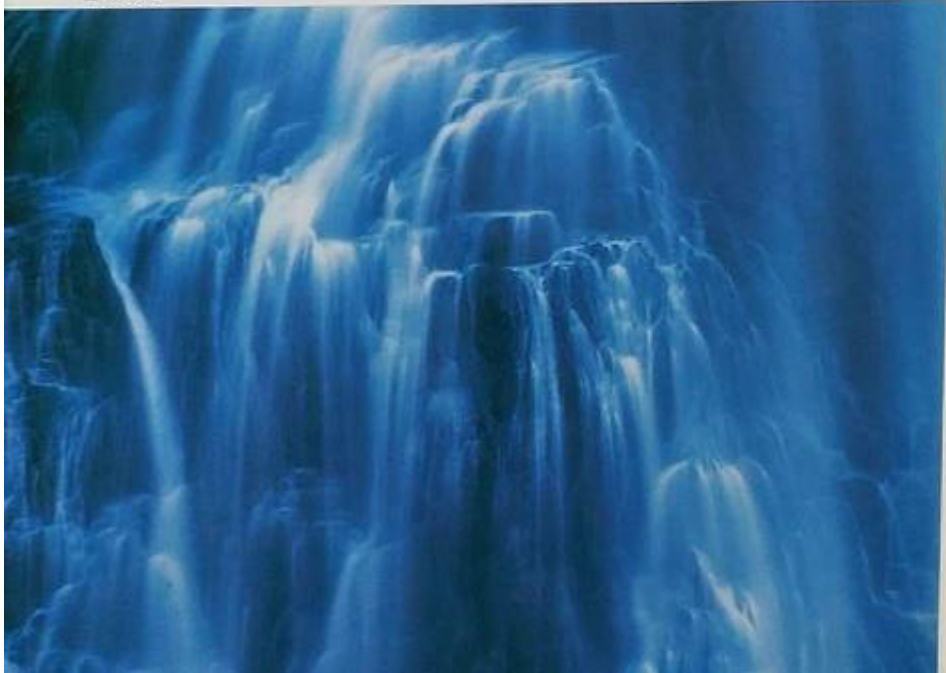
知恩院（ライトアップ・花灯路）





ヨツバシオガマ

番所大滝



# 季節の



ハクサンイチゲ (豊平)

# 実景

乗鞍高原

盛夏

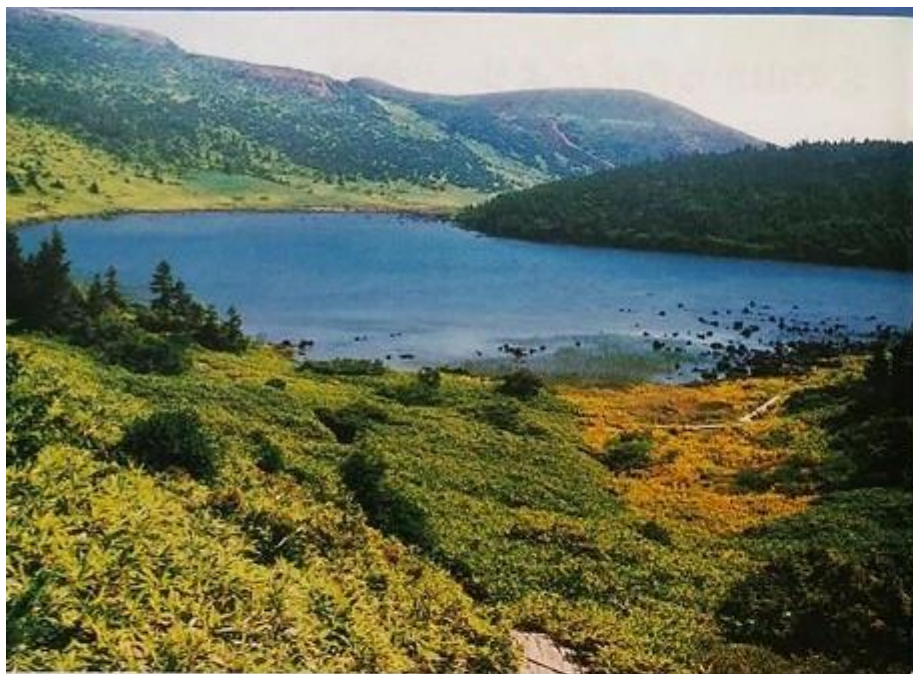
撮影 武市通治



シラカバ (一ノ瀬園地)

北アルプス連峰





鎌沼と一切経山（吾妻連峰） 松田 敏男



夏の山稜・三ノ峰への道（北アルプス） 一芝 義雄



浄土山から大日岳（北アルプス） 中川 光郎



横岳（八ヶ岳） 吉沢 栄一

# 北の山からの花だより -北海道-

奥田 英一郎



エゾコザクラ (富良野岳にて)



ユウバリソウ (夕張岳にて)



シナノキンバイ (夕張岳にて)

新刊 別冊 西の山  
2013年7・8月 第71号

## ●目次

表紙: 松田敏男「幾沢より幾岳を仰ぐ」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳高の編集多岐にわたる。(京都平五巻紙、南アルプス山系小説、東京キャリアー百号、他) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

沿線ハイキングガイド サービステーション せせらぎ 新ハイ関西山行計画と報告	バス時刻表(台高方面) 総目次(61~70号) 編集後記・広告案内	112 108 106
11 尾山(近江) 2 深坂から山門水源の森(湖北) 3 御神楽岳(会通) 4 伊勢尾から御池岳(鈴鹿)	長佐次盛一 慶宗 清司 金谷 昭 磯部 純	72 74 72 72
11 尾山(近江) 2 深坂から山門水源の森(湖北) 3 御神楽岳(会通) 4 伊勢尾から御池岳(鈴鹿)	西尾 寿一 紀平 龍雄	70 68 64
● 旗振り通信の研究 ● 500以上一等三角点の山(548座) 登頂記録 ● 山中溪から四石山を経て金熊寺(泉南) ● 文学歴史探訪ハイイク⑩ ● 蜻蛉の滝を訪ねて(吉野) ● 〈山のレポート〉A山・詩・夢V錦向山・日野 ● 〈山のレポート〉B山・詩・夢V錦向山・日野	柴田 昭彦 坂井 久光 中村 敏文 松永 恵一 西尾 寿一 紀平 龍雄	62 55 44 51
● 紀行 ● グラビア	尾家 建生 綱本 逸雄 生駒 巒峰 湯浅 康夫 日野 節雄 妻鹿ひろ子 松田 敏男 鷺見 守康 木村 太郎 磯部 純	11 10 14 18 14 11 10
● 香壁燈 ● 季節の実景(盛夏)「栗枝高原」 ● 尾家 建生 ● 武市 通治	4 2	

## 巻頭言

シルバリーエイジの時代。昔のようにのんびりと隠居している時代は終わりました。もう若い人は面倒を見てくれなないと考えることが重要です。まず元氣、そして趣味を見つけて生きがいを持つ。他人や家族に影響されず、まず自分の個性で行動する。嫌いなことはしない。つまり、これからのシルバリーは頑固に自分を大切に、長く丈夫に生きるということでしょう。若い世代に思ってもできなかった、自分のやりたいことをじっくりと楽しむことはありますか。

それに、お金儲けはどこにでも簡単に転がっていません。飽食の時代・大量消費の時代も終わりを告げようとしています。これからは儉約して質素に、つつましくかに生きることが求められていきます。

新ハイキングの活動もこれらシルバリー世代の健康と生きがいを見つめるうえでひとつの指針を提供しているのではと考えています。お金もかからないし、健康増進におおいに寄与します。今までつき合ったことのない新しい人との出会いもあります。そして、豊かな日本の自然とふれ合うこともできるのです。

新ハイキング関西(代表) 村田 智哉



克

### 〇〇くり 百里ヶ岳

尾家 建生

江若国境尾根にそびえる百里ヶ岳、初めて登ったのが朽木村市場から歩いて木地山に向かい、途中麻生川の河原に一泊し、翌日、中小屋集落から東尾根のつて山頂に至るといふ、およそ前時代的な山行だったので思い出深い山だ。

百里ヶ岳の名は、明治の山岳百科事典ともいふべき『日本山嶽志』(明治三十九年・復刻版大修館書店)にあるので、山名は江戸時代に遇ることができのかもしれない。「百里ヶ嶽」近江國高島郡ノ南西方ニアリ。朽木村ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。」と記されている。それから30年後、森本次男『京都北山と丹波高原』(昭和十三年明文堂)には「藪山百里ヶ嶽へは

この峠から登るがあまり記録のない山である。」とあり、ヤブ山だったことがうかがえる。また、当時、近畿の山岳を驚くほど縦横に歩いていた住友山岳会の「近畿の山と谷」(昭和十六年明文堂)にもこの山だけは取り上げられていない。登山の対象となつたのは戦後のことであろう。

私の持つ書物では、『関西の山々』(昭和43年創元社)に北山クラブの金久昌業氏の執筆で「小入谷―根来坂―百里ヶ岳―木地山峠―上根来」のコースが紹介されている。「朽ちかかった半壊のやぐらに登ると、北方に若狭湾や久須夜が岳が望まれる。さすがに深山らしく、里山といった感じは全くしない。」とある。一等三角点にやぐらがあったようだ。

問題はその後である。昭和57年に発刊された『中高年向きの山100コース関西編』(高田収

編・山と溪谷社)に百里ヶ岳の名は「百里四方が見渡せる」ことに由来するとある。私の手許の書に限っていえば山名についてふれた最初の書だ。

さて、登山者にもっとも一般的なエアリアマップ「京都北山2」にはもともと百里ヶ岳は入っていないが、金久昌業氏が亡くなられた(昭和57年)あとの改訂版からは百里ヶ岳が載っており、やはり「百里四方が見渡せる」ことからこの名のある山頂」とある。この文面はおそらく金久氏のものではないと私は思っている。

平成に入ってから百里ヶ岳を含むガイドブックは飛躍的に増え、どれも異口同音にその山名を「百里四方が見渡せる」からとし、きまつて「その名の割には展望がよくない」と記述している。

百里ヶ岳は元来から樹林に囲まれ日本海の方が一部望まれ



克

### 随想

(山のエッセイ)

るだけの展望のない山だった。山頂は割合広く、独特の静けさとかつろぎがあり、空を近く感じる印象的な山頂であった。

私はその山名の由来を百里の先からも望まれる山であるから、と思っていた。事実、思わぬ所からその群を抜いて美しい山容を何度か遠望したものだ。

山名の由来について諸説あるのはおおいに結構である。

ところが、「百里四方が見渡せる山」説は、実際の山頂が樹林に囲まれて展望がないのは山名の由来に反するとしてか、ある日突然、山頂の樹林はブナの樹もろとも伐採されていた。静かな山頂は平凡な見苦しい山になり果てていた。伐採されたのは平成11年であろう。

眺望のためにやぐらを組むことはまだしも人の知恵といえるが、眺望のために山頂の樹林を伐採するのは知恵ではなく愚行といふべきだろう。

山の個性を愛すればこそ、むやみやたらと山頂の樹林を伐採したのは残念至極である。まるで、百里ヶ岳での私の思い出も伐採されたかのようにある。



### 比良・八洲の滝の文字石

網本 逸雄

比良・八洲の滝といえ、大摺鉢にある自然石はよく知られ、畳二枚分ほどの大岩の側面に漢字2文字が陰刻されている。

この文字について、ハイキング・ガイドブックやインターネットのHPなどで、「八洲」と隸書で、判子のように、逆さに彫ってある」とか、「八徳」という文字で、「仁義礼智忠信孝悌」という意味だ」とか解説されている。この八つの徳は道徳の細目で、『続日本紀』に「道徳」の文字が載るように、「徳目」は古くから説かれていた。しかし、このような説明は「滝」と結びつかない。

漢字2文字について、「八徳」だと比較的早く指摘していたの



随想 (山のエッセイ)

克



に相当する。  
下部は「涅槃城」と判読できた。右側の「火火」は仏教省文(異体字)で、涅槃の略字である。「涅槃の城」とは、涅槃(不生滅の悟りの境地)の不壊にして堅固なことを城にたとえたもの。転じて極楽浄土をいう。  
これでおわかりだと思うが、この大摺鉢の自然石は、経文を刻んだ石塔で刻経塔といい、広

くは一字二石塔などと同様に經典供養塔といわれるものである。  
願主が堀田義次郎で、經典の功德を得ようとする目的での写経行為とみてよい。堀田は「聚氣八徳」、つまり八瀨の滝を浄土の水にたとえ、八功德を聚(得)て、悟りの境地に達する、すなわち極楽往生を遂げることが願ったとみてとれる。  
なお、「八徳」の書体については、秦時代頃に通用した字体である篆書だとか、それより古い周時代の頃の字体である金文とか、篆書より時代が新しい隸書だとか、いろいろ言われている。  
だが、大摺鉢の「八」の上部が極端に左右に突き出している字形は金文や隸書には見られず、篆文特有のものである(『甲骨金文辞典』雄山閣ほか)。「徳」の字形は金文である。行人偏が左右逆についたのは中国の拓本に

なくはないが、日本の異体字では、旁もふくめ、左右逆・上下逆の字形は供養塔の類(巻・呼(和)・抄(巻)・坪(秋)・奈(松)のようによくあり、石仏の陰刻に用いられている。日本で発行されている篆書辞典類は、金文も含めて新旧篆書として扱っている。八瀨の滝の供養塔文字は総じて篆書といってよいと思う。  
この供養塔に、ハイカーたちが土足で大勢で上がったたり、腰掛けて記念写真を撮っているが、堀田の願いを大切にしたい。(『聚氣』については吉田五彦氏の「教示をいただいた」。



克

は、多分、「高島の民俗」第5号(高島町文化協会、1979年9月1日)だろう。「八徳」のいわれ」と題して、同町黒谷の岸田藤治氏の一文が載る。  
それによると、「当時の滋賀県知事であった堀田という人が、八ツの瀨の「滝」の徳をこの大岩に念じた」といい、(同町の)石屋が彫った」という。当時の知事については「湖国百選 石・岩」(1991年3月 滋賀県企画・発行)がもう少し詳しく紹介している。  
同書「八瀨の滝八徳石」の項に、この滝は「日本の滝百選」に選ばれたが、「八徳」と篆書体の文字で刻まれています」とし、1922年(大正11)堀田義次郎滋賀県知事が視察した時、「八瀨の滝の徳を念じて筆をとったものを、石屋が彫った」と記す。残念なことに、掲載写真は、「徳」の行人偏が右側に彫られているので、文字が左右

逆と思っただけで、ご丁寧にも表裏反対(裏焼き)にして載せるというミスをしている。  
では「滝の徳を念じる」とは、どういうことか。  
「八徳」というのは「八徳の水」、つまり「八功德水」の略である。「大言海」は「八功德水 極楽浄土にありと云ふ水の名。八功德を具ふと云ふ。八つの勝れた功德のある水」というのは、澄浄、清涼、甘美、輕軟、潤沢、安和、除飢渴、長養諸根の特質(別説もある)をいい、「無量寿経」「称赞浄土経」などの經典に載る。  
簡潔にいうと、須弥山(極楽浄土)の甘く、冷たく、清浄で、心身を養う徳のある水をいう。  
「八功德水」は日本の古典にもしばしば登場し、上層社会や仏教者たちにはよく知られていた。「栄花物語」18玉臺に、藤原道長が建てた法成寺の諸堂を浄土の世界に称えたくだりて、

「八功德水澄みて、色々の蓮花生ひたり。その上に仏あらは(現)れ給へり」とあるのをはじめ、「入唐求法巡礼行記」、「往生要集」、「平家物語」、「源平盛衰記」や古辞書の「塵添瑠囊抄」、「下学集」、「節用集」などに載る。  
長野・善光寺境内にも「八功德水」と刻んだ大きな水鉢がある。

ところで、これまでほとんど触れられることがなかったのは、「八徳」文字の左右にある三つの印刻である。篆刻ともいうが、字体は篆書で、印鑑の文字でお馴染みだ。  
右側の2文字は「聚氣(氣をあつむ)」。左側上部の印刻は「日義卿」。堀田義次郎の字(別称)はいわく義卿。卿は地方長官である知事の官職を表現したのかもしれない。長官は「かみ」と呼び、「大宝令」でこのような職掌を担当したのが「卿」

## 道南地方の山々周遊（北海道百名山）

# 横津岳と恵山

## 生駒 聳 峰

## 北海道

今年もまた北海道の山にきた。ここ10年余、毎年私は、夏は北海道の山を目指している。夏に北海道を訪れるのは、大阪の暑さから逃げ出すことと、快適な気候の山に登れることにある。近畿での夏の登山は登ることよりまず暑さに疲れる。

当初の北海道行きは日本百名山ブームに煽られ、ザックを担いで列車の旅だったが、ご存じのごとく広い北海道では交通がままならない。ならばとマイカー使用のテント泊となったが、雨や疲れた身体でのテント設営が面倒になり、とうとうバンの車をキャンピングカーに改造して、北海道の山に通うようになった。

縮しながら登れた。  
日本百名山駒ヶ岳山麓の大沼公園のキャンプ場で一夜を明かす。気温は19〜25度。テレビで大阪は36度と聞き、おそろしくなった。ここは暑さも寒さも感じない快適さである。

車を横津岳に走らせる。横津岳（1167㍎）は山頂に航空レーダーがあり、スキー場も開かれ、車道が頂上まで通じている。スキー場を過ぎ、九合目くらいの登山口に到着する。すでに5〜6台のマイカーが駐車していた。ゲートをくぐって車道を登る。雲ひとつない空。吹く風

日本百名山・三百名山の登頂が終わると、今度は1等三角点の山に取りつかれ、またまた北海道に通う羽目になった。何しろ1等三角点は全国に973点あり、北海道には224点が存在する。結局10年余り通って10山程が残ってしまった。残りの山は不可能と諦めていたのだが、前年知床岳に登ることができて、力を得た私たちは、今年も残りの山にアタックした。

その結果、今まで全く登頂の記録のない三山（蟹山・貝気別山・ピリガイ山）に登り、一山（海別岳）は時間切れで下山した。これらの山々は、1等三角点峰の登頂を目指す人以外には、関係のない未

知の山である。  
その後岳友と別れ、妻と2人で道南に向かった。百名山ブームのなかで、今各地方ごとに百名山の山が選ばれている。百名山ばかりにこだわることはないのだが、一応選ばれている山々には、すばらしい山が多く、ほとんどは道標完備の登山路があり、私としては、道のない1等の山の緊張感もなく、のんびりと心身を

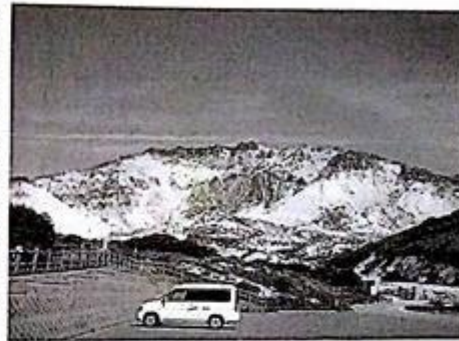
るのに、三角点が気になるのも、病膏育に入ると言うべきか。  
コザサの台地に小さい社と沼が見える。ゆっくりと沼を散策する。南に続く稜線の先に、1等三角点のある樽越岳が見える。あの山に登ってからもう何年になるだろうか、その時には、三角点ばかりに気がとられ、隣接するすばらしい横津岳に全く気づかなかった。それにしても、こんなにすばらしい山に簡単に登れるとは思わなかった。やはり百名山に取り上げられる山は違う。

天候のよい休日のことでもあり、数人の登山客の姿が見られたが、大阪周辺の山と違い、全く静かであった。  
午後、隣接する七飯岳（779㍎）に登る。あまり名の知られた山ではないが、私の崇拜する京都の今西博士が登られたと、記録にあるので登ってみる。山麓は牧場で、山頂にはアマチュア無線の小屋が建ち、横津岳のドームがすぐ隣にそびえている。ここでも大沼越しに駒ヶ岳が大きく浮かび、噴火湾のかなたに羊蹄山が霞んでいた。  
大沼に戻ると、折からの潮水祭りで車が集まり、キャンプ場も満員だった。し



横津岳にて





恵山

かしキャンプ場は会場の反対側であり、花火は見られなかった。

翌日は午前中函館市内観光。五稜郭・博物館・朝市・元町公園の教会群等々を観光客に混じって町を散策し、午後は恵山に向かって車を走らせる。函館の東にのびる亀田半島の先端にある恵山は、温泉も湧く道立自然公園で、今でも盛んに噴煙を上げている。

きょうはその山麓の道の駅「なとわ・えさん」泊まりとする。ここは海岸にあ

登山口に戻ると、妻は待ってましたとばかりにガンコウラン摘みに走る。一つ摘んでみるとけっこう甘味がある。何も採取袋を持参しなかったので、帽子を籠にして短時間にいっぱい採れた。

駐車場で戻り昼食をとる。妻は洗濯をしたり焼んだ実を洗ったりと忙しい。北海道といえども、太陽が顔を出さずとけっこう暑い。私は日陰で缶ビール片手に、荒々しい恵山をいつまでも眺めていた。帰宅する必要のない車のキャンプ旅は、時間に縛られることもなく、酷暑の大坂を忘れて時間がゆっくりと過ぎてゆく。

山を降りて行くと、石田温泉の新しい建物が目に入った。金500円也を払って汗を流す。まだ新しい湯船を一人占めこんな贅沢な気分になれるのも北海道ならではのだろう。

海岸の車道を終点の御崎漁港まで行ってみる。昆布漁の最盛期で、道端に昆布がいっぱい干してある。漁港にも温泉が湧いていて無料で自由に入れるが、ここまで来る観光客はほとんど見かけない。もっぱら村人専用のものである。

今夜も泊まりは道の駅。夜半トイレに目を覚ますと、海にはきょうもイカ釣りが

り、キャンプ場も併設され、目の前に恵山(618m)が荒々しい姿を見せていた。芝生の上にテーブルを出し、あす登る山に乾杯した。津軽海峡の夜は、イカ釣り船の灯がいくつも輝いていた。

一夜明けてきょうも快晴。海岸から道標に従って山に向かう。大きな観音像を横目に恵山温泉を過ぎ、山上の賽の河原までよい道がついている。賽の河原は恵山の鞍部で、トイレ舎や休憩所が建ち、広い駐車場がある。目の前には荒れた山腹から盛んに噴煙が立ち昇っていた。

先ず恵山と反対側にある海向山を目指す。この山も今西博士の登頂記録で知った山で、もちろんよい道がついている。駐車場から草原のなかに道がのび、山麓の林のなかにもたくさんテープが付いている。1時間半程で頂上に登りつく。黄色いツブキ・紫のリンドウ・ヤマアジサイが咲き乱れ、展望もすばらしく、正面に恵山が荒々しい肌を見せていた。

賽の河原に戻ると車が1台登ってきた。登山の人かと思っていると、中年の男女がポリバケツを下げて山の方に向かって行く。いつの間にか霧が立ち上がり、恵山を包み込む。

の漁火がこうこうと輝いていた。

翌日、有名な水無温泉に向かう。恵山峠は車道が開通してないので、御崎からほんのわずかの距離を大廻りして行く。恵山が激しく海に落ち込み、道路がつけられないためである。

海岸にある水無温泉は岩盤にコンクリート囲いをしただけ。潮の干満に影響され、いつでも入れるわけにはいかない。私たちの行ったときもお湯は少なく、そばで護岸工事をしているので、裸になるのは気が引けた。

亀田半島の海岸を北上する。周辺は真昆布の有名漁場で、村々は昆布でいっぱい。幅30cm長さ4〜5mもの巨大な昆布が干されているのは壮観である。もちろん養殖物だが、普通に見慣れている昆布とは全く違う大きさであった。

南茅部町の川汲温泉のキャンプ場を覗く。ここはガイドブックにも記載された台場山の登山口なのだが、管理人は「登山道は崩れて登れない。またキャンプ客の不始末で、熊が出て困る」とも話していた。

大船の堅穴遺跡はまだ発掘中だが、たくさんの土器が展示され、中の一つの土

山に登って行くと、先刻の人たちが何か摘んでいた。訊ねると「ガンコウランで、このままでも食べられますよ。果実酒をつくります」とのことである。周辺を見渡すと、一面ブルーベリーのような実がいっぱい付いている。妻はたちまち目を輝かし、もう登山などどうでもよいという顔をしながら、私は「時間があるから下山してから」と促して恵山に向かう。

高原の権現山登山口には、山頂まで1979mとあった。道は火山礫のなかにつけられていて、所どころ蒸気が吹き出し、硫黄の臭いが漂う。霧が荒れた岩肌を包み込み、妖気が高山の雰囲気と漂わせる。

山頂台地に登りつくと、驚いたことに緑が広がっていた。登山途中には全く草木がないのに、山頂には植物が繁っていて、何か心休まる気分になった。

石垣に囲まれた小さい神社には、恵山の名板が入っていた。霧が噴煙か、硫黄の臭いも漂い、展望は得られなかった。下山にかかる時、いつしか霧が晴れ、高原台地が広がる。登りと全く違った穏やかな山容が眺められた。

人形がすばらしかった。私はこの遺跡のことは全く知らなかったが、一見の価値のある所である。しかし後日、火災で遺物が損傷したと、テレビが報じていた。残念なことである。

さらに北上して鹿部町の間欠泉を見る。囲われていて有料だが、10分おきに10分くらいの高さに細い湯が噴出していた。駒ヶ岳を半周して森町に入る。スーパーで食材を仕入れ、良い温泉と聞かされていた八雲温泉に走る。車の旅は行き当たりばったりの気楽な旅でもある。

八雲温泉「おぼこ荘」は町営温泉で、天然の湯が流れる露天風呂は感じがよかった。料金も1泊5950円と安いのだが、隣のキャンプ場に無料で泊まった。地図を見ると、ここはもう日本海が近かった。

ここは百名山雄針岳の登山口だが、天候不良で登山は断念した。その後私の旅はさらに続いたが、最後は小樽からフェリーで舞鶴に戻った。

＊「北海道百名山」には、北海道新聞社と山と溪谷社のものがあり、合計で119山ある。(平成14年夏)



時空に遊ぶ

## 飯豊連峰漫歩

湯浅康夫

東北

8月下旬に3人で飯豊連峰を縦走した。花にはもう遅いだらうと期待していなかったが、さすがに花の飯豊といわれるだけあって、いたるところにお花畑があつてまだたくさん咲いていた。

京都から夜行バスに乗り、新潟駅でJRに乗り換え、磐越西線の山都駅に降り、タクシード川入キャンプ場まで入った。川入口の飯豊鉱泉あたりの民宿で1泊し、登山に備えてゆっくりと英気を養えばよいのだが、なにせわれわれはせっかちであすまで待てない。タクシーを降りるとすぐに歩き出す。

飯豊山には山岳信仰の飯豊神社があり、縁起は古く開基は役の小角といわれている。

戻ると前方に三國岳とその左手に奇観の疣岩山が見えてきた。疣岩山のその形は言い得て妙と言うしかない。ある角度から見ると「起き上がり小法師のおもりが壊れ傾いたまま」にも見え、別の角度から見れば「うかつにも孕んだ悪魔の胎」にも見えるのは小生だけか？。その疣岩山は今回のコースに入っていない。剣ヶ峰の岩峰はタフな岩登りで、スリルを楽しんだ。

三國岳(1644m)は今では文字通り三県の県境だが、江戸期は大藩の会津藩28万石・松平肥後守が福島・新潟側二国を封され、米沢藩15万石・上杉中将が山形側を封されていた。その三國小屋の

る。飯豊の語源は長くなるのでここでは触れない。その表参道である御沢小屋跡から取りついて行くと、一本でもって森となせるようなブナの大木が何本も目を楽しませてくれる。いきなりの急登を突き上げて行くと溝のようにえぐれた道になり、汗がしたたり落ち木陰が心地よい。全コースともよく踏まれ道標もあり、さらに今回のように5日間とも天候に恵まれば、まず迷うことはない。

中十五里は最初の水場、銀名水でポタポタしずくをベットのボトルに集める。冷たくて美味いがいかに辛気くさい。上十五里から笹平はアツプダウンのあつた細尾根で、その先の峰秀水で水が豊

泊まりはわれわれ3人だけの貸切となり、初日の夜でご機嫌となり、毎度のことながら2日分のアルコールを飲んでしまい、自己管理ができない自分を恥じた。

2日目、三國小屋を出るとここより全コースにコゴメグサ・ウメバチソウ・タカネツリガネニンジン・ミヤマハコグサ・タカネマツムシソウやハクサンフウロが見られた。七森の岩場を行くとウラジロナカマドが初めて出てくる。2日連続の岩登りとなり、このコースを下山にとらなかつたことを素直に感謝した。天空はあくまでも爽々で紫外線止めを持って来なかつたことを悔やんだ。



秋差岳にて(標石は3等三角点)



富に湧いていて、たらふく飲めた。炊事の水もタツプリと確保しておいた。次の三國小屋手前の水場を見ると水は濁っていた。

地蔵山(1485.2m)へ三角点の写真を撮りに往復コースを行くが、標石は設置されてなく、お地蔵さんが一体あるのみだ。アサギマガラが飛翔し、ヨツバシオガマ・エゾシオガマが咲いていた。

種蒔山(1791.0m)でも三角点を探すが標石はない。ゴゼンクチバナの実、ハクサンシクナゲの蕾を見つけ、このあたりは大お花畑だったみたいでテンションがたかさんの実を付けていた。

切合小屋では2人の管理人が小屋の撤収を始めていた。この日が最後で、われわれの姿を見ると「水を汲んでいけ、トイレも使え」と言ってくれた。水は豊富で、トイレを見ると自慢するはずでピカピカだった。管理人は「きょうはこの夏で最高の展望」と言い、南東の山から磐梯山、安達太良山、吾妻連峰、雲海があつて魔王、また雲海があつて朝日岳と同意定してくれた。いつもはガスられて見えないそうさ。圧倒される景色に息をのみ、しばし茫然とする。

切合小屋を過ぎると草履塚で江戸期にはここでワラジを履き替えたという。出典は忘れたが旅人はワラジを一日に二足履き替すと書いてあった。ちなみに現代の「新ハイの例会の沢登り」ではワラジは2〜3回使えるというから、この時代の旅がいかに過酷だったかがわかる。今から行く飯豊山(1等2105.1m)・駒形山(2038m)・御西岳(3等20

12・5日)・大日岳(2128日)と雄大な姿が迫ってくる。高度の優位は大日岳に譲っても飯豊山の造形の美にはかなわない。ハイマツや雪渓が見られるようになって縦走路が前に後ろに尾根を通してよく見える。ノウゴウイチゴの実やクロマメの実を見つけて食し、不足しかなビタミンやミネラルを自然界から摂取することに。御秘所」は神域に入る前の岩場と言われているが、他にも語源があるに違いない。岩に丸い赤ペンキ印が書かれたところが御前坂だ。

地元では飯豊山のことを飯豊本山と呼び、小屋の名前も本山小屋と呼ばれる。髯を蓄えた管理人が1人いて「クマさん」と言う。クマさんは48日間ここにいてその間一回だけ帰り、きょうが最後だと言う。神社に鐘があったのでみんなで撞いた。三角点は15度東に振っていて写真に残す。P1998日を南に捲くと眼下の雪渓が解けてガスが吹き上げていた。

御西岳から南西に大日岳を往復する。分平ノ池から急登となり、飯豊連峰最高峰大日岳に登頂した。北側を見ると、あたかも熊に爪を立てられて削られたような飯豊川の幾筋もの深い沢と、北股岳か

らおういんの尾根がバッチリ見られ、飯豊連峰の険しさと山塊の奥の深さをまざまざと見せつけられた。御西小屋での今夜の泊まりは二階に若者3人と一階にわれわれ3人の6人だった。

3日目、御西小屋を出るとコバイケイソウの白い実が斜面をおおい、大きな雪渓が広がる。雪渓とスポーツドリンクでシャーベットをつくらうと、急な斜面を降りて行くハクサンコザクラが「はにかんだ清楚な少女」を思わせるように咲いている。雪渓でメンバーの1人がテルモスをカランと滑落させる。あつという間に数百日は落ちたであろうか、人間でなくてよかった。

天狗岳(1979日)からイイデリンドウが出てきて、イイデリンドウ街道と名付けたいくらいだ。モミジカラマツも大群落だった。御手洗ノ池の近くはカエルがうようよいて踏みそうになる。烏帽子岳(3等2017・8日)では風にのってキアゲハが飛翔していた。梅花皮岳(Ca・およそ1850日)には角のない標石に「主三角点」とあり、明治期の農商務省山林局で国有林野の境

界測量を実施した時の呼称だそう。梅花皮小屋の水場は溢れていてシャツを洗う。あたりを見回すとだれもいないので靴下も下着も脱いで、頭から水を浴びると生き返ったようだった。

梅花皮小屋で人待ち顔の女性が一人いて、昨夜の事件を語ってくれた。石転び沢を登ってきたら、名も知らない単独行の青年が転んでメガネをなくし、探していたが暗くなってよく見えなくなり、いっしょに野宿をして今朝、探し当てた。夜は雪渓が解けて岩がゴロゴロと崩壊していた怖かった。先に来て待っているのがまだ来ないと言う。1時間以上待ち続けた後、見切って出発していった。

北股岳(3等2024・9日)からギルドの池は全コースに咲いていたトリカブトが特にきれいだった。門内岳(1887日)の門内小屋泊まりは、われわれ3人だけだった。

4日目は胎内山の手前でハクサンイチゲを見る。扇の地紙で梶川尾根を背に西を見ると二の峰がよく尖っていて一の峰が続く。地神山(2等1849・6日)・地神北峰(Ca1780日)と行くが、地紙

とか地神とかややこしい。

頼母木山(1730日)・大石山(1567日)から鈴立峰(Ca1590日)を経て杖差小屋に着くと、1人の男性がラジオを聴きながらランプの修理をしていて、その人にコーヒをいただく。訊くとそのD氏は写真が趣味で、一年のうち半年ほど杖差に入っている。週末は混むから下山するが、平日は小屋を別荘代わりにつかっていると言う。杖差は、新潟県蒲原平野から雪渓を見ると田んぼを耕す杖という歌のような農具の形に残雪が見えるからと言いつ、麓の人は田植えを始めるからと言いつ、麓の人は田植えを始めるからという説があるとか。このあたりの実になっている植物はヒメサユリだとも教えてもらった。

杖差岳(3等1636・4日)の山頂から今から戻る鈴立・大石・頼母木がよく見えた。

最終宿泊所の頼母木小屋で7〜8人の食事となる。人なつっこいT氏はワインを1杯とウイスキーを持ち上げてきていて宴会となり、最上山岳会のK氏はきょう、石転び沢を登ってくるときに滑落し、頭と指を怪我したそう。登って頼母木

に泊まる方が、石転び沢を下るより安全と考え、3泊の予定を今夜1泊とし、あすわれわれと同じルートで下山するそうだ。彼も余ったビールを放出してくれ、アルコールに溺溺していたわれわれには何よりありがたいことだった。

それにしても石転び沢の大雪渓は1年で今が一番危ないときだそう。次回来るなら安全な7月に石転び沢の大雪渓から登りたいと思った。

A氏は無線でしきりに交信していた。きょうわれわれが歩いたコースで60代の男性が熱中症で亡くなったという。そういうえば昼間、ヘリコプターが旋回していた。幻覚症状でザックを放っぽり出し、炎天下を裸足で歩いていたらしい。ご冥福をお祈りする。

星のきれいな夜で流れ星も見られ、T氏が双眼鏡と星座標を出して来られ、わか星座教室となった。

5日目は地神北峰から北東に丸森尾根を下山する。始めは石コロだらけの道が、溝状になり灌木帯に変わり、丸森峰はちょっとした小ピークだ。灌木のトンネルとなり、涼しくなった。ミヤママコナやホ

ツツジが出てきて里に近づいてきた証拠で、ジャノメチョウの仲間やアキアカネも多く見られた。

飯豊山荘で汗を流し、再び夜行バスに乗り、余韻に浸りながら京都への帰路についた。(平成14年8月27日〜31日歩く)

▲参考タイム▼

- 〈8月27日〉JR新潟駅8・23(電車)山都駅10・25(タクシー)川入キャンプ場11・30―地藏山16・10―三國小屋17・25(泊)
  - 〈8月28日〉三國小屋6・35―飯豊本山13・20―御西岳14・55―大日岳16・25―御西小屋17・40(泊)
  - 〈8月29日〉御西小屋6・35―烏帽子岳9・50―梅花皮岳10・30―北股岳13・25―門内小屋14・35(泊)
  - 〈8月30日〉門内小屋7・15―胎内山7・30―頼母木山8・50―大石山11・10―杖差岳13・05―頼母木小屋16・10(泊)
  - 〈8月31日〉頼母木小屋6・20―地神北峰7・10―飯豊山荘11・00―15・37(バス)JR小国駅17・34(電車)JR坂町駅18・58(バス)JR新潟駅22・05
- △地図▽昭文社「飯豊山」

## 雪の壁と強風の（ひと夏に二回登頂記）

# 鳥海山

日野節雄

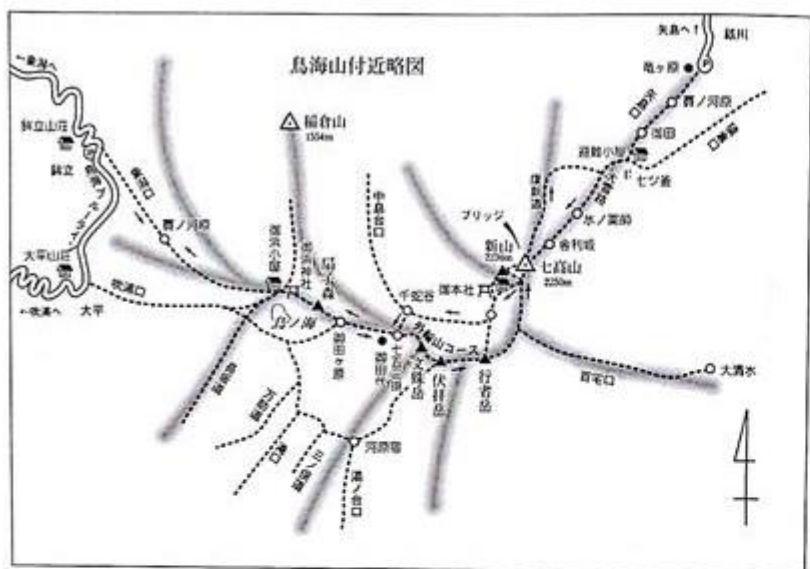
東北

鳥海山は秋田県と山形県にまたがる独立峰で、一年を通じて雪渓が残るので、高山植物が多い。

平成6年7月に山仲間と登り、御浜小屋に泊まったことがあり、思い出多い山だ。今年7月にY会で行くことになってしたが、8月の「新ハイ本部山行」にも申し込み、ひと夏に二回の登山となった。それはお花畑と展望を楽しみに……、二回のうち一回は出合えるだろうとの思いからだ。

### 一回目

7月19日、夜22時に赤羽駅前を出たマイクロバスは、蔵川に6時30分に着く。



ここから見る鳥海山は、万年雪と広い裾野をもち、富士山に一番近い山容というが、今朝は雨のなかだ。竜ヶ原の広い駐車場に雨具を着て出発する。湿原の木道を行くと階段状のきつい登りになる。30分も登ると木道があり、前は雪の壁だ。アイゼンは15名中3人しか持ってきていない。私より足弱の人がいるので「ここは登れないよ」と言うと、リーダーは左の方にトラバースしてみるが、ルートではないらしい。雪壁をアイゼンを着けて5〜6人の若者は登って行くが、私たちは諦めてくださった。その途中、これから登るといふ若い男性に会い、ルートを教えると言うので引き返す。しかしそれは

登る。後で足を見ると、右足人差し指の爪が割られていた。やっと左の土道に入ってホッとすると、避難小屋のある分岐に着いた。昼食だが、私はキジ打ちに時間をとられた。

新道という文字を右下に見つけたが、リーダーは正面の左下がりの雪渓に入る。対岸はガスで見えない。先に行った男性の足跡もアイゼンの跡も全然ない。後で地図を見ると、左下は「奇勝七ツ釜」という滝だった。スリッパしていたら大変な所だった。対岸に着くと二股になっている雪渓だ。右に行ったが違わずらしく、左に入ると30分ぐらいた先の枝に、ピンクのエフ（リボン）を見つけた。私はこれ

伏拝岳より新山（平成6年7月17日撮影）



先程の雪壁で、ほとんど真上に、アイゼンを着けずにはさっさと行ってしまった。リーダーは雪に足を蹴り込んで登り始める。私はこのコースに反対しながらも、後の方からおそるおそる足を強く、強く蹴り込んでついて登った。雪の下はきつと階段だろうと思いつつながら。

一段落してから先が見えない雪渓に入る。蹴り込んで、蹴り込んで一歩ずつで助かったとホッとした。左傾斜の長い雪渓で、ここが地図でいう「大雪路」とわかったのは、今、この紀行を書きながら地図を見て知ったのだ。休憩して、グレイプフルーツを食べたのは「氷ノ薬師」だったとわかったのも今だ。

雪渓からやっと抜け出し、右に沢を見ての急登になる。ここで女性が頭から落ちるといふアクシデントが起こる。幸い腫れも出血もなく、30〜40分休んだだけで歩き出した。

「一般ルートの中では鳥海山」の「難路」と昭文社のエアリアマップにあるが、私はこれを読まずに参加したのは、一度登って美な山と馬鹿にしていたからだ。「出羽富士」の称号がある山容は、一步山へ踏み込むと、峻険、切り立つ断崖、断崖に肝を冷やす山だったのだ。

また雪渓に入り、階段になると、先程の男性が降りてきた。「階段状をジグザグに登れば七高山」と言うが、随分長い急登で「舍利坂」という所だろう。七高山の1等三角点は、この前の感触が残っている気がして、そのときの展望は「雲海だった」と記録している。時間も遅く、展望もないので早々に出発する。スノー

ブリッジがあるとはかり思っていたのに、急勾配の岩石を降りきると、雪は崩壊してガッカリした。この前のときは、新山からくだって七高山に来るときに渡ったのであって、右には雪がいっぱい残っていたから、スノーブリッジは今回もあつたと思う。ガレ場を登り返すと残雪の先に赤い屋根を見つけた。

みんなずぶ濡れで大変だった。先着の人の物で干す場所がない状態だった。込んでいたが、二畳に3人ぐらいたつたから良しとしよう。しかし食事は評判どおり悪い小屋だ。食後のお茶も出ないのだから。

朝、神主が一生懸命祝詞をあげていた。神社の石垣には、今回もチョウカイフスマが咲いていて感激した。ガスで展望がないからと、新山に登らず下山と決める。長い長い歩きやすい階段が続く、歩きにくい道になったり、小さい残雪が出てくると、登って来る人に会うようになる。鉄梯子になり込み合う。その先が七五三掛だった。先年山仲間と来たときは、ここから神社の下すぐまで雪渓を登ったが、今回は岩と雪渓の間が空いたシニルンドで歩けない。

## 二回目

8月9日、夜22時に暑い上野駅前を出発したマイクロバスは、途中朝食をとって鉢立に6時半に着く。

今回、新ハイキングリーダーは初めてというTさんは、いつもは歩くのが速いのだが、きょうはゆっくりと歩いてくれる。左に流を見て賽ノ河原まで石畳を歩く。チョウカイフスマ・オクキタアザミの見分け方を、Tさんは本を持って説明している。その他ニッコウキスゲなど花も多い。岩石の急登となり、石段になると御浜神社だ。山頂の方は今回も雲の中だが、鳥ノ海は見えた。相変わらず大勢の人だが、雨ではないので休憩200円の小屋の中には入らなかった。ゆるい道を登ってくだってさらに登り、御苗代で休憩する。昔はサンショウウオが棲んでいたという所だが、今は沼池が残るだけだ。七五三掛で以前山仲間とくだって来た外輪山コースに入る。ハイマツの根は今はさほどではない。このコースは蛾蛾たる山頂の連続する光景が見られるのだが、きょうは視界がないので残念だ。文殊岳付近で、岩に張り付いたひとかえりもあるチョウカイフスマの花の盛りに会えて

御浜へは長い石畳の下りがあり、上りが続く。

花も見えず、景色もなく、ただひたすら歩いたようだ。御田ヶ原は広く、屬子森から岩場をくだると御浜神社で、社は小屋の中にある。中を覗くと、以前より大きくきれいになって、大勢の人が休んでいた。特に外のトイレが立派なものに驚いた。

御浜から石段をくだり、賽ノ河原から鉢立の建物が見えるが、それは遠い道程だった。

糖しかった。伏拝岳あたりからガスが雨となり、雨具を着る。梯子があり、左に切れ落ちた断崖があったりして、行者岳に着く頃は暴風雨となり、吹き飛ばされそうになる。風は前からと思うと後ろからきたりと回っている。後ろにいた女性は、私の左手をグッと握って離さない。後で聞けば、旦那の手もこんなに握ったことはないと言っていた。なにしろ遠いところばって、御室への道を左にかわし、やっと登った所が七高山だった。ここはなぜか風が弱まり、ホッと人々確認をしたほどだ。

舍利坂を少しくだと、先日登って来た大雪路の道と、康新道の分岐に出た。予定は大雪路だが、アイゼンを持ってきていないので新道に入る。なんとステンレス製の鎖が張ってあり、石積みの階段は新しく、急だがずっと続いていく。途中昼食をとり、道がゆるくなると一般の登山道となり、大きな口を開けた雪渓の上に出た。避難小屋付近だが、みんなが急いでいて七ツ釜にも行かず、後悔した。右岸に渡りくだると、先月の土道から雪渓に入るが、スプーンカットだからアイゼンはいらないほどだ。雪渓は先月

2003年  
群馬、奥日光名峰トレッキングプラン



**関西向けオリジナルプラン** ……(駅からの送迎、3日間のガイド、宿泊料(弁当付き))

◎関東以北で一番高い奥白根山登山と尾瀬ヶ原を合わせた贅沢なプランです。

●初夏のプラン 7/16(水)~7/18(金) 2泊3日間 24,000円 コスモス2泊

(1日目) 上越新幹線土毛高原駅12時30分集合-関東一のラベンダーの玉原温泉散策

(2日目) ゴンドラを利用してシラネアオイ咲く奥白根山登山

(3日目) 鳩待峠よりキスゲほか花の美しい季節の尾瀬ヶ原散策-16時30分土毛高原駅解散

●秋のプラン 10/7(火)~10/9(木) (料金・行程は夏に準じる)

**1泊2日コース** ……12,000円(駅まで送迎、ガイド、宿泊料込み)

(初日) JR沼田駅12時15分お迎え-足慣らし軽いウォーキング

(2日目) 登山口まで送迎、ガイド付き、下山後最寄駅まで送迎します

- ・6/28(土)~29(日) 女峰と帝釈山 ・7/12(土)~13(日) 尾瀬の花めぐり笠ヶ岳探訪
- ・7/26(土)~27(日) 女峰と帝釈山 ・8/2(土)~3(日) 上州武尊山縦走-前ヶ谷から沖ホタカへ
- ・8/23(土)~24(日) 原始的な自然美の皇海山と鉾山最高峰
- ・8/30(土)~31(日) 四郎岳と燕巣山 ・9/6(土)~7(日) 奥日光太郎山登山
- ・9/20(土)~21(日) 女峰と帝釈山 ・9/27(土)~28(日) 上州武尊山縦走

(お申し込み・お問い合わせ) ペンション **コスモス**

〒378-0414 群馬県利根郡品村丸沼高原ペンション村  
TEL 0278-58-3725 0120-58-3725 FAX 0278-58-3976  
URL <http://www.cosumo.jp/> E-mail [info@cosumo.jp](mailto:info@cosumo.jp)

よりずっと短く、階段だらうと思つた所は岩石の道で、花の楽園と化していた。雪の壁にとまどつた木道に来て、急坂をくだると急流の沢音を右に聞いて、マイクロバスの待つ鞍川に出た。

花は堪能した。けれど景色は全然駄目の山旅二回だった。

(平成14年7月20・21日・8月10日歩く)

- ▲参考タイム▼
- (一回目) 鞍川7・30-猿倉口分岐避難小屋11・20-七高山14・00-御室小屋14・30(泊)-6・30-鉢立11・40-12・10(バス) 鳥海温泉入浴50分(バス) 酒田みなとインター14・00(バス) 赤羽駅21・15
  - (二回目) 鉢立6・45-賽ノ河原7・40-50-御浜8・40-50-七高山12・00-康新道(昼食30分)-鞍川15・20(バス) 鳥海荘16・00(泊)
  - △地形図▽2万5千:鳥海山
  - △連絡先▽鳥海山頂上参籠所
  - 鳥海荘 0234(77) 2301
  - 0184(58) 2065
- △費用▽二回とも2万円前後

ササの海を歩く

# 谷川岳から白毛門へ

妻鹿 ひろ子

上越

谷川岳は懐かしい山である。

私が子どもの頃は、魔の山としてその名を知られていた。

冬の夕暮れ、仕事から帰ってきた父が夕刊を開くと

「また、谷川だ！」

と、興奮気味に叫ぶ。夕刊の一面に

「谷川岳で遭難」

の大見出しが踊る。それから父は谷川が世界に類を見ないいかに困難な山か、多数の遭難者を飲み込んだかを得々と語る。その口調は「恐ろしい山だ」と言いながら、どこか自慢気で、その手ごわさを褒め称えているようにさえ聞こえた。

私は、子ども心に山を怖がるどころか、

憧れに似た関心をもった。

初めて谷川岳を見たのは、高校一年のスキー旅行だった。深夜に出発したバスが沼田を過ぎ、チェーン着装のため道端に止まった。バスを降りると雪原の彼方に朝日を受け、バラ色に輝く谷川岳があった。だが、あれが谷川と指を差す。その美しい姿は今も忘れられない。

谷川岳の美しき、真骨頂は厳冬期にこそあるのだから、私など手の出せるものではない。

夏の谷川岳は、チンマザサにおおわれ、標高20000呎の垂直高ながら、その風雪の厳しさに樹木が育たない。どこまでも、うねり広がるチン

で半分という所に、ベンチまで置いてある。見下ろしても見上げても、階段の両端は霞のなかに消え、オカルト映画のようだ。ようやく無人駅の改札を出る。ロープウェイ駅までは30分程車道を登る。水上駅からロープウェイ行きのバスにすればよかったかなと思うが、遭難碑を見たらだったので、がんばるしかない。

780余名の名を刻んだ遭難碑は、初めのほうは風化して文字も消え、湯桶留川を見下ろす芝草のなかにひっそりと立っていた。

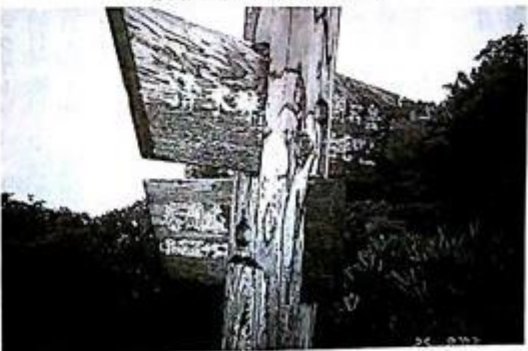
ロープウェイを降りると、視界10呎程の濃いガスのなかだった。

ゆるやかな天神尾根に行く。熊穴沢の



ここまでは整備されたファミリーコースだ。老年の人も家族連れも登っている。オキノ耳から先に行くのはテント山行の男性と私たちだけだった。男性は先に出発した。

巻機山へのジャンクション



マザサの海だ。

8月24日、8時40分、JR大谷駅のホームに敦賀のマドンナと降りた。日本一のモグラ駅と称するトンネル内のホームから、およそ500段の階段を見上げると、先端は蛍光灯の淡い光のなかに霞んでいる。所どころ、階段数を書いてある。染み出た地下水が階段を濡らし、私たちの息遣いと足音以外何も聞こえない。ここ

「じゃあ、一足先に行って、遭難小屋に、2人連れが遅れて来ると言っておきます」

「お願いします。ヘバヘバでのびていると言っておいてください。茂倉の遭難小屋で泊まっているかも、ってね」

「アハハハ、じゃあ、お先に」

谷川岳浅間神社にお賽銭を上げ、神妙に手を合わせて、私たちも出発した。ここから数百人の命を奪った一の倉沢の上部を行く。右手がすっぱりと切れ落ちた稜線歩き、ノソキに出た。岩稜の真下に絶壁が口をあけているはずである。その尖った岩のてっぺんに大きな蛇がしどけなく、とぐろを巻いてビクとも動かない。

「ここで昼寝してるんだもんね。お前たちには覗かせてやらないもんね」と、マイ・ワールドを決め込んでいる。仕方がない。長いものには巻かれるというじゃない。覗きは諦め一の倉岳の急登にかかると。

テントの男性が休憩していた。

「追いつかれちゃいましたね」

「荷物がいっぱいなんです」



笠ヶ岳から朝日岳

「来た！」と、小さく叫ぶ。ライトが分岐のあたりに見えたという。小屋のなかの空気がほっとゆるむ。

「着いたら、お説教しますか」

「説教なんかしません。ああいう人たちは言っても無駄ですから。もちろん自分の仲間や知人なら怒りますけどね」

「ええ、って自慢話にしそうですね」

「そうかも知れませんか」

と話しているうちに、ようやく5人が到着した。下と何度も無線交信し、みんなに心配かけたなどと、夢にも思っていないようだ。女性1人を含む40・50歳代の体力のありそうなグループだ。9時に土合を出発したという。途中で1人、足をひねったが、歩くには全く支障ないと言っている。どうして、こんなに時間がかかったのだろう。しかし小屋番とのチグハグ

一の倉岳から茂倉岳への稜線は草原の広い尾根だ。ウメバチソウ・アキノキリンソウに混じり、タテヤマリンドウが青い星をばらまいたように一面に咲いている。

茂倉岳から、銀緑の波となつてうねるチンマザサの斜面を、一気に400mをくだる。笹平でガスが晴れ、武能岳が前方に高く姿を現す。あれを登るのかとうんざりし、振り返れば、今くだってきた茂倉岳はさらに高い。武能岳を越えればひたすら蓮峰にくだるだけと、自分を励まして登るが、200mの登り返しは見ただ目より楽だった。小さなピークをいくつか越え、ようやく黄色い蓮峰小屋が見えてきた。ササ刈りは来週ということで、胸まで埋まってササを漕ぐ。ズボンも靴もドロドロだ。少し遅れてテント泊の人が着く。きょうの小屋泊まりは7人ということだが、5人グループがまだ着かない。

「予約を入れても半数は無断キャンセルですわ」

と、小屋番は淡々と言うが、5人分もの余った食事は処理に困るだろう。

マドンナが「あすが私の誕生日」と話

なやりとりや、コース説明の不十分さ、寝具のシュラフを見て

「寝袋は初めて。どう使うの」

などという会話から、初心者グループをわずかに経験のあるリーダーが連れてきたようだ。ここはけっこうきついコースだ。計画自体、無理だったのではない

豊朝は5時半に出発した。出発前にテントの人にあいさつに行く。彼は、私たちがこれから行くコースを先週縦走し、昨日残り半分を歩いたので、きょうはゆっくり下山すると言う。小屋脇の分岐まで見送りに来て、

「清水峠までササが胸まであるので、カッパを着ないとびしょ濡れになりますよ」と、アドバイスをしてくれた。小屋番が「また来てください」と言うので

「今度は20人ほどの団体を連れてこようかしら」

と言うと、こんな小さな小屋にとんでもないと一言で断られた。

ササ刈りの済んでいない、七つ小屋山への道はルートも読めないほどササが深く、頭以外は濡れになった。

していると、小屋番がおしゃれなカップにクリームまで添えて、「おめでとう」とコーヒーを差し入れてくれた。

18時頃、下の連絡所から無線で、5人組が武能岳手前のペンキ印を通過したと携帯電話が入ったと言ってきた。19時位の到着か。どういうプランを立てているのだろう。最近では信じられないような非常識な登山者が増えたと話しているが、いつまで経っても到着しない。日はとっぷり暮れて、激しい雷鳴がし、雨が降り出した。視界は20m程しかない。小屋の灯は彼らに届かないだろう。下からは時々無線で、到着したか問い合わせが入る。ペンキ印を通過してから時間がかなり過ぎる。風雨は激しく、小屋番は窓から闇をすかして見るが何も見えない。屋でもわかりにくいササで、ルートはずしてはいないか気にかかる。泊まりに来ていた小屋番の友人と小屋番が

「捜しに行かなくてよいのか」

「今の段階では待つより仕方ないだろう」と、ひそひそ話している。

20時近くになって、外を見ていた小屋番が

きょうもガスは濃い。視界10mの白い空間をふわふわと歩く。

朝日岳への400mの登りが一番きついと思っていたが、小屋番は

「一番の難所は白毛門の下りです。朝日岳へは大きな段が二つ。昨日の茂倉岳は三つあったでしょ。きのうより楽ですよ」

と言ったが、どこが一段やら二段やら、ただ濃いガスのなかを黙々と登って行く。山靴の音と、ときに枝をこするガサッという音がするだけだ。

白いイワシヨウブの咲く湿原が所どころにある。穂だけになったキノコウカも多い。小屋番は10時にはガスは晴れると言ったが、晴れる気配もない。

朝日岳直下のゆるい鞍部にさしかかると、眼下に幻のように池が浮かび上がった。目を凝らすと、池は一つ、二つ、三つと数を増やし、あっという間に空が晴れ渡った。池塘の間を湧き水がさらさらと流れ、木道がのびている。もう草紅葉が始まっている。なんと穏やかな美しい所だろう。見はるかすかなたまで、ゆるやかな起伏を繰り返す山脈は、私の大好きな飯豊に似ている。朝日岳の上でキャ

オリジナルザック & 登山用品専門店

新製品紹介

◆ウオーキング W◆

2気室切替式短期縦走モデル

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

★32/★

カラー ミントグリーン×モノクロ  
マゼンタ×モノクロ

●重 量 1550g

●素材 高密度ナイロン

●価 格 ¥15,000

★28/★

カラー マゼンタ×モノクロ  
ネイビー×モノクロ  
レッド×モノクロ

●重 量 1400g

●素材 高密度ナイロン

●価 格 ¥13,000

・両室内ジッパー付き小ポケット

・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変換することが出来、ザックの型くずれを防ぎます。

・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用

・フロントポケットはメッシュとゴムコード付

・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。

・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。

イモック山遊行くらぶ

6月22日(日)  
日本海の見える  
☆高尾寺ヶ岳(697m)に  
登ります

○詳細はお問い合わせください  
イモックと  
登山です!!

OUTDOOR SPORTS SHOP  
**IMOCK.**  
KOBE

T 083-0230 神戸市東灘区日高町3丁目1番30号  
カナノビル2F

TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528

■営業時間/10:00-20:00 ■日曜日不営業



新ハイ関西71号  
標高△△71mの山

**以東岳** (1771m)・朝日連峰  
**奥長倉山** (1771m)・白山系  
**大長山** (1671m)・白山系  
**藤原岳** (1171m)・鈴鹿

以東岳

霧だったが、すばらしい山だった。朝日連峰の主稜線を北上し、竜門小屋から寒江山を通り以東岳までの道のりは、広大なお花畑が続き、まさに天上の楽園だった。ニッコウキスゲ・クルマユリ・ハクサンイチゲ・ハクサンシャジン・チングルマ・マツムシソウなどの花々、そしてその間には池塘もあり、もううっとりとする稜線だった。

山頂にある避難小屋も清潔で、翌日にくだる方向に大鳥池が霧のなかに見え隠れする風景も印象的だった。

りはなかった。七倉山までの尾根の道りは通かな遠さを感じられた。



奥長倉山から白山本峰を望む

奥長倉山

白山はたいいてい避難小屋がしっかりとして美し造りだ。今回は、以前加賀側の表参道として来た加賀禪定道の中間にある奥長倉山を往復することにした。その山頂直下に奥長倉避難小屋があるからだ。

白山一里野温泉の少し奥にある槍新宮参道を利用することにした。12月とはいえ、その年は雪が少なく、まだ晩秋といった感じのなかを登った。メンバーは山の会の岩井さんと高橋さんの3人である。しかり場分岐で、ひとつ下流の尾根から上がってきた加賀新道に合流した。

後ろには笈ヶ岳と大笠山が深い丸石谷を隔てて雄大に望まれた。こちらがまだ低い位置にいたので、二山がなかなか立派に見える。特に笈ヶ岳は尖っているぶん、量感豊かな大笠山に比べて見劣りするくらいがあるが、ここからの眺めは非常に見栄えのする山容だった。

予想通り避難小屋は快適だった。すぐ上に山頂があり、白山本峰の眺めは格別だった。雪が少なくて真っ白の白山ではなく少々残念だったが、優美な姿に変わ

クに白い枝が朝日に浮かび上がる光景に山の畏れを感じた。

下山後は一里野温泉の天領の美しい露天風呂でゆったりと山旅の余韻を味わった。(平成12年12月9日〜10日歩く)  
 ▲コースタイム▽  
 中宮温泉・新岩間温泉分岐(7時間30分) 奥長倉山(4時間30分) 車止  
 ▲地図▽昭文社「白山・荒島岳」

大長山

白山の南方の主稜線は、赤兎山や経ヶ岳といった、それぞれに違った魅力のある1600m級の山々が連なっている。その中の最高峰が大長山だ。大きな山体でなかなか風格のある姿をしている。この山にまだ道が開かれていなかった頃、大山さんリーダーの4人の会山行で、小原より刈安山の西尾根から往復した。

山頂からは白山や別山が雄大に眺められ、凍てついた斜面はピッケルとアイゼンが必要で、なかなか爽快な雪山山行が楽しめた。山頂で乾燥した缶ビールがシャーベット状になっていたのが忘れられない。

藤原岳

福寿草でつとに有名な山だ。黄色の花が点々と咲く斜面は、形容しがたいほどの春の優しさに満ちている。

その美しさに魅せられて柔らかな土の上に足を踏み入れて写真を撮る人を見るのがいやで、私はつい注意してしまう。しかしその日は、声をかけたしばらく後で、先程の若い人が追いついて来て、「反省してます。もうしないようにします」と真剣に言ってくれたのを思い出す。

1771mは北のはずれの天狗岩の標高である。(平成6年4月10日歩く)  
 ▲コースタイム▽  
 聖宝寺(2時間30分) 天狗岩(3時間) 白瀬峠 由聖宝寺  
 ▲地図▽昭文社「霊仙・伊吹・藤原」



## 新ハイ例会・自然観察山行

# 白馬三山と唐松岳

鷺見守康

北アルプス

八方尾根から白馬三山を望む



山行を10日ほど後に控えた8月上旬のある日、帰宅すると過日受診した人間ドックの結果通知が届いていた。どうせまた「肥満に注意」とでも書いてあるのだろうと開封もせず放置しておいたが、晩飯を終え、風呂からあがってくつろいだ気分になったところで、「そう言えば……」と、通知書のことを思い出したのであった。

開封してざっと目を通すつもりが、消化器検査項目の判定に、目にはわかにか釘付けとなった。「二次検査を要す」。そして「上部消化管内視鏡検査を受けてください」とのコメントだ(内視鏡検査って、胃カメラのことじゃないか……)。

頭の中は真っ白になってしまった。先年亡くなった親父の「胃カメラだけは、もう死んでも呑みたくない」という生前の叫びと「胃癌」という言葉とが頭の中を駆けめぐる。激しい心の動揺を辛くも押さえながら、懇意にしている医療ソーシャルワーカーのA女史に電話した。

「そう……じゃあ、検査うけたら……」と、Aさんは冷ややかなほど落ち着いている。「15日から2泊3日で山へ行くんだけど……」「だったら、その前に検査したほうがすっきりするわね」とのやりとりの後、私が押し黙っていると「どうするの？うちの病院でよければ手配するわよ」とたまたまかけてきたのだった。

「大丈夫ですか？」とAさんの部下の若いBさんが私の顔を覗き込むように言葉をかけてきた。「男の人って、案外こういうタイプが多いのよ。いざとなると女のほうが図太いのよね」とAさん。電話が鳴って、これから診察室に来るようにとの知らせがきた。「一人で大丈夫なの？」立ち上がった私の背にAさんが追い討ちをかけるように言った。私は黙って肩を寄せ、振り向きもせず部屋を出た。

医師は私より若く、誠実そうな人だった。ちよっと真面目過ぎるのか「胃角部

後壁透視像とか、バリウム斑って……何ですか？」との私の質問に「胃が荒れるようですよ。……とにかく検査しましょう」と何だかやけにうるたえ「検査の日取りを決めましょう」とあわてた。私は手帳を括りながら15日より前を希望したが、医師の都合がつかないと言った。そして19日を提案してきた(ええ！山から帰った翌日じゃないか)。「都合悪いですか？」「……いえ、けっこうです」と決着。顔を上げると、医師の背後に、いつの間にかAさんがにこやかに立っていた。

### 大雷溪を登る

白馬岳までは7月の例会山行と同じ行程である。白馬村に到着したときには時間もたっぷりあったので、3日後の下山時の待合場所へバスで廻ってみた。いざとなれば携帯電話で連絡を取り合うこともできるのだが、私はさほど苦にしないのだが、待合場所が明確でないこと運転手は気持ちが落ち着かないようだ。猿倉荘に到着したのは午前5時であった。7月の「海の日」の土・日と比べると、やはり盆過ぎの白馬岳は比較的空いており、そこはかとなく寂しい気がした。

猿倉荘の女将のような女性に「雷」のことを訊くと、ここ数日は雷が続いていると言う。今回の山行は南海上に台風が控えている出発だった。台風に加え、雷の心配もなければならぬらしい。朝食後、6時過ぎに猿倉荘を立つ。盆を過ぎて山は秋花の季節となり、先月とは雰囲気が変わっている。白馬尻までの幅の広い道にはチョウジギク(キク科)が見られた。花姿が「丁」の字に見えるのが名前の由来で、めずらしい花のせいなのか、メンバーの多くが初めての出会いだっ



たようだ。

大雪渓では軽アイゼンを装着した。先月はガスに包まれて視界が悪く、ただ黙々と進んだが、今回、空に雲は多いものの見晴らしがきき、パーティの雰囲気は晴れ晴れとしている。大雪渓にびっしりと列をなして歩いた先月は、行列にペースを合わせるために神経を遣ったが、その点も今回は免れた。

歩き始めてしばらくすると、前方にカメラをローアングルに構えた人物がいた。どうやら、被写体として私たちを狙っているようだ。「新聞社の方ですか？」と聞くと、毎日新聞だとの返事。毎年、この時期になると「夏の風物詩」として、賑わう日本アルプスの写真が紙面を飾ることがある。

「新聞に載るんですか？」と女性陣が訊き、ざわめきが起こった。上高地など各地にカメラマンが飛び、写真の出来栄も競うそうだから、掲載されるかどうか分からないのに、もうタレント気分(?)になっている女性もいた。

先月同様、4時間余りをかけて村宮頂上宿舎に到着。小屋の受付に行くと、顔馴染み(?)となった支配人風の男性が

「お疲れさまでした。お待ちしておりました」と、きょうもにこやかに迎えてくれた。

気がかりな台風の情報について訊ねる。「まだ本土への影響は出ていないが、影響が出ると思われます。当然、平地よりはるかに早く、やはり稜線では強風になる」と言う。明日の行程は唐松岳までなのだが、不帰ノ嶮の岩場で風に煽られるのは辛い。ましてや、2001年6月の八ヶ岳のような暴風となつては、危険極まりない。台風の動きがなんともつかめないで、明朝の状況で判断することとした。村宮頂上宿舎で昼食をとった後、白馬岳に全員空身で登った。

#### 村宮頂上宿舎にて

白馬岳から帰ると早速テラスで宴会が始まった。宿舎では先月と同様、一部屋を与えられた。夕食前にアルコールも入ってしまったし、夜行疲れもあってか、夕食後、部屋はすっかり静かになった。

蚤燗式のベッドで横になっていたと、様々な思いが浮かんで来た。従来、山行に際し、私は日常生活の心配ごとや気がかりなことをいっさい拭き去り、ノーテ

しめつけられる。

自分が痛だったら、どうするだろう。きつと私は「死にたくない!」とわめきちらしてジタバタするだろう。生きることは死につつあることなのだけれど、そんな気構えが私には不足している。

#### 不帰ノ嶮を踏破する

翌朝、天候はからりと晴れた。小屋を出て丸山に登ると、剣岳・立山三山、毛勝三山、私たちの背後には雪倉岳から朝日岳とまぶしい光景が広がった。杓子岳の中腹をトラバースして進み、鞍部から白馬鑓ヶ岳を見上げる。本日最初の登りだ。

白馬鑓山頂からの山岳展望はすばらしかった。朝の天気は、適度な緊張感と穏やかさをない交ぜにしながら肌心地好く、私たちの足跡を北へたどれば、杓子岳、白馬岳の非対称山稜があざやかだ。アルプスの頂で、自然の絶景を目にしつつゆるやかな時間を過ごす。人生のなかで、こんな時間がとても大切だと思う。白馬鑓から砂地のような斜面をくだり、鑓温泉への道を分けて、やがて天狗山荘に至る。山荘手前の付近は雪が遅くまで



唐松岳頂上山荘から唐松岳を望む

ンキの状態で見よう心がけてきた。心配ごとなどで心が奪われていては、山中で行動することなどできるはずがないのだ。わが身に心配ごとなどが生じたときには、当然、山行は中止していた。

今回、夜行バス車内で、私は、この山行中日常の事はともかく忘れてしまおうと考えていた。そんなことが簡単にできる性分ではないことくらい承知しているのだが、そう考えるしかないと思った。けれど、今気がつくと、心は本当に日常の事から離れ去っていたのだ。こうして山中へ入っている自分自身が少し意外な感じであり、この歳になって、改めて、自身の新しい面を知ったような気がした。

時刻はまだ宵の口だ。明日の天候も気がかりなので、レストランに入った。テレビにはちょうど気象情報が流れていた。台風は夏台風らしく足踏みしているようだ。この調子なら明日の天気は大丈夫かもしれない。ほとんど人気がないひっそりとしたレストランでコーヒーを飲み、短い時を過ごした。

部屋へ戻ると、明かりは消され寝息だけが聞こえていた。昨夜、ほとんど眠ったのか、花々に精気がある。ウルッブソウなどまだこれから満開を迎えようとしている株もあった。

天狗山荘で一服し、スイカを食した後、天狗の頭を目指す。途中、鮮明ではないものの条線土(周水河地形の構造土のひとつ)が見られ、立ち止まって説明した。構造土の中で条線土に遭遇すると、私はなぜか気持ちが高ぶってしまう。

天狗の頭を過ぎれば、次は不帰ノ嶮の峻険なピークを視野にしての大大下りだ。くだりきつた鞍部で、キレットの峰々を控え休息。いよいよ本山行の正念場だ。北アルプスの代表的な岩稜帯ではあるが、岩はしっかりしており、三点確保で油断なく登ればけっこう楽しい。唐松岳からの登山者で混雑することを心配したが、すれ違う登山者は少なく、私たちはI峰、II北峰、II南峰と順調に進んだ。

唐松岳に到着したのは13時半過ぎ。宿泊する唐松岳頂上山荘はすぐ下に見えており、本日の行動は終わったも同然。パーティは一気にくつろいだ雰囲気となる。

唐松岳からの下りで、山岳パトロール隊員から声をかけられた。「どちらから?」「白馬から縦走です」というやりとりの



# スイス・アルプス・ハイキング

2003年7月～9月

ひとクラス上の安心と満足を目指し続けて23年。  
どこよりもすてきなスイスアルプスの旅をお届けいたします  
【バラエティ豊かな10コースのなかからおすすめのコースをご案内】



【コースのポイント】

ゆつりとした道で中々の景  
観が、悪天候の場合でも対応  
できます。

日本人山岳ガイドが案内  
ハイキングの楽しさ、夕景や朝焼けを  
ご一緒に、アルプスの魅力をお伝え  
します。

カモシカや高山植物も見られる  
普通のハイキングコースから少し  
はずれた知られざる見所にもご案内。

6月28日(土)  
13:00~  
説明会開催  
要予約

詳細はお問い合わせ下さい

1日目	【航空(午前)】<飛行機>チューリッヒ(夜) <バス> グリンデルワルト(夜) 空路、ヨーロッパ内乗り継ぎでチューリッヒへ。到着後、グリンデルワルトへ。 <グリンデルワルト泊>
2日目	【カトリックの山】<ロープウェイ>【カトリックの山】<ロープウェイ>【カトリックの山】 ユングフラウ三山が美しいフィルストからパッハアルプ湖まで4,000m級の山々 を眺めながらハイキング。その後、ファウルホルン登山コース(約5時間)と 花と牧場のハイキングコース(約4時間)のどちらかをお選びいただけます。 <グリンデルワルト泊>
3日目	【カトリックの山】<登山電車>【カトリックの山】<登山電車>【カトリックの山】 雲と氷の世界ユングフラウヨッホへ。アイガーグレッシャーからアルピグレン まで、雄大な牧草地や大氷河の景観を楽しみながらハイキング。(約4時間) <グリンデルワルト泊>
4日目	【カトリックの山】<バス>【カトリックの山】<バス>【カトリックの山】 マッターホルンの街、ツェルマットへ。途中、南ベルナーオーバーランの 秘境エッセン湖へハイキング。(約1時間半) 湖畔のカフェテラスで のんびりとアルプス気分。 <ツェルマット泊>
5日目	【カトリックの山】<登山電車>【カトリックの山】<登山電車>【カトリックの山】 ゴルナーグラードからの360度の大パノラマを楽しんだ後、山頂よりリッフェル湖畔 までのハイキング。湖に映るマッターホルンを見ながらお弁当。素晴らしい のフィンデルン村を通過のんびりハイキングします。(約4時間半) <ツェルマット泊>
6日目	終日:自由行動 ご希望の方は山岳ガイドがヨーロッパ最高所の展望台・クラインマッターホルン やシュバルツゼーなど、その時々で訪れてもっとも楽しいと思われるところに ご案内します。ヘリコプターフライトや夏スキーもお楽しみいただけます。(交通費実費) <ツェルマット泊>
7日目	【カトリックの山】<電車>【カトリックの山】<電車>【カトリックの山】 モンブランの街フランス・シャモニーへ。エギーユ・ド・ミディへ登り、岩と氷の 針峰群やモンブラン、グランドジョラスの大展望をご堪能ください。 <シャモニー泊>
8日目	【カトリックの山】<バス>【カトリックの山】<バス>【カトリックの山】 バスにてジュネーブ又はチューリッヒへ。空路、ヨーロッパ内乗り継ぎで、 帰国の途へ <機中泊>
9日目	航空(午後) 帰国後、解散

- ◆食事回数: 朝7回、昼5回、夕4回 ◆最少催行人員: 15名
- ◆添乗員: 添乗員は同行いたします。ただし14名以下の場合、事前にお客様のご了承を得て添乗員が同行せずに行行することがあります。その場合は現地係員がお世話します。
- ◆成田経由になる場合もございます。

## 郵船トラベル株式会社 ハイキングデスク

大阪市中央区船場中央4-1-10  
船場センタービル10号館2階  
TEL:06-6251-0255 FAX:06-6251-9190  
一般旅行取扱主任者:辻野敏

神戸市中央区八幡通4-2-18  
郵船航空ビル  
TEL:078-251-7611 FAX:078-230-6468  
一般旅行取扱主任者:小野田良一

フリーダイヤル

0120-819-215

なかで、20人規模のパーティーだと伝えると、「それはすごいですね。皆さん大丈夫ですか」と驚きの表情を見せた。パトリックは気のいい人で、すれ違うわがパーティーの一人一人に励ましの言葉を掛けてくれたが、妙に驚かれると、北アルプスの名だたる難所の岩稜帯を中高年者の大きな集団で歩いたことが、何だか無謀に近い行為だと暗に指摘されているようで、リーダーとしては内心穏やかではなかった。

14時過ぎに唐松岳頂上山荘に到着した。受付時に思わぬサービスがあり、私はひとり歓喜した。リーダーとサブリーダー2人にビール無料券をもらったのだ。料金を支払うと、係の女性から「幹事さんは何人でいらっしゃいますか」と訊かれた。幹事という呼び方にこめた先方の意味するところがわからず、私は瞬間キョトンとしたが、ふと係の女性の手元を見るとビール無料券がある。思わず「20人」と叫びかけたが、「いや……3人。3人です。サブリーダーが2人いるから」と自分でも恥ずかしいくらいあわてたのだ。着替えなど身の回りの整理後、早速ビール無料券を片手に宴会

を始めた。

八方尾根をくだる

翌々朝はすばらしい好天であった。本日はきびしい登りもないのでメンバーみな晴れやかに、なごやかな雰囲気の中に出発した。花の尾根と形容される八方尾根の秋の花をゆっくり観察し、愛でながら、まるで遠足のようなにぎやかさだ。丸山に至ると、背後に後立山連峰の豪華な景観が展開した。北には、昨日踏破してきた白馬三山と不揃い峰のI峰、II北峰、II南峰が居並び、南には五竜岳と鹿島槍ヶ岳。そして前方には信越の山々の大展望である。

メンバーのだけれども、五竜と鹿島槍の雄姿にはことのほか魅了されたよう。例会でせひ歩きたいとの声があった。

前回、新ハイの例会で唐松岳から五竜、鹿島槍、そして爺ヶ岳と縦走したのは1996年のこと。新ハイに入会し、リーダーとして山行を企画してから1年足らずの時期だった。あれからすでに6年。自然観察山行参加者の顔ぶれも大きく変化した。たまたま、この夏は、北アルプスの北端から歩き始めたので、米夏から

も、このまま主稜線結びながら南下してみようかと、ぼんやりと考えた。

(平成14年8月15日〜18日歩く)

▲参考タイム▼

(15日) 曇り) 岐阜駅23:00(貸切バス)  
(16日) 曇り時々晴れ(バス) 猿倉荘  
5:00(朝食) 6:10 | 白馬尻7:15 |  
30 | 蘆平10:00 | 白馬岳村登山道11:  
40(昼食) 12:50 | 白馬岳13:35 | 45 |  
村宮頂上宿舎14:15(泊)

(17日) 晴れ) 村宮頂上宿舎6:00 | 丸山6:10 | 白馬槍ヶ岳7:55 | 8:20 | 鶴温泉分岐8:35 | 天狗山荘9:00 | 20 | 天狗の頭9:40 | 天狗の太下り鞍部10:50(昼食) 11:05 | キレット1峰11:35 | II北峰12:30 | II南峰12:40 | 唐松岳13:35 | 14:00 | 唐松岳頂上山荘14:10(泊)

(18日) 晴れ) 頂上山荘6:00 | 八方池山荘8:30(リフト・ゴンドラリフト) | 八方駅9:15 | 八方第二駐車場9:30 | 40(バス) 大町温泉郷10:15(入浴) 11:00(バス) 穂高町そば処常念11:30(昼食) 12:30(バス) 岐阜駅16:00(解散)

△地図▽昭文社「白馬岳」



縦走路から六甲最高峰を望む

殿には白山比咩がまつられている。大和国葛城生まれの役の行者が、この山の秀麗に感じ、白山権現を勧請したのが始

りという説が伝わる。鳥居茶屋跡に出て金山縦走路に合い、六甲最高峰(931m)へ駆け上がった。そこには「山の晨明に関する童話風の構想」に出でくる、イーハトーブの住人たちが山上での昼食を楽しんでいる最中であつた。賢治が「みんなでいっしょに天上の飾られた食卓に着こう」と、わたしたちを手招きしている平和な時間が流れていたのである。

六甲山最高峰の碑が立つ頂上付近から下界を見渡すと、プリオシン海岸ならぬ六甲山裾の海岸がたゆとう水を光らせている。天文通信館がある凌雲台の方向を眺めてみると、林立する鉄塔群が白鳥座の銀河ステーションにも見えてくる。

賢治の代表作『銀河鉄道の夜』は、賢治の死後に発見された物語である。友人カムパネルラと連れ立ち、ジョバンニはサウザンクロスを求めて銀河鉄道の旅に出た。主人公のジョバンニは、姿を変えた賢治自身であり、私たちの夢の代行者なのであつた。銀河鉄道の旅が目指したものは、「ほんとうのさいわい」と表現される、至高の到達点であつたことに疑いがない。

▲コースタイム▼  
 阪急芦屋川(阪急バス15分) 東お多福山登山口(40分) 東お多福山(10分) 土樋割峠(30分) 蛇谷北山(25分) 石ノ宝殿(25分) 六甲最高峰(10分) 吉高神社白石谷分岐(1時間10分) 神鉄有馬温泉駅  
 ▲地図▽昭文社『六甲・摩耶・有馬』

六甲縦走路と六甲越えの古道魚屋道とが交わる十字路に降り立つ。ジョバンニが銀河旅行の夢より覚めたときに、現実に戻った十字路ではカムパネルラの死を知つたのだつた。銀河系から帰還した十字路の悲劇性は同時に、「ほんとうのさいわい」が終焉する非情を物語に投影しているのである。

方十里神貫のみかも稲熟れて  
 み祭り三日そらはれわたる

銀河系にあこがれ、いつも宇宙を見ていた賢治は、絶筆になつた短歌にも美しく晴れた空を詠んでいた。豊稜を言祝ぐ村祭を見とどけ、賢治はほんとうの星になつてしまつた。37歳という若すぎる短い生涯だったが、宮沢賢治のイーハトーブは滅び去ることがない。

(平成15年3月11日歩く)

六甲高原と呼んでもおかしくない、ネザサをまとう東お多福山(697m)の丘陵地は、賢治が闊歩した山地へ連なるかに続いている。東お多福山の草原に立ち、その気分が眺めていると、イーハトーブの「クラレの花の丘」や「つめくさ広場」にいる錯覚すら覚える。

賢治の詩的世界にたびたび現れる種山ヶ原は、標高700から800mのあたりに草原を広げている。賢治ゆかりの種山(物見山870m)を盛り上げている種山ヶ原と、東お多福山が似ているかどうかはわからない。いくたびも地質調査をかねて賢治が訪ねた種山ヶ原という所に私が憧れを寄せているのは確かなのである。

白雲にすがれて立てる鬼あざみより  
 種山ヶ原にかなしみは湧く

賢治が短歌に詠んだ種山ヶ原の風景である。人も花も生まれたときから、いつかは生を終えるという運命を持ち合わせている。枯れ朽ちていく花期を過ぎた賢治の花は、白雲にすがるように絶命を逃れようとしている。東お多福山の草原の花もまた、種山ヶ原の花と同じかなしみのなかで開き、そして果てていくのであ

あろう。古いガイドブックには、東お多福山を六甲の霧ヶ峰と紹介している一文がある。高原の代名詞である信州の霧ヶ峰を彷彿とさせる、柔らかな丘の連なりは、六甲山系の別天地のようである。この山へ妻を連れてきたとき、妻は夢中で、六甲最高峰や西お多福山や、阪神間の街と海景色をくまなく見渡していた。

六甲登山から帰ってきて、わたしの妻ひろこさんは、「みている」という詩をつくつた。

だあれもみていなくても風がみている／だあれもみていなくても空がみている／だあれもみていなくてもお日様がみている／だあれもみていなくてもお星様だつてみている

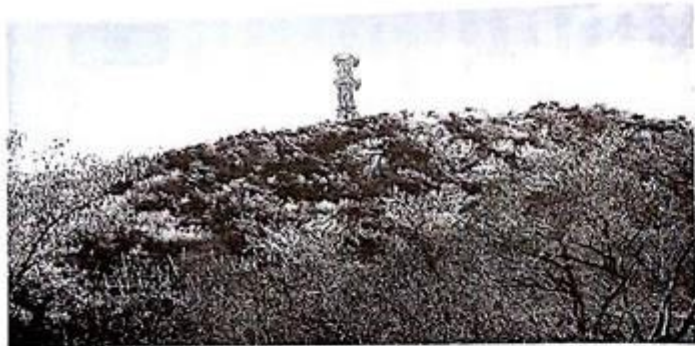
この詩は幻冬社から刊行された『朝の詩』にも載せられている。子どもみたいな詩を書く妻は、絵本づくりが趣味で、賢治のイーハトーブの童話の世界が好きだつたので、前にここまで連れてきたのだ。その日、登りが苦手の妻と雨ヶ峠へおりて保久良神社をぬけ、岡本駅へと下山した。

きょうは特別のあてもなく六甲山へやってきたのだが、せっかくなので六甲最高峰を目指して登ろうと決めた。賢治は種山ヶ原を望みながら五輪峠を越えたが、わたしは東お多福山から北へくだり、土樋割峠へ進んだ。文政期に住吉川の水を土樋で芦屋へ引いて、水争いになった出来事が名の由来とされる峠である。

心象スケッチ『春の修羅』には、「峠の上で雨雲に云ふ」という峠の風景が書かれていた。悪魔のニムプスが「まっくらな尾をひるがえし」、賢治を襲撃するかに「みだらな触手をのばして」迫ってきていた。偶然かも知れないが、土樋割峠へ近づくと頃から金山縦走路に登りつくと、曇天が青空を押しやり、粉雪が舞ってきたのである。

戦前の『六甲北嶺ハイカーの怪』の著者である、木藤精一郎氏が名付けた蛇谷北山を峠からまたぎ、尾根伝いに白山姫観音が立つ広場へぬける。すぐ裏手には道修坊と呼ばれる雨乞いの祈願所、石ノ宝殿と呼ぶ神座石が鎮座している。

六甲山には、神功皇后が征韓後、凱旋の時に、打ちとってきた敵将の兜首六体を埋めたという伝説がある。この石ノ宝



縦走路から六甲最高峰を望む

殿には白山比咩がまつられている。大和国葛城生まれの役の行者が、この山の秀靈に感じ、白山権現を勧請したのが始まり

りという説が伝わる。鳥居茶屋跡に出て全山縦走路に合い、六甲最高峰(931)へ駆け上がった。そこには「山の晨明に関する童話風の構想」に出てくる、イーハトーブの住人たちが山上での昼食を楽しんでいる最中であつた。賢治が「みんなていっしょに天上の飾られた食卓に着こう」と、わたしたちを手招きしている平和な時間が流れていたのである。

六甲山最高峰の碑が立つ頂上付近から下界を見渡すと、プリオシン海岸ならぬ六甲山裾の海岸がたゆとう水を光らせている。天文通信館がある凌雲台の方向を眺めてみると、林立する鉄塔群が白鳥座の銀河ステーションにも見えてくる。

賢治の代表作「銀河鉄道の夜」は、賢治の死後に発見された物語である。友人カムパネラと連れ立ち、ジョバンニはサウザンクロスを求めて銀河鉄道の旅に出た。主人公のジョバンニは、姿を変えた賢治自身であり、私たちの夢の代行者なのである。銀河鉄道の線が目指したものは、「ほんとうのさいわい」と表現される、至高の到達点であつたことに疑いがない。

六甲縦走路と六甲越えの古道魚屋道とが交わる十字路に降り立つ。ジョバンニが銀河旅行の夢より覚めたときに、現実に戻った十字路ではカムパネラの死を知つたのだ。銀河系から掃蕩した十字路の悲劇性は同時に、「ほんとうのさいわい」が終焉する非情な物語に投影しているのである。

方十里稗貫のみかも種熟れて  
み祭り三日そらはれたる

銀河系にあこがれ、いつも宇宙を見ていた賢治は、絶筆になつた短歌にも美しく晴れた空を詠んでいた。豊穣を言祝ぐ村祭を見とどけ、賢治はほんとうの星になつてしまった。37歳という若すぎる短い生涯だったが、宮沢賢治のイーハトーブは滅び去ることがない。

(平成15年3月11日歩く)

AコースタイムV  
阪急芦屋川(阪急バス15分) 東お多福山登山口(40分) 東お多福山(10分) 土樋割峠(30分) 蛇谷北山(25分) 石ノ宝殿(25分) 六甲最高峰(10分) 吉高神社白石谷分岐(1時間10分) 神鉄有馬温泉駅  
A地図V昭文社「六甲・摩耶・有馬」

六甲高原と呼んでもおかしくない、ネザサをまとう東お多福山(697)の丘陵地は、賢治が闊歩した山地へ連なるかに統一している。東お多福山の草原に立ち、その気分を眺めていると、イーハトーブの「クラレの花の丘」や「つめくさ広場」にいる錯覚すら覚える。

賢治の詩的世界にたびたび現れる種山ヶ原は、標高700から800のあたりに草原を広げている。賢治ゆかりの種山(物見山870)を盛り上げている種山ヶ原と、東お多福山が似ているかどうかはわからない。いくたびも地質調査をかねて賢治が訪ねた種山ヶ原という所に私が慣れを寄せているのは確かなのである。

白雲にすがれて立てる鬼あざみより  
種山ヶ原にかなしみは湧く

賢治が短歌に詠んだ種山ヶ原の一風景である。人も花も生まれたときから、いつかは生を終えるという運命を持ち合わせている。枯れ朽ちていく花期を過ぎた賢治の花は、白雲にすがるように絶命を逃れようとしている。東お多福山の草原の花もまた、種山ヶ原の花と同じかなしみのなかで開き、そして果てていくので

あろう。

古いガイドブックには、東お多福山を六甲の霧ヶ峰と紹介している一文がある。高原の代名詞である信州の霧ヶ峰を彷彿とさせる、柔らかな丘の連なりは、六甲山系の別天地のようである。この山へ妻を連れてきたとき、妻は夢中で、六甲最高峰や西お多福山や、阪神間の街と海景色をくまなく見渡していた。

六甲登山から帰ってきて、わたしの妻ひろこさんは、「みている」という詩をつくった。

だあれもみていなくても風がみている／だあれもみていなくても空がみている／だあれもみていなくてもお日様がみている／だあれもみていなくてもお星様だってみている

この詩は幻冬社から刊行された「朝の詩」にも載せられている。子どもみたいな詩を書く妻は、絵本づくりが趣味で、賢治のイーハトーブの童話の世界が好きだったので、前にここまで連れてきたのだ。その日、登りが苦手の妻と雨ヶ峠へおりて保久良神社をぬけ、岡本駅へと下山した。

きょうは特別のあてもなく六甲山へやってきたのだが、せっかく来たので六甲最高峰を目指して登ろうと決めた。賢治は種山ヶ原を望みながら五輪峠を越えたが、わたしは東お多福山から北へくだり、土樋割峠へ進んだ。文政期に住吉川の水を土樋で芦屋へ引いて、水争いになった出来事が名の由来とされる峠である。

心象スケッチ「春の修羅」には、「峠の上で雨雲に云ふ」という峠の風景が書かれていた。悪魔のニムプスが「まっくらな尾をひるがえし」、賢治を襲撃するかに「みだらな触手をのばして」迫ってきた。偶然かも知れないが、土樋割峠へ近づくと頃から全山縦走路に登りつづき、曇天が青天を押しやり、粉雪が舞ってきたのである。

戦前の「六甲北摂ハイカーの徑」の著者である、木藤精一郎氏が名付けた蛇谷北山を峠からまたぎ、尾根伝いに白山姫観音が立つ広場へぬける。すぐ裏手には道修坊と呼ばれる雨乞いの祈願所、石ノ宝殿と呼ぶ神座石が鎮座している。

六甲山には、神功皇后が征韓後、凱旋の時に、打ちとって来た敵将の兜首六体を埋めたという伝説がある。この石ノ宝

## 岡山ルートの再現

柴田 昭彦

【再現実験の資料を求めて】

★川上博「神戸背山風土記 手近なうら山への招待」(神戸新聞出版センター、1983年)には、須磨の「旗振山」の紹介があり、次のような相場通信の再現の記事があった。「先ごろ、関係者によってこれが再現を試みたが、なにぶん当時と今日とは周囲の状況も違っており、スモッグなどの発生によって判読できず失敗に終わった。しかし、二回目はなんとか意思の伝達できた、と新聞は報道していた。」

この再現の記事の掲載新聞名と日付がわからないままになっていた。  
★平成12年8月になって、池田末則「地

名風土記「伝承文化の足跡」(東洋書院、平成4年)の「信号の送信所―番振山・ソバトリ山」の中に情報が載っていることに気付いた。「堂島から岡山市までの一六七・三キロを、昔どおりのルートで送信を試みたところ、約二時間で米相場が正確に伝わったという。ちなみに、旗は縦二メートル、横一・二メートルの白色のものが用いられた。この結果「気象条件さえ良ければ、現在でも手旗通信が可能であることを証明した」という(毎日新聞「昭和五十六年二月七日付」とある。これで、再現の詳細を知る手がかりが得られた。

★毎日新聞の縮刷版には、その記事が見

り通信再現ルートが地図に示してあるが、27地点のうち、主な中継地の①④⑥⑧⑩⑬⑭⑯⑰の10ヶ所(⑮は新聞記事の誤りで、⑮が正しい。番号は、後で示すものに対応)だけなので、すべての中継地点を知りたいと思った。

★電話帳で岡山市の桑島氏の連絡先がわかったので、平成12年8月に手紙を出してみた。奥さんから電話があり、主人は3年前に亡くなりましたとのこと、再現時の中継点の資料は入手できなかつた。

★岡山県総合文化センター奉仕課郷土資料室に、岡長平・桑島一男両氏の旗振り通信に関する記事と、岡山ルートの再現に関する地元の新聞記事のコピーを依頼しておいたところ、西宮市の図書館には、再現実験に関する資料はなく、日本ポースカウト西宮地区協議会の山田明良氏の連絡先を教えるので問い合わせさせてみてはどうかという返事を戴いた。山田氏からは西宮市の中島靖浩氏を紹介され、中島氏からは新宮市の賀洋一氏を紹介され、賀氏は西宮市の黒野恒彦氏を紹介され、黒野氏からは吉井正彦氏(西宮市甲子園口3-19-20)を紹介されて、最後にやっ

と企画立案者にたどりつくことができたという次第である。平成12年9月のことであった。

★吉井氏からは、再現実験当時の報道用資料としてまとめられたレポート「明治の「旗振り通信」を調査 12月6日(日)大阪・堂島―岡山間で再現へ」全長170km、26の中継地点を経て」と、昭和56年当時のテレビニュース16本(6月11日、8月29日、9月3日、12月2、7日)の録画編集ビデオテープが送られてきた。資料で再現ルートの28の中継地点を詳しく知ることができた。また、ビデオでは、再現実験や旗振りをしてきた人の子孫たちの生の証言にふれることができ、それらは、今までに紹介してきたとおりである。

## 【再現実験までの経緯】

★岡山ルートの再現実験(経路までの実験を含む)については、その予告から結果に至るまで全国の地方版を含めると、約60枚に及ぶ新聞記事(昭和56年6月18日、7月12日、8月4日、8月13日、9月1日、11月29日、12月15日)があり、その内容はほとんど全て吉井氏が提供した資料に基



当たらないため、中之島図書館にある、毎日新聞大阪本社版(マイクログフィルム)を調べてみた。該当の記事は、その日の社会面(22頁、ナンバー220)にあった。「大阪 旗振り通信、届いた 岡山」「堂島の米相場 西宮のBSが再現」「27地点、2時間で結ぶ スモッグ地帯は無線使い」とあり、日本ポースカウト兵庫連盟西宮地区ローパー・ムート旗振り通信実行委員会(賀洋一委員長)のメンバー五十人によって6日に再現されたという。最終地点では清野善樹副委員長と郷土史家の桑島一男さん(当時六十)が通信を受け取ったという。この記事には、旗振

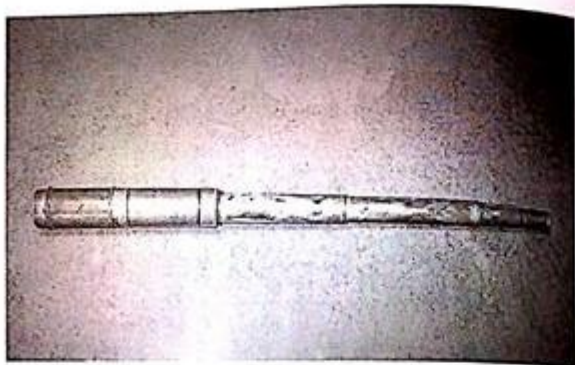
づいたものである。記事内容の一部は前号までにも紹介しているが、再現実験の経緯を、吉井氏のレポートと新聞記事から再現してみることしよう。

★昭和55年5月、会社員吉井正彦さん(当時、35歳は神戸新聞(5月27日付)に掲載された兵庫探検総集編12「旗振山」の記事から、須磨区の旗振山に興味を持ち、頂上の案内板で、米相場の連絡・中継所であったことを知った(昭和56年7月12日付、神戸新聞)。早速、通信総合博物館や各地の図書館で大阪から兵庫県下、岡山市までの各市町の郷土史などの文献を用いて、歴史的な由来や具体的な中継場所について調べ始めた。米相場の研究は多いが、旗振り通信の資料は少なく、四方八方に広がっていた通信ルートも明確でなく、いわば「埋もれた歴史」であることに気がついたという。資料としては「明治大正大阪市史要(近藤文二著、昭和7年刊)があるだけなので、さらに明確な資料を残そうとしたのが計画の始まりであった。聞き取りによって歴史として残せるのであり、地元の歴史を明確にすることに意義があると考えた。

★昭和55年末までは単独で資料収集と現



家宝の望遠鏡を手にした黒田さん



黒田家の望遠鏡(伸ばしたもの)(写真での長さ約70cmで、最大93cmに伸びる)

線を実施した。フラッグのFと大阪・岡山間の通信記録二十分(岡長平氏は十五分と記しており、新聞記事の二十分の出典は不明)の20を取って「F20計画」と呼ぶこと(当初は中継地点の数が20だったが、増加したので由来を変更)にした。8月13、26日には日本各地の地方紙に再現実験の予告記事が掲載され、注目を集めた。

★昭和56年8月30日、堂島から姫路市までの十三地点を結んで約三十人の隊員によってテスト通信が行われた。ポイントは次の通り。①堂島②福島(大阪データ通信局ビル)③金楽寺別館屋上④武庫川堤防⑤金鳥山(高さ127mの鉄塔。ここではスモッグと強風で受信不可。無線使用)⑥諏訪山⑦ピナス・ブリッジ(受信不可。勝手に決めた相場を送信)⑧高取山⑨梅尾山⑩玉津療養所(受信不可)⑪金ヶ崎山(受信不可)⑫池尻(受信不可、送信可)⑬北山奥山⑭麻生山。午前中に堂島から3回、午後は姫路から3回送信したが、尼崎と神戸、明石(金ヶ崎山)付近で通信は途切れてしまった。無線により先の地点から再開したが、12円15銭の相場が、35分後、終点の麻生山では、35円36銭に変わってしまうという送信ミスも生じた。

8月31日の新聞各誌に出たように、実験は「再現失敗」に終わったが、神戸付近での送信の困難さ、信号の読取りの難しさが浮き彫りとなったといえよう。

【岡山ルートの再現の実施】

★昭和56年11月29日付の神戸新聞、12月4日付のオカニチ新聞、同5日付の読売新聞(阪神・大阪)などに、岡山ルートの再現、再挑戦の記事が出た。前回での反省を踏まえて、通信の難しい区間に新たな中継地を設定し、見えにくい所では白旗・黒旗のほかには赤旗も使用することに。吉井さんは再現を目前に控えて「メンバーはNHKの『なにわの源三事件』の旗振りを指導するなど、旗振りをマスターしている」と期待のコメントを述べている(昭和56年12月2日付の朝日新聞)。

★昭和56年12月6日、十時に堂島より、米相場33円24銭という第一信が実行委員長の巽洋一さん(大学一年)から発信された。堂島から岡山市までの二十八(二十七とする報告もある)地点を結んで約五十八(五十五人)の隊員によって、再現実験の本番が行われたのである。大正

地調査を進めていたが、はかどらないので、友人の黒野恒彦さんに相談した。黒野さんはボーイスカウト西宮第十六団の団委員長で、大学生で組織するローパー隊約十三人を指導して、56年1月より現地調査を開始した。普段は年少者たちのリーダー役のローパー隊員は大学生が中心だが、会社員もいる。土・日に十名前後が朝8時に集合。3人1チームの編成で車により現地調査に出発。文献をたよりに、5万分の1の地形図から旗振りに適した山(標高百〜三百メートル)を選び出し、神戸、姫路、岡山の神社や麓の集落の古宅を訪ね歩き、聞き取りを行なった(昭和56年12月2日付、朝日新聞大阪本社版)。さらに山頂に登り、地点相互で旗による合図をして、望遠鏡で見えるかを確認して戻り、報告会で次の作戦を練った。4月始めには武庫川堤一金鳥山一鐘山の間でテストを行い、双眼鏡で旗を振る姿をとらえた(昭和56年6月18日付、読売新聞)。こうして、5月までには、大阪から岡山市までの約二十の中継点を洗い出すことができた。

という古老を各地で見つけ出せた。昔、使用されていた望遠鏡が明石市魚住町の黒田さんの家に保存されていることが判明した(昭和56年6月11日放送、NHKニュースワイド640)。昭和56年8月4日付、神戸新聞。また、日生町でも望遠鏡が見つかった。幹線ルートから枝分かれして、兵庫東北へ向かうルートも判明した(昭和56年8月13日付、山陽新聞)。

★神戸新聞(昭和56年7月12日付)の記事と吉井氏のレポートから推定できる、昔の中継ルートは次の通りであろうと思われる。これは落合重信氏の研究を参考に、現地調査によって得た情報を加味したものである。①堂島―辰巳橋―武庫川堤防―金鳥山―諏訪山―高取山―梅尾山―旗振山―明石旗山―金ヶ崎―北山(または城山)―麻生山―鶴ヶ峰―龍野片山―黒鉄山―天狗山―観音寺山―東大平山―芥子山―旗振台古墳―岡山市京橋

★再現実験ルートの場合には、距離の長い区間に新たな中継点を設けたり、見通しの悪い地点の代わりに見通しの良い地点を選んだりしている。筆者の知る限りでは、鶴ヶ峰、黒鉄山、観音寺山、東大平山、芥子山での旗振り伝承は確認でき

ていない。西大平山や兵庫・岡山県境の相場ヶ裏山に旗振り伝承があることは、69・70号で述べた通りである。

★筆者が今まで公表した資料によって想定している、昔のままの岡山ルートは次の通り。「堂島―辰巳橋―金鳥山―高取山―金ヶ崎山―北山奥山―相場振山(太市)―赤穂高山―天狗山―熊山―旗振台古墳―岡山市京橋」

このルートから、できるだけ少ない中継所で送信しようとした苦勞がうかがえる。岡長平氏が岡山まで15分というのうなずける。中間に設けられた中継所(須磨旗振山、明石旗山など)は、途中で分岐して各地に伝達するために設置されたものである。

★昔のとおりの中継ルートの再現は、現在ではスモッグや高層ビルのため不可能である。特に、大阪と神戸地区が大問題。そこで、吉井さんは高層建築を中継地点に用いることで、阪神間から抜け出せるように工夫した。

★中継ルートがほぼ判明したので、今度は旗振りの再現に挑戦するため、望遠鏡を購入、手作りの旗も用意して、山に登って、振り手と受け手の呼吸を合わせる訓



- ① 玉津 (玉津製薬所付近・旧垂水区)
- ② 神戸市西区玉津町水谷
- ③ 玉津病院の南西600m
- ④ 金ヶ崎山 (明石市魚住町金ヶ崎) (明石市水道局西部配水場)
- ⑤ 80・1m (遠めがねが現存)
- ⑥ 福美 (福美町) (福美中学校校舎屋上)
- ⑦ 池尻 (加古川市平荘町池尻)
- ⑧ 池尻集落の北にある標高96mの山の西峰。鉄塔がある。東神吉町升田の東方。標高90m以上
- ⑨ 北山奥山 (高砂市阿弥陀町北山・加古川市志方町西山境)
- ⑩ 183m
- ⑪ 麻生山 (姫路市奥山) (小富士山、171・8m)
- ⑫ 鶴ヶ峰 (姫路市広畑区蒲田)
- ⑬ 200・3m三角点「姫路の山々」では「鶴ヶ峰」と呼ぶ
- ⑭ 檜特山 (姫路市藤原区・太子町矢田郡境) (165・1m)
- ⑮ 的場山 (龍野市龍野町・播西町境) (394・2m)
- ⑯ (史実の龍野・片山227・8mにかえて)
- ⑰ 227・8m峰は「金輪山」と呼ばれる
- ⑱ 宝台山 (相生市若狭野町若狭野) \*

- ① 黒鉄山 (兵庫県赤穂市西有年) (430・9m)
- ② 天狗山 (岡山県日生町寒河・備前市境) (392・3m) (遠めがね現存)
- ③ 観音寺山 (備前市東片上・和気町境) (385・8m) (好条件の場合はの場山が見える)
- ④ 東大平山 (備前市伊部・長船町境) (301m)
- ⑤ 『史実』は、西大平山327・2m
- ⑥ 邑久橋 (邑久郡長船町・岡山市境) (吉井川にかかる橋上)
- ⑦ 『この地点を、長船町土師・邑久町境の「甲山」164・0mとする新聞記事もあるが、吉井氏の一番新しい資料に示された「邑久橋」が正しいようである』
- ⑧ 芥子山 (岡山市目黒町・広谷境) (232・8m) (航空局アンテナ有り。車で上がれる) (受信地点より発信地点まで20分走る)
- ⑨ 操山 (岡山国際ホテル屋上、岡山市門田本町4丁目) (史実の操山・旗振り台古墳では見通しがきかないため)
- ⑩ 京橋 (旧岡山電信局跡) (岡山市京橋町3-17、森崎稲荷神社前、旭川西岸)

3年には姿を消したので、約七十年ぶりの再現ということになる。送信と同時に隊員の団野淳子さん(大学3年)が中之島郵便局に行き、5分後に岡山の受信所あてに通信の内容の電報を打って旗振りとの競争を行なった。堂島では吉井さん、諏訪山では郷土史家の落合重信さん、金ヶ崎では、祖父(柳野千代太郎、故人)が遠めがねを受けて、父(黒田光次郎、故人)が旗振りをする役割分担をしていたという黒田実三郎さん、岡山市京橋町では郷土史家の桑島一男さんと実行副委員長の清野善樹さん(大学3年)がそれぞれ待機した。双眼鏡を用いて確認、天候にも恵まれたが、阪神地区でスモッグやモヤのために中継が困難になり、武庫川堤防でストップ。堂島から金ヶ崎へアマ無線で送信、その後は順調に受信でき、二時間十七分(二時間二十分とする報告もある)で京橋町に到着したが、電報は二十一分で早々に到着していた。午前十時半の第二信(12円15銭)は二時間二十二分、十一時半の第三信(ポイースカウトが使う掛け声「イヤサカ(弥米)」は一時間五十三分と、いずれも阪神地区でスモッグに阻まれて、長時間を要したが、全百七

十きのうち、金ヶ崎―岡山間の百十キロについては、米相場は正確に伝えられて成功であった(昭和56年12月7日付、朝日・読売・サンケイ・大阪・神戸・山陽・オカニチ・中国・徳島・静岡・埼玉・京都・北日本新聞、毎日新聞大阪本社版、読売新聞岡山版、サンケイ・愛媛新聞夕刊)(同12日付、鋼路新聞(同15日付、大商ニュース)。

★岡山ルートの再現実験で設定された中継地点の資料は、新聞に一部が公表されているが、全部の地点の詳細を公表した活字資料は存在していないようだ。ポインツが地図上で確認できるように、筆者は先に地図(64・65・69・70号)で公表しておいたが、吉井氏の手書きレポートから、ここにまとめて紹介しておこう。\*印には、電々公社(現在はN.T.T.)中継所がある。なお、建築物の名称は再現当時のものだが、住所表示は現在のものを用いた。『内の記述は吉井氏の資料になく、筆者が吉井氏に手紙で確認して追加した内容である(適宜、必要な地名や用語も加えた)。

- ① 堂島 (北区堂島浜一丁目) (米相場会所跡)
- ② 福島 (北区堂島三丁目) (電々公社大阪データ通信局ビル24階テラス東面で受信、ビル内を走り、西面で送信。高さ120m)
- ③ 金楽寺 (尼崎市金楽寺町) (尼崎電報電話局金楽寺別館屋上)
- ④ 『史実の辰巳橋の北方に位置する』
- ⑤ 武庫川堤防 (尼崎市大島二丁目) (成文小学校の西、武庫川左岸堤防上)
- ⑥ B 西宮 (西宮市六津町) (西宮市役所屋上)
- ⑦ 『史実の「西宮市旧東町三丁目」現石在町南部」の北になる』
- ⑧ 金鳥山 (神戸市東灘区本山町北畑) (金鳥山の北の424・9m三角点の南方300mにある標高370m付近の)鉄塔に体をしぼりつけて送受信)
- ⑨ 六甲道 (神戸市灘区) (六甲道駅南、メイ六甲屋上) (好条件の場合は省略)
- ⑩ 諏訪山 (神戸市中央区) (諏訪山ヒートス・ブリッジ) (好条件の場合は福島がダイレクトで見える)
- ⑪ 高取山 (神戸市須磨区妙法寺) (320・1m)
- ⑫ 大蔵谷 (神戸市垂水区南多聞台一丁目9) (県住公社明舞高層住宅屋上) (第二神明道路沿いに、ひときわ目立つマッシュン)
- ⑬ 『史実の明石市・大蔵谷旗山の北東1・5km』



★再現ルートの中継地点相互の距離は①から⑩の0・6が最短、⑪と⑫の1・1・4が最長で、28地点間の総計は167・3km、平均は6・2kmとなる。①から⑩まで、28地点、27区間の距離は次の通り(単位はkm)。①0・6②7・0③3・8④4・0⑤B5・7⑥4・8⑦5・7⑧5・2⑨9・2⑩3・8⑪7・1⑫5・2⑬7・9⑭5・8⑮7・3⑯6・9⑰5・4⑱7・6⑲11・4⑳9・0㉑6・0㉒8・5㉓6・8㉔7・9㉕6・7㉖6・7㉗1・3㉘(吉井氏による)

★西宮市の中島靖浩氏によると、昭和58年から59年頃のNHK総合テレビ「ウルトラアイ」で、のろしなどの「冒険」をテーマにした企画があり、その際に、大阪から神戸(中央市場)までの旗振り実験を再現したことがあったという。中島氏は、昭和56年当時は高校生だったので参加できなかったが、ウルトラアイのための再現実験時には大学生として参加したということであった。調べてみると、放送日は昭和59年3月5日の19時30分(再放送は同日の16時30分)で、タイトルは「ウルトラ通信科学館」で、内容は「再現・古代のろし▽大阪―神戸旗振り通信実

験▽光ファイバー徹底解剖」であった。旗振り実験では、堂島を起点に7つの中継ポイントを経て、昔の兵庫米会所近くの新川まで伝えることができたという。これは吉井さんたちが旗振り通信保存会を結成して協力したものである。岡山ルートで、④B地点(西宮市役所屋上)を含めて、諏訪山経由で伝えたものだろう。

★本誌66号で紹介した、平成3年6月14日に放映された「TVMック謎学の旅」(日本テレビ・読売テレビ系)はテーマが「望遠鏡」で、その中の、関西大学の応援部による大阪―京都間の「旗振り通信」の再現(本誌57・63号)に関して、吉井さんは、ひとことアドバイスをしたので、テレビ的に作られていて、史実とはやや異なるのとことでした。この年は、くしくも岡山ルートの再現(1981年)から満十年でした(1991年)。筆者が連載を始めたのは2001年で、再現から満二十年というのも何かの縁でしょう。

しなどから推定して設定した地点もいくつかあったという。当時の古老たちからの証言はたくさん得られたが、膨大な生資料は未整理のまままだということであった(本誌58号のせせらぎを参照)。

★本稿の執筆に当たっては、吉井氏および黒田実三郎氏から提供していただいた資料より引用しました。お二人に感謝申し上げます。(つづく)

(平成13年5月12日成稿・14年9月1日追補  
平成15年3月15日訂正)

◀新ハイキング選書▶  
**日本300名山ガイド**

第15巻 東日本編 好評9刷発売中	第16巻 西日本編 好評8刷発売中
-------------------------	-------------------------

新ハイキングの精説5氏が、細心の実地踏査による、地図・写真・コースタイム入りの内容豊富なガイドブック

A5判・320頁/定価1680円(税込)

発行所 **新ハイキング社**  
〒114-0023 東京都北区滝野川17-6-13  
電話/Fax 共用 03-3915-8110

三角点を訪ねて ②③

政所から東山  
キトラを踏んで旭山

磯部 純 鈴鹿

夜明け前、屋根を打つ雨の音。慌てて飛び起き、電話で天気予報を聞いてみると、「雨が降る」とは言っていない。それを聞き安心して眠ろうとするが、その後、どうしても眠れない。この日は、まだ踏んでいない鈴鹿山系の5000m以上の三角点の一つ、旭山を訪ねる日であった。メンバーは、平日に登ることのできる新ハイ岩野グループの4人。

宇治の彼と京都駅で待ち合わせ、7時42分発のJR長浜行きに乗る。めずらしく車をやめて電車にしたのは、別に飲んでもやろうという魂胆があったわけではない。単に、車は少ないほうがよいと思っただけだった。車内は平日でもあり、夏

休みに入ったこともあって、通勤客と中年で溢れかえっている。当然、野洲駅までは立ちん坊を強いられた。

野洲駅で守山の彼の車に乗り、中畑へ走る。道が混んでいて裏道を走るが、平日ともなれば裏道も車がいっぱい。時計とにらめっこでひたすら走り、何とか集合時間の5分前には、中畑郵便局前に着いた。そこにはすでに、夜勤明けの鈴鹿の彼女が待っていた。

政所小学校の先50mにある広場へ車を移動する。歩く準備をして、政所の集落を抜けて行くと、民家の屋根には雑草が一匹坐っていて不審そうな顔つきでわれわれを見送ってくれた。この日は、岩野



通じていたのか、古い道が残っている。あたりは杉林だったが、登るにつれ、モミやミズナラの木が目につきだす。ジメジメした斜面には「鈴鹿の主」(ヤマヒル)が歓迎の手招きをしていた。

急斜面の道跡を登り、伐採地へ出ると、胡麻の匂いが漂ってきた。その匂いの木を3人が「胡麻の木」と決めつけたが、ただ1人だけはその名に納得しない。帰ってから調べてみると、その木の名はクサギで、やはり彼女の言ったことが正しかったのである。

後ろを振り返ると、林の切れ目から上



方に衣掛林道、衣掛山が見えていた。再び、雑木の尾根に登る。モミ・ミズナラ・ブナの大木が混在している尾根で、鈴鹿ではあまりお目にかかったことのない林の光景である。斜面は急で、体から汗が吹き出してくる。

何回か休憩をとり、1時間15分かかって東山の中央峰と西峰との鞍部に登り着いた。この尾根を逆から来てくだらうとするとき、木がうっそうと繁っている広い尾根だった。この山域にはめったに来ることがないので、ザックをそこ

へデポし、キトラ山まで足をのばすことにした。北西へ歩き、ヌタ場を通り過ぎて西峰の肩から西へのびる尾根をくだって行く。尾根の北は急斜面で、高いミズナラ・カエデの林が続いている。標高747mの先は、左に檜の植林

とにした。

高標747mへくだる。地図で見ると、簡単に下の尾根へおのれるように読みとれるが、少しくだと杉林で磁石で方向を見定めないと、変な方向へ行ってしまう。そんな所だった。杉林をくだっていきくと、夏咲くあまのこ花が目につく。小さな蕾を付け、花を開くのは間もないに違いない。彼女が13株まで数えたが、探せばもっとあるだろう。小さなピークを越え、尾根をたどると間もなく巡視路へ出た。分岐のすぐそばの太い木の根元には、優しい顔をした地藏尊が一体まつられていた。

巡視路を北へ歩くと、左に趣ある二次林が広がる。そのなかを5分も歩けば道から西へ1km程入った所に旭山三角点があった。標高755.6mである。大きな「旭山」と書かれた標識がなければ通り過ぎてしまいそうな所に標石は立っていた。旭山は朝日山・蔵谷山とも呼ばれていて、点名は「脇の谷」。3等三角点である。標石は南向きで20度西へ振っていた。まずは三角点の写真を撮り、記念撮影に入る。時間は昼食ときだが、こんな薄暗い所で食事でもないもので、すぐに出発。送電線鉄塔の明るい所まで歩くこ

先程の分岐を過ぎ、一つ目のピークをくだると、大きなモミの木が立っている。その左手はヌタ場。まだ授かり物(シカの角)を得たことのない彼女と彼女がヌタ場の廻りを探し回るが、ここでは収獲なし。ついに諦めてその先の送電線鉄塔広場で食事とした。展望は抜群の場所だったが、あたりを見ることが飲み物を飲むこともそっちのけで、まずは身の周りを点検。まずはスパッツの中からヒルを4匹発見。あちらでは靴の中、スパッツの中、靴下の中、果ては腹巻きの中からも出るは出るは……。それでも、吸われた人がいなかったのは幸い。とことん調べて、やっと安心できたところで、待望のビールにありついた。

一口飲んだところで周囲を見渡すと、大展望が広がっている。右手には日本コバが、その左に黒尾山・鏡ヶ岳があり、その向こうに雨乞岳が影を落とす。その手前にはこれから向かう岳のピークが立っていて、その左には不老堂・水木野が坐っていた。目を東に転ずると、釈迦ヶ岳に始まり、三池岳・竜ヶ岳・静ヶ岳・藤原岳・御池岳まで続く。日はカン

帯。そこを歩いて行くと尾根の突端だった。キトラ山とはこの標高点付近を指すようだが、もともととは箕川の東裏山一帯を指す名称で、ピークを呼ぶ名前ではないらしい。こんな情緒ある尾根に檜の林はツヤ消しだが、尾根の反対側の北斜面にはすばらしい二次林が広がっていた。ゆるい尾根の至る所にユズリハの青い実が目につく。

キトラ山を確認して、ザックをデポした場所へ戻る。途中先頭を歩く宇治の彼が、まっすぐ進み、西峰へ登りかけるが、呼び止めて引き戻す。つい先程通った所でも、反対に歩くと目の前に広がる光景が変わり、間違っていることがあるようだ。

中央のピークへ登り、いったんくだって東峰へ登り返すと、そこには「東山」と書かれた標識がぶら下がっていた。東山は箕川で呼ばれている名称で、三つのピークから成る。その標高はいずれもca 790mなのに、東峰に標識があるのはどうしたわけだろうか。このあたりは登山者もあまり訪れることがないのか、獣の臭いがプンプンするような場所だった。

東峰から左杉、右雑木の林の尾根を標

私達におまかせ下さい。待っています!



詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口  
より東へ強歩5分

第34号～70号まで(6年間)連載の山々一覽  
500m以上 1等三角点の山(548座)・登頂記録(登頂日順)

坂井久光

\*点名(山名)は同じもの及び山名のないものは点名のみ表示した。

No.	点名(山名)	標高(米)	20万国	登頂日	No.	点名(山名)	標高(米)	20万国	登頂日
35	熊倉山(日名倉山)	1047.30	姫路	S41. 7. 6	1	六甲山	931.34	京都及大阪	S23. 3.10
36	久須夜岳	619.09	宮津	41. 7.21	2	御在所山	1209.75	名古屋	29.10.23
37	蘇武滝山(蘇武岳)	1077.44	鳥取	41. 9.28	3	生駒山	642.27	京都及大阪	33. 4.18
38	地藏岳(地藏山)	947.58	京都及大阪	41.10.16	4	比良ヶ岳(蓮雲山)	1174.26	京都及大阪	34. 3.27
39	米ノ山(須賀ノ山)	1510.96	鳥取	41.11. 8	5	大峯山上(山ノ岳)	1719.19	和歌山	34. 8.24
40	曉晴山	1077.16	姫路	41.11. 9	6	釈迦ヶ岳	1799.55	和歌山	36. 8.24
41	呉枯峰(クサヒツク)	531.86	岐阜	41.11.21	7	三嶽山	1126.35	浜田	36.10.23
42	善司森(善司山)	591.21	田辺	41.11.21	8	大台ヶ原山	1694.94	伊勢	36.12. 5
43	多福寺山	556.26	宮津	41.12.25	9	鷲峰山	681.17	京都及大阪	37. 1. 6
44	出来山	1052.41	豊橋	42. 2.11	10	竜門ヶ岳	904.30	和歌山	39. 1.15
45	久田見山(鶴山)	685.64	飯田	42. 2.14	11	穂高岳(前穂高岳)	3090.23	高山	39. 7.23
46	屏風山	794.10	飯田	42. 2.15	12	泉原山(石堂ヶ原)	680.48	京都及大阪	40. 1.24
47	子ノ泊山	906.72	田辺	42. 2.18	13	鈴鹿羽山	608.33	徳島	40. 2.21
48	高小屋山(高峯山)	1044.78	伊勢	42. 2.19	14	御岳山(三岳山)	793.36	京都及大阪	40. 3.21
49	三本宮山(三ツ木山)	789.19	豊橋	42. 3. 2	15	三峰山	1235.37	伊勢	40. 5.19
50	比叡山(西明ヶ岳)	848.30	京都及大阪	42. 3. 4	16	高賀山	1224.20	岐阜	40. 6. 6
51	富巻山(富巻山)	563.24	豊橋	42. 3. 9	17	笠形山	939.36	姫路	40. 8.19
52	養老山	859.31	名古屋	42. 3.12	18	大日ヶ岳	1708.87	岐阜	40. 8.26
53	国見岳	656.12	金沢	42. 3.28	19	神野山	618.77	和歌山	40. 9.16
54	星峠(一乗山)	740.88	岐阜	42. 3.30	20	御嶽山	3063.41	飯田	40.10.10
55	月夜谷山(ツクシ山)	1065.75	岐阜	42. 4. 6	21	霊山	756.80	名古屋	40.12. 7
56	城ヶ森(城ヶ山)	1268.82	和歌山	42. 4.17	22	千丈寺山	589.79	京都及大阪	41. 1.23
57	猿投山	629.04	豊橋	42. 4.27	23	帽子石山(笠石山)	909.20	田辺	41. 2. 2
58	五善山(御前山)	1646.34	飯田	42. 5. 2	24	石戸山	548.79	京都及大阪	41. 2. 4
59	兎ノ馬場(川上岳)	1625.87	高山	42. 5. 3	25	鳥ヶ岳	536.50	京都及大阪	41. 2. 6
60	恵那山	2189.81	飯田	42. 5.16	26	真妻山	523.37	田辺	41. 2.14
61	三階岳(三昇山)	1599.51	飯田	42. 5.17	27	積山	795.84	田辺	41. 2.16
62	伊吹山	1377.38	岐阜	42. 6. 4	28	白岩峰(七瀬岳)	778.28	伊勢	41. 3.17
63	大雨見山	1336.36	高山	42. 6.13	29	栗鹿山	962.33	姫路	41. 5.18
64	野坂岳	913.53	岐阜	42. 6.27	30	太鼓山	683.12	宮津	41. 5.28
65	白馬岳	2932.23	高山	42. 7.27	31	磯砂山(足古山)	660.95	宮津	41. 5.28
66	大笠山	1921.84	金沢	42. 8.19	32	田君谷山(三城山)	536.24	鳥取	41. 5.31
67	荒島山(荒島岳)	1523.48	岐阜	42. 9. 6	33	床ノ尾山(御前山)	839.11	鳥取	41. 5.31
68	大洞山(ボンテン)	1034.56	飯田	42. 9.18	34	来日山	566.65	鳥取	41. 5.31

カンに照っていたが、そう暑くはなく、ゆっくりとくつろいだ昼のひとときだった。13時5分に出発。そこから下り切った所が山ノ神峠。この峠は政所から茶屋川へ越える峠で、その先は又川谷、古語緑谷を經由して、伊勢まで通じていた古道の峠だった。茶屋川を通らなかつたのは、茶屋川の下流に廊下帯があり、通過できなかったからといわれている。今では峠のすぐ南に送電線の鉄塔が立てられ、昔の面影は全く失われてしまったように思える。

山ノ神峠から小さなピークを越え、尾根の巡視路を歩く。途中の鉄塔広場からは、それまで見るのできなかった天狗堂・アカイン・押立山をも窺えた。最後の送電線鉄塔をくだると、道は林のなかに入る。斜面を斜めに横切り鞍部まで来ると、巡視路は右下へとくだっていった。

そこから巡視路と別れ、南にのびる尾根を進むと浅い谷に変わる。その谷の奥には岳の大杉と呼ばれる古い杉が立っている。今、黄和山の山裾にまつられていた山ノ神の神社が、その昔に、この山頂のどこかにあった頃、この杉の付近に池があり、雨乞いが行われたとの伝承があるが、今ではその池は跡形もない。杉の木から右手の尾根に登り、植林の尾根を登りつめると岳の山頂。2年前、訪れたときと違って、山頂広場の周りの木が切られ、明るい山頂へと変わっていた。

三角点は広場の中央に立っている。点名は「黄和田Ⅰ」という。ちなみに、点名「黄和田Ⅱ」は水木野である。標石は磁石の北向き。木があたりを遮り、景観は全くなかった。

ひと息入れ、下山。今回は山頂から南西へくだり、送電線鉄塔へ出ることにする。林のなかの踏み跡をくだると、大きなヌタ場へ出る。そこを抜け一段くだると、もう一つのヌタ場が……。何か出てきそうな雰囲気のある場所である。例の通り、彼と彼女がヌタ場の周りを探し回るが、ツキのない人に、天は何も与えてはくれなかった。

台地のはずれから、西北西へ雑木の急斜面をくだる。斜面には石がゴロゴロしていて、足を出すたびに石が崩れ落ちる。一度は、下を歩く人の膝に石が当たった

が事なきを得た。このような斜面をくだるときが、いちばん神経を遣い、注意しなくてはいけない。

急斜面をくだり、左杉、右雑木の尾根にのると、送電線鉄塔まではすぐ。下の鉄塔から巡視路をジグザグにくだると、やがて、古道に出て黄和田へ降りた。黄和田から長い舗装路を歩き、車を置いた場所へ戻ったのが、16時ちょうど。戻ったのはよいが、彼が途中に置いてきたザックの中に車のキーを入れていたので、すぐには帰れず、ビールはしばしお預け。紅葉尾のひろせ酒店へ行き、この日の山行に乾杯をし、解散とした。

帰路、琵琶湖の運の名所を案内してもらい、草津に着いたのはなんと19時30分だった。(平成13年7月27日歩く)

▲コースタイム▼  
政所小学校東広場(10分) 尾根取付点(1時間15分) 東山中央ピーク(15分) キトラ(20分) 東山(30分) 巡視路(5分) 旭山三角点(35分) 山ノ神峠(1時間) 岳(1時間20分) 黄和田(20分) 政所

△地形図▽2万5千1百済寺・竜ヶ岳

No.	点名(山名)	標高(%)	20万円	登頂日	No.	点名(山名)	標高(%)	20万円	登頂日
189	高山	532.84	山口	S 53.11.17	149	目高森	754.81	高知	S 51. 3.16
190	室津山(皇座山)	526.70	松山	53.11.18	150	而河山(二ノ森)	1929.24	高知	51. 5. 1
191	花尾山	669.07	山口	53.11.18	151	久住山	1786.87	大分	51. 5. 7
192	天上ヶ岳(天ヶ岳)	691.12	山口	53.11.19	152	羽根山(万年山)	1140.21	大分	51. 5. 8
193	笹ヶ峰	1859.65	高知	54. 1.13	153	阿佐山	1218.17	浜田	51. 5. 9
194	中津明神山	1540.56	高知	54. 1.14	154	大江高山	808.03	浜田	51. 5.10
195	三頭山	505.89	徳島	54. 2. 4	155	白山(御前峰)	2702.55	金沢	51. 6.12
196	万葉森(櫻山)	769.33	高知	54. 2.10	156	武石峰	1972.55	長野	51.10. 3
197	城戸木森	908.35	窪川	54. 2.12	157	髷山	744.46	高田	51.10. 4
198	五在所森(高野山)	657.96	窪川	54. 2.12	158	雁田山	759.39	高田	51.10. 4
199	不入山	1336.10	高知	54. 3.28	159	井上山	771.29	長野	51.10. 5
200	鴨川山(白石山)	723.97	宇和島	54. 3.29	160	両子山	720.80	中津	51.11. 2
201	宮之浦岳	1935.32	屋久島	54. 4.25	161	雲ヶ岳	653.90	中津	51.11. 2
202	高隈山(御岳)	1181.74	鹿児島	54. 4.29	162	鹿嶋山	758.10	中津	51.11. 3
203	吉見竜王山	613.86	小串	54. 4.30	163	霧ヶ岳(足立山)	597.77	福岡	51.11. 3
204	瓊羅窟(船山)	2290.34	旭川	54. 5.30	164	登尾山	887.32	岡山及丸亀	52. 1.29
205	手稲山	1023.70	札幌	54. 5.31	165	工石山	1176.39	高知	52. 1.30
206	奥古安岳(オホコノケ)	1308.47	岩内	54. 6. 2	166	西谷ノ岡	561.06	山口	52. 4.23
207	真狩岳(真狩山)	1893.02	岩内	54. 6. 3	167	石ヶ岳	924.27	山口	52. 4.23
208	赤岳	2899.07	甲府	54. 7.21	168	馬糞ヶ岳	985.23	山口	52. 4.23
209	守屋山	1650.30	甲府	54. 7.22	169	猿政山	1267.93	浜田	52. 4.24
210	冠ヶ岳(神山)	1438.18	横須賀	54. 7.29	170	大無間山	2329.34	静岡	52. 5.14
211	鳥海山	2229.93	新庄	54. 8.13	171	天狗森	1295.41	剣山	52. 5.28
212	月山	1979.48	仙台	54. 8.14	172	装束森	1082.88	剣山	52. 5.29
213	岩倉山	2295.00	高田	54.10.10	173	蓼科山	2530.31	長野	52. 6. 5
214	今ノ山	864.62	宇和島	55. 2.11	174	信物ヶ岳(林崎ヶ岳)	2956.25	飯田	52. 8.18
215	滑床山(三本松)	1225.72	宇和島	55. 3.15	175	根岸	875.81	長野	52.10. 1
216	高森山	634.86	宇和島	55. 3.16	176	長倉山(御天山)	1590.75	長野	52.10. 1
217	日本平山	1081.05	新潟	55. 5. 3	177	八風山	1315.24	長野	52.10. 2
218	土埴山	696.47	新潟	55. 5. 4	178	岩倉山(草草山)	543.60	山口	52.11.19
219	鳥屋山	580.55	新潟	55. 5. 5	179	徳佐ヶ峰(信濃)	989.20	山口	52.11.19
220	帯小本山(帯木山)	2168.52	飯田	55. 5.25	180	駄籠山(クツヤ山)	746.28	山口	52.11.20
221	葉山	1461.73	仙台	55. 8. 5	181	弁礼山(大平山)	631.30	山口	52.11.20
222	大洞山(クツヤ)	737.22	仙台	55. 8. 6	182	福智山	900.75	福岡	53. 1.14
223	白鷹山	986.44	仙台	55. 8. 6	183	馬見山	977.84	福岡	53. 1.15
224	屏風岳	1817.06	仙台	55. 8. 7	184	英彦山	1199.62	福岡	53. 1.16
225	妙高山	2445.90	高田	55. 9.14	185	戸倉山	1680.67	甲府	53. 4.28
226	常念岳(前常念岳)	2661.78	高山	55. 9.16	186	丹沢山	1567.06	東京	53. 5.27
227	斑尾山	1381.81	高田	55.10.19	187	猫岳(根子岳)	2127.90	長野	53.10. 8
228	大蔵寺山	607.65	西郷	55.11. 1	188	竜塔山(東竜ノ山)	2227.18	長野	53.10. 9

500以上 1等三角点の山(548座) 登頂記録

No.	点名(山名)	標高(%)	20万円	登頂日	No.	点名(山名)	標高(%)	20万円	登頂日
109	大平山	697.30	高梁	S 49. 6. 1	69	羽子立山(瑞雲山)	547.03	宮津	S 42. 9.19
110	道後山	1268.93	高梁	49. 6. 2	70	三周ヶ岳	1292.02	岐阜	42. 9.20
111	大黒目山	801.64	高梁	49. 6. 2	71	富士塚ヶ岳	941.92	金沢	42. 9.28
112	女角山	830.29	浜田	49. 6. 2	72	医王山	939.13	金沢	42.10. 4
113	八幡竜山(三ツツ山)	665.08	岡山及丸亀	49. 6. 3	73	能郷白山	1617.33	岐阜	42.10.20
114	八高山	832.12	静岡	49. 6.13	74	御前岳	1816.48	金沢	42.11. 7
115	竜爪山	1041.04	静岡	49.10. 6	75	木地山(石栗ヶ岳)	931.31	宮津	42.11.26
116	岡田山	638.76	浜田	19.10.11	76	南赤(南赤山)	981.98	伊勢	42.12.18
117	鷹ノ巣山	922.10	広島	49.10.12	77	法師ノ森(法師山)	1120.20	田辺	43. 1.15
118	堂床山	859.61	広島	49.10.13	78	葛城山(御座山)	865.68	和歌山	43. 2. 7
119	小田山	719.05	広島	49.10.13	79	金剛山	1112.18	和歌山	43. 2.14
120	能美島(宇根山)	542.00	広島	49.10.13	80	生石山(生石ヶ岳)	870.06	和歌山	43. 2.23
121	黒姫山	1221.53	富山	49.11. 2	81	陣ヶ峰	1105.84	和歌山	43. 3. 7
122	鈴ヶ岳	1316.82	高田	49.11. 3	82	果無山(冷水山)	1261.91	田辺	43. 4.22
123	米山	992.01	高田	49.11. 4	83	玉置山	1076.41	田辺	43. 4.23
124	星ノ城山	816.67	徳島	49.11.24	84	滝山	1196.53	姫路	43. 5.19
125	清久山	565.37	高梁	49.12. 7	85	洗足谷山(洗足山)	736.25	姫路	43. 6. 2
126	鼻高山	563.32	大社	49.12. 8	86	宝達山	637.12	七尾	43. 6.10
127	大摩山	574.18	浜田	49.12. 9	87	高坂山(蔵王山)	507.62	七尾	43. 6.11
128	竜王山(四ツ山)	1012.85	徳島	50. 1.13	88	半田山(仏ヶ岳)	743.48	高梁	43. 6.23
129	万城山(天城山)	1405.56	横須賀	50. 3. 9	89	星山	1030.29	高梁	43. 6.24
130	黒法師岳	2067.46	静岡	50. 3.21	90	泉ヶ山(泉山)	1209.11	高梁	43. 6.25
131	冠山	1338.93	広島	50. 4.27	91	三國ヶ山	1251.92	鳥取	43.11.19
132	駒尾山(臥竜山)	1223.49	浜田	50. 4.28	92	長老ヶ岳	916.88	京都及大阪	43.12.19
133	弥彦山(多宝山)	633.79	長岡	50. 5. 2	93	妙見山	519.18	姫路	44. 2. 6
134	松平山	953.92	新潟	50. 5. 3	94	二子山(次ヶ岳)	1358.55	松江	44. 4.20
135	矢筈山	787.71	徳島	50. 6.18	95	赤石岳	3120.06	甲府	44. 8. 2
136	高越山	1221.85	徳島	50. 6.19	96	両山寺山(二山)	689.19	高梁	45. 1.22
137	武尊山	2158.65	日光	50. 7.10	97	鬼面山	1889.34	飯田	45. 5. 3
138	剣山	1954.65	剣山	50. 8. 6	98	甲斐駒ヶ岳	2965.58	甲府	45. 9.15
139	二ツ丸山	585.60	徳島	50. 8. 6	99	白倉山	1027.14	豊橋	47. 5.27
140	駒籠山(駒切山)	883.60	剣山	50. 9.13	100	花見山	1188.04	高梁	47.10. 8
141	旭ノ丸山(旭ヶ丸)	1019.51	剣山	50. 9.14	101	六谷山	1396.04	高山	47.11. 4
142	聖山	1447.15	長野	50.10. 5	102	金剛堂山	1637.87	高山	48.11. 4
143	大山	691.31	徳島	51. 1.25	103	天神山	777.58	高梁	49. 1.19
144	達磨山	981.90	静岡	51. 2.24	104	三山竜王山(竜山)	504.58	高梁	49. 1.19
145	岩科村(大峠)	520.25	静岡	51. 2.25	105	星居山(星ノ山)	834.67	高梁	49. 4. 4
146	仁尾ノ内山(仁尾)	1515.90	高知	51. 3.13	106	濁谷山(濁谷ノ山)	1238.01	富山	49. 5. 3
147	大元森(根ヶ森)	1399.62	高知	51. 3.14	107	熊伏山	1653.62	豊橋	49. 5. 8
148	中津山	1446.62	高知	51. 3.15	108	鉢伏山	543.62	輪島	49. 5.24

No.	点名(山名)	標高(ℓ)	20万図	登頂日
349	半田山	863.12	福島	S 60. 3.26
350	女神山	599.12	福島	60. 3.27
351	羽山(麓山)	897.10	福島	60. 3.28
352	大滝根山	1192.45	福島	60. 3.29
353	蓬田岳	952.23	白河	60. 3.30
354	妙見山	674.88	白河	60. 3.30
355	栄蔵室(花崗山)	881.56	白河	60. 3.31
356	摩耶山	1019.70	村上	60. 6. 5
357	中之沢山(出ヶ峰)	694.15	新潟	60. 6. 6
358	浅草岳	1585.45	新潟	60. 6. 9
359	割引岳	1930.90	高田	60. 6.10
360	岩寒岳(岩寒峰)	1491.44	留萌	60. 7.13
361	三頭山	1009.09	名寄	60. 7.16
362	寶瓶山(ビンネン)	1100.33	留萌	60. 7.17
363	利尻山	1218.30	天塩	60. 7.19
364	阿寒富士	1476.29	斜里	60. 7.24
365	千軒岳(大千軒岳)	1071.63	函館	60. 7.26
366	奥尻島(神威山)	576.38	久遠	60. 7.27
367	札幌岳	1293.81	札幌	60. 7.28
368	幌内山	624.98	室蘭	60. 7.29
369	鷲別岳	910.98	苫小牧	60. 7.30
370	富良野山(トマラウツ山)	2140.99	旭川	60. 8. 1
371	立山(雄山)	2991.96	高山	60. 8.16
372	乗鞍岳	3026.25	高山	60. 8.22
373	黒岩(大鳥屋山)	693.06	宇都宮	60. 9.20
374	高原山(釈迦岳)	1794.85	日光	60. 9.21
375	苗場山	2145.26	高田	60. 9.27
376	三倉山(三本槍岳)	1916.94	日光	60.10.12
377	吾妻山(一ツ峰山)	1948.77	福島	60.10.15
378	猪苗岳(猪苗ヶ岳)	1404.00	福島	60.10.16
379	七ヶ岳	1635.79	日光	60.10.17
380	大戸岳	1415.86	新潟	60.10.18
381	四方原山	1631.63	長野	60.10.20
382	名久井岳	615.35	八戸	60.11.12
383	折詰岳(折爪岳)	852.24	八戸	60.11.13
384	姫神山	1123.79	盛岡	60.11.16
385	室根山	895.37	一関	60.11.18
386	田東山	512.38	一関	60.11.19
387	口永良部島(新岳)	600.06	屋久島	61. 1. 9
388	黒島(輪岳)	621.86	黒島	61. 3.20

No.	点名(山名)	標高(ℓ)	20万図	登頂日
309	笹ノ峰	1340.37	延岡	S 59. 5. 6
310	愛鷹山	1187.49	静岡	59. 5.27
311	白神岳	1231.88	弘前	59. 8. 4
312	岩木山	1625.19	弘前	59. 8. 5
313	矢捨長根(矢捨山)	563.99	弘前	59. 8. 6
314	田代山(田代岳)	1177.79	弘前	59. 8. 7
315	高森山(高森)	592.51	弘前	59. 8. 7
316	白地山	1034.02	弘前	59. 8. 8
317	八甲田山	1584.64	弘前	59. 8. 9
318	岩手山	2040.50	盛岡	59. 8.10
319	早池峰(早池山)	1913.61	盛岡	59. 8.11
320	赤城山	1673.88	宇都宮	59.10. 7
321	榛名富士(榛名山)	1390.67	長野	59.10. 7
322	城峰山	1037.72	宇都宮	59.10. 8
323	堂平山	875.79	宇都宮	59.10. 8
324	男体山	2484.45	日光	59.10.10
325	小金沢山(黒岳)	1987.54	甲府	59.10.28
326	新保岳	852.19	村上	59.11. 9
327	経塚山	635.96	長岡	59.11.10
328	武野ヶ平(山神山)	947.14	相川	59.11.11
329	鋸山	764.89	長岡	59.11.12
330	吾国山	518.15	水戸	59.11.23
331	高鈴山	623.34	水戸	59.11.23
332	八溝山	1022.21	白河	59.11.24
333	墳墓(久慈男体山)	653.82	白河	59.11.24
334	羽賀場山	774.53	宇都宮	59.11.25
335	鹿倉山	585.45	鹿兒島	60. 1.15
336	井財天(井財天山)	519.07	鹿兒島	60. 1.15
337	八重山	676.81	鹿兒島	60. 1.16
338	烏帽子岳	702.94	鹿兒島	60. 1.17
339	牧神岡(在礼ヶ岡)	552.32	鹿兒島	60. 1.17
340	下飯島(尾岳)	604.33	飯島	60. 2. 3
341	中之島Ⅱ(御岳)	978.98	中之島	60. 2. 5
342	井之川岳	644.80	徳之島	60. 2. 9
343	湯湾岳	694.42	奄美大島	60. 2.10
344	二ツ石山	751.18	白河	60. 3.22
345	蛇兔屋山	875.14	白河	60. 3.23
346	日隠石(日隠山)	601.53	福島	60. 3.24
347	毘沙目木(鉄山)	522.44	福島	60. 3.24
348	手倉山	672.12	福島	60. 3.25

500ℓ以上 1等三角点の山(548座) 登頂記録

No.	点名(山名)	標高(ℓ)	20万図	登頂日
269	扇山(高畑山)	517.59	宮崎	S 57.12.30
270	牛ノ峰	917.99	宮崎	57.12.31
271	西霧島山(霧島)	1700.32	鹿兒島	58. 1. 1
272	白鹿ノ峰(白鹿岳)	603.91	鹿兒島	58. 1. 1
273	甫与志山	967.91	開聞岳	58. 1. 2
274	野尻野塚(野尻岳)	897.32	開聞岳	58. 1. 3
275	黒岳	1792.70	甲府	58. 3.12
276	小岱山(岡ヶ岳)	501.35	熊本	58. 3.19
277	西烏帽子岳	1337.35	大分	58. 3.20
278	熊野岳	685.41	熊本	58. 3.20
279	鏡山	645.36	大分	58. 5. 6
280	祝子川山(大嶺山)	1643.52	大分	58. 5. 7
281	元越山	581.54	大分	58. 5. 8
282	鉢盛山	2446.43	高山	58. 5.29
283	速日岳(速日の峰)	868.03	延岡	58. 6. 4
284	入霧月峰(昔山)	795.63	旭川	58. 8. 1
285	和寒山	740.59	旭川	58. 8. 2
286	天塩岳	1557.58	旭川	58. 8. 3
287	神女徳山(徳山)	1912.05	旭川	58. 8. 5
288	冬路山	625.05	旭川	58. 8. 7
289	樽前岳(樽前山)	1023.76	札幌	58. 8. 8
290	酢川岳(栗駒山)	1627.69	新庄	58.10. 8
291	舟形山(船形山)	1500.23	仙台	58.11. 4
292	東嶺山	595.70	一関	58.11. 5
293	高旗山	968.14	福島	58.11. 6
294	蘇野峰(蘇野ヶ峰)	1402.77	松山	58.11.27
295	尾ノ岳	1040.68	熊本	58.12.29
296	倉ヶ岳(倉岳)	682.22	八代	58.12.30
297	角岳(角山)	525.86	八代	58.12.30
298	矢筈山(矢筈岳)	686.98	八代	58.12.31
299	笠山	567.33	八代	59. 1. 1
300	野間岳	591.10	鹿兒島	59. 1. 1
301	国見岳	1738.82	延岡	59. 4.28
302	白ヶ岳(白髪岳)	1244.26	八代	59. 4.29
303	国見岳(国見山)	969.29	八代	59. 4.29
304	白髪岳	1416.65	八代	59. 4.30
305	市房山	1721.81	延岡	59. 5. 1
306	鯛ノ塚(鯛塚山)	1118.64	宮崎	59. 5. 2
307	大森岳	1108.64	延岡	59. 5. 3
308	尾鈴山	1405.16	延岡	59. 5. 4

No.	点名(山名)	標高(%)	20万国	登頂日
509	霧真山	613.01	帯広	H 4. 7.17
510	沙間樹庵	569.50	夕張岳	4. 7.20
511	佐主岳	618.90	夕張岳	4. 7.24
512	辺富内(マツノ山)	1021.36	夕張岳	4. 7.24
513	悪石島(御岳)	584.03	中之島	5. 3. 9
514	中之島 I (先刻岳)	524.10	中之島	5. 3.10
515	千登堂山(マツノ山)	1445.84	北見	5. 4.12
516	海別岳	1419.40	斜里	5. 4.14
517	遠音岳(オホベツ岳)	1330.53	標津	5. 4.15
518	糸部山(江津山)	713.00	斜里	5. 4.16
519	弁熱嶺(ベツノ嶺)	836.30	斜里	5. 7.10
520	砂馬毛岳(マツノ山)	1062.54	斜里	5. 7.12
521	比探驛山(ベツノ山)	718.67	浦河	5. 7.15
522	藪内山(ベツノ山)	1167.16	浦河	6. 4.13
523	豊島山(豊島岳)	1105.21	広尾	6. 4.14
524	知床岬(知床岬)	1254.20	知床岬	6. 4.16
525	浜益岳	1257.70	留萌	6. 4.19
526	余別岳	1297.75	岩内	6. 4.21
527	安瀬山(ヤスセヤマ)	654.05	留萌	7. 7.12
528	函岳	1129.33	名寄	7. 7.13
529	滝沢山	651.00	名寄	7. 7.14
530	糸魚岳	914.39	名寄	7. 7.24
531	歌登山	572.57	枝幸	7. 7.25
532	落舟山(落舟山)	525.23	名寄	7. 7.29
533	珠文岳	760.96	枝幸	7. 7.31
534	阿目喜岳(天狗岳)	533.03	徳之島	8. 3.29
535	与那覇岳	503.00	与論島	8. 3.31
536	貫気岳(貫気山)	1317.89	浦河	8. 5. 4
537	社溝射岳	1062.45	夕張岳	8. 5. 5
538	毛織尻(毛織山)	916.34	名寄	8. 5. 6
539	鹿岳(イソツクス岳)	581.43	枝幸	8. 5. 7
540	太櫛山	805.42	久遠	8. 7.20
541	八幡岳	664.47	函館	8. 7.24
542	三角山	649.08	函館	8. 7.25
543	大島(江島岳)	714.00	渡島大島	8. 7.28
544	翁原岳(オウ原山)	730.53	留萌	8. 7.30
545	様毛山(マツノ山)	898.05	斜里	8. 8. 2
546	辰丑山(立牛山)	630.01	紋別	8. 8. 5
547	爵岳(ウツ岳)	818.29	紋別	8. 8. 6
548	比後岳(ビツ山)	1031.51	名寄	8. 8. 7

500%以上 1等三角点の山(548座) 登頂記録

No.	点名(山名)	標高(%)	20万国	登頂日
429	姫ヶ岳	650.47	秋田	S 63. 4.25
430	高倉山	1051.32	弘前	63. 4.27
431	中岳	1024.22	弘前	63. 4.28
432	飯森山	1595.40	新潟	63. 5. 1
433	徳心山(マツノ山)	1322.43	苫小牧	63. 6. 3
434	久土山(三角山)	795.28	岩内	63. 6. 6
435	風防留山(風防山)	993.47	岩内	63. 6. 7
436	昆布岳	1045.10	岩内	63. 7.22
437	大平山	1190.58	室蘭	63. 7.24
438	見市岳(ユウラップ岳)	1275.53	室蘭	63. 7.25
439	冬島(アボイ岳)	810.63	広尾	63. 7.28
440	面朝山(楽古岳)	1472.24	広尾	63. 7.30
441	鳥取山(マツノ山)	1834.57	北見	63. 8. 1
442	音更山(オホベツ山)	1931.96	北見	63. 8. 2
443	下宮良野(下宮山)	1331.13	夕張岳	63. 8. 4
444	結城(マツノ山)	1979.40	浦河	63. 8. 7
445	野見山(野見山)	719.53	広尾	63.12.28
446	鳥ヶ尾山(鳥ヶ尾山)	645.27	広島	63.12.29
447	白見山	1172.59	盛岡	H 1. 5.23
448	石峠(三沢の頭)	1209.20	盛岡	1. 5.24
449	和黒森山(黒森)	944.78	秋田	1. 5.27
450	戸来岳(三ツ岳)	1159.43	八戸	1. 5.27
451	遠別岳(安家森)	1239.07	八戸	1. 5.27
452	安黒森山(黒森)	1106.73	盛岡	1. 5.29
453	烏帽子岳	719.61	野辺地	1. 5.30
454	八幡岳	1020.28	野辺地	1. 5.31
455	梵球山(西ノ山)	549.20	青森	1. 6. 2
456	大仏岳	1166.77	秋田	1. 6. 3
457	焼石岳	1548.14	新庄	1. 7.29
458	吹越山(吹越山)	507.81	野辺地	1. 7.30
459	釜臥山	878.60	野辺地	1. 7.31
460	燈岳	781.29	尻屋崎	1. 8. 1
461	福浦山(大作山)	776.30	青森	1. 8. 2
462	東岳	684.01	青森	1. 8. 3
463	小倉岳	676.98	青森	1. 8. 4
464	丸山(丸形岳)	717.97	青森	1. 8. 5
465	桂川岳(西ノ山)	669.54	青森	1. 8. 7
466	樹形山	820.31	青森	1. 8. 8
467	長場内山(長場内山)	945.56	弘前	1. 8.10
468	和賀岳	1440.20	秋田	1. 8.11

## 旧紀州街道の

やまなかだに

よついでしやま

きんゆうじ

## 山中溪駅から四石山を経て金熊寺

コースとコースタイム JR天王寺駅(電車)1時間35分 山中溪駅(1時間) 境谷釜泉(30分)  
1 樋ノ子峠(30分) 四石山(1時間20分) 虎伏山(30分) 金熊寺(10分) 金熊寺バス停  
(30分) JR和泉砂川駅(徒歩13分) 時間 先達 白川電気社

## 中村敏文

の曇天なので境谷回りに変更する。

① 旧紀州街道山中宿(阪南市山中溪) 山中川沿いに雄ノ山峠へ通じる紀州街道の街村、近世の山中村は和泉から紀伊への要路として古代から通じていた。古典『日本後紀』に桓武天皇が紀伊国行幸の帰途、「自雄山道、還日根宮」とこの道を峠越えしている。中世は熊野道といわれ、近世は紀州街道の雄ノ山北山麓最初の山中宿として賑わっていた。

戦後に山中溪温泉として一時は賑わいを見せたが現在は寂れている。山中溪駅の周辺には熊野道の馬目王子と、地藏堂王子跡や中世の関所跡がある。

四石山登山は関所跡から山中へ入り、1時間余りの登りで山頂へ着くが、雨後

② 境谷釜泉(和歌山県岩出町境谷) 山中溪駅から山中川沿いに熊野道を伝い大字桑畑へ入り、府県境で高速道路下をくぐり東側の山中へ入ると和歌山県で山中溪駅から1時間ほどで境谷の氏神日吉神社へ着く。境谷は四石山の南山麓にあり、周囲を山に囲まれた近世からの山村で、昔から村の南西に井戸があって近世中頃から水を温め病人を入浴させたという。

近世後期には阪南市信達童子畑の桜地蔵前に文安五年銘の道標が残るように、相当数の湯治客があつて東西からの山道

を境谷釜泉を目指したという。近辺の寺に石像本尊が多いが、真言宗の地藏寺も石地藏を本尊として安置してある。

③ 樋ノ子峠から四石山(境谷)

境谷から西北方向へゆるい坂道を半時間も登ると由来のわからない峠に着く。大和の幻の蛇、ツチノコかと地元で訊ねてみたが首を振って笑われた。

樋ノ子峠から府県境に近い灌木の茂る尾根道を半時間も登り切ると四石山山頂で、384段の展望の開けた広場は、南が境谷、西側は阪南市桑畑、東は泉南市信達の楠畑と岡中が境する。

小広い台地の山頂は測量塔と気象観測用太陽パンザマストが突っ立っている。山名の四ツ石は山頂になく、山麓か中腹に境界とした石が存在したかも知れない。

西方には泉南の海に淡路島が思ったより大きく見え、東から南にかけて紀泉高原の山々と山麓の町と紀ノ川が見える。遠く南東方向には仏法の聖地高野山、修験道の行場である大峰山が見える。

山頂から山中溪駅へは東へ上がり下がり尾根を半時間、北への急坂で沢に出

て鉄塔まで登り、尾根に出て半時間着く。この四石山登山コースは駅から1時間半はみなければならぬだろう。

### ④ 虎伏山(阪南市信達金熊寺・岡中)

四石山の2等三角点に別れを告げ、ツゲなどの茂る細い山道を西南へ向かう。採石場の上部を二度通過して踏み跡のあ



やしい道を伝うと、375段のピークに着く。展望のよいピークで、小休止をするのに絶好の海と山々を比べ見る場所である。

露岩の多い急坂を下り、ツツジの多い道からやせた尾根道へ入る。背丈の低い松の多い257段のコブへ登ると左は採石場で、鞍部までくだり、雑木とアカマツの尾根道を伝うと275段の虎伏山山頂へ着く。小広い台地状の山頂は東側がよく開け、ボンデン山・お菊山方面の展望がよい。四石山から虎伏山の登山道は歩きにくい細い道で1時間以上も費やしていた。

### ⑤ 金熊寺(泉南市信達金熊寺)

虎伏山より金熊寺は登り50分、下り半時間と記してあるが、付近一帯は松茸山で9月末から11月末までは入山禁止の登山道である。アカマツと雑木が交じる稜線をくだり、ブッシュで隠れた急坂をくだる尾根道伝いに鞍部を通り、シダの多い雑木林を抜ける金熊寺の集落へ出る。

\* 信達神社(昔は金熊寺権現社)

神武天皇・金山彦命・伊佐那美命をまつり、明治に村社となる。以前は金熊寺の鎮守社で信達庄十三カ村の産土神として崇敬された。社伝では昔、樽井の海岸に神武天皇の神像が出現し、里人が樽井の地にまつった。その後、現在地に遷座

し、明治の神仏分離で金熊寺から独立した。延喜式臨時祭にある「畿内堺十処疫神祭」は、和泉と紀伊の堺に鎮座する疫神の祭りで当社で行われたとの伝承がある。

\* 金熊寺(山号一栗山、真言宗御室派)

如意輪観音を本尊に安置した役行者が、夢告により開創したという古寺である。行者は夢告により土中より六寸の金銅仏を得て自らも本尊木像を彫刻し、三間四方の堂を建立したと寺伝にある。

寺名の金は吉野の金峰、熊は熊野の神を勧請したことになむという。鎌倉時代の正安元年に本尊と薬師堂を残して焼失し、天正十三年の豊臣秀吉の紀州攻めの兵火で焼失する。その後、再建されて鎮守社・薬師堂・観音堂・地藏堂・神主屋敷を保持したが、現在は塔頭の観音院だけ残り金熊寺の寺跡を継承している。

\* 金熊寺梅林(金熊寺背後丘陵一帯)

小月ヶ瀬と宣伝され、近世より文人墨客が訪れて風情を楽しんだ。現在は丘陵の農家が産物で料理を出し、棧敷で数種の大衆料理を商っている。JR和泉砂川駅から半時間のバス便があるので梅の開花時期は観光客が比較的多い。



# 蜻蛉の滝を訪ねて

松永恵一

蜻蛉

雄略天皇が吉野の阿岐豆野に出かけて狩りをした時のこと。天皇の腕に蛇が喰いついた。蜻蛉がその蛇をばつと銜えて飛び去った。そこで天皇は歌を詠まれた。み吉野の 小室が岳に しし伏すと

誰そ 大前にまをす  
やすみしし わが大君の  
しし待つと 貝床に坐し  
しろたへの 袖きそなふ  
手肘に 蛇かきつき  
その蛇を 蜻蛉はや咋ひ  
かくのごと 名に負はむと  
そらみつ 倭の国を 蜻蛉島とふ  
そこで、その時よりその野を名付けて、阿岐豆野と言う。

「古事記」に伝わる雄略天皇の話は、お手柄の蜻蛉を称えて大和の汎称にしたという地名説話であるが、弥生時代の銅鐸にもトンボは描かれている。稲作になくはならない益虫であった。

後、トンボは勝利を呼び込む縁起のいい虫、「勝虫」と呼ばれるようになり、家紋や武具の飾りに好んで用いられた。大河ドラマの前田利家は、蜻蛉紋の着物を着、兜の前立てにトンボ（勝虫）を付けて活躍した。

古来、わが国は「大八州」「秋津島」「豊原瑞穂国」「葦原中国」「大和」と呼ばれていた。「日本書紀」は、神武天皇の条に畿上で国見をされて、「なんとすばらしい国を得たことだ。狭い国では

「大滝（西河の滝）」大和名所図会



あるが、蜻蛉が替ナメ（交尾）しているように、山々が連なり囲んでいる国だ」とおっしゃったので、秋津島と名付けられたと伝える。

雄略天皇のトンボは蛇を捕食するぐらだから、オニヤンマ、ギンヤンマなど的大型トンボであろうか。わが国は「黄金の稲穂が波打ち、トンボが飛び交う豊かな島国」。水と自然を大切に、トンボを身近な存在としたいものである。

芭蕉の足跡

貞享元年（1684）9月下旬、「野ざらし紀行」の旅の途次、久しく憧れの地であった吉野を訪れた。江戸から同行した千里の故郷、当麻の竹ノ内を訪れた後、一人で上市の表口から入った。桜紅葉の散るなかに西行庵、苔清水、後醍醐天皇陵と巡り歩いた。

貞享五年3月の『笈の小文』の旅では前回とは道を変え、東熊野街道を進み、西河から右へ折れて音無川をつめて、蜻蛉の滝から青根ヶ峯に登っている。『笈の小文』は次のように記す。

西河

ほろほろと山吹散るか滝の音

蜻蛉が瀧

「蜻蛉が瀧」は名のみ記す。貝原益軒は『和州巡覧記』に「西河の滝 是吉野川の上也。大滝とも云。」と記した。大滝は吉野川本流の激湍で、急流が岩をかんで白くたぎる流つ瀬で、落下する飛瀑ではない。古語の滝は、急流・早瀬を指した。芭蕉は紀貫之の「吉野川岸の山吹ふく風に底の影さへうつろひにけり」をふまえ、すさまじい水音を背景にし、川風に山吹の黄色い花のこぼれ散る景を詠んだ。

宣長の足跡

本居宣長は明和九年（1772）3月5日から14日まで10日間、吉野・飛鳥を旅した。宣長43歳後厄。木版一枚の大和国概略図「大和国中ひとりあんない」と貝原益軒著「和州巡覧記」を持ち旅立った。友人・門人と吉野山の花見を兼ねた旅は、学問的成果も多く、楽しい旅であった。「菅笠日記」に残る。文章・記述・構成に優れた「菅笠日記」は、吉野や飛鳥を巡る人々によく読まれた。

3月9日。吉野水分神社から金御峯神社へ。ここまでは13歳の時に大峰山参り「サンジョマイリ」で来ている。ここから西行庵に行く。戻って、今度は山を仏ヶ峰に向かってくだる。西河で紙漉しを見て、大滝村に行く。吉野川の筏流しを見ながら一杯飲み、次はせいいめいが滝（蜻蛉の滝、滝上までよじ登ってみる。来た道を戻り、宮滝へと向かう。岩の上から急流に飛び込む「岩飛び」というすさまじい芸を見て、喜佐谷を通して吉野山吉水院近くにとった宿、箱屋某に帰る。

この日の宣長一行の歩いた跡をたどり歩いてみると、当時の人の健脚ぶりがよくわかる。

土倉庄三郎翁

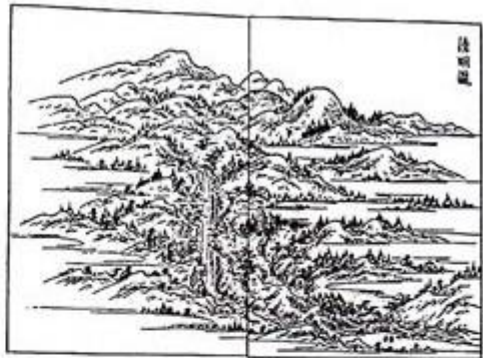
奈良県の70%は山林。「日本の造林王」と称された土倉庄三郎は、天保十一年（1840）大滝の地に生まれた。「秋田杉」「木曾檜」と並んで日本三大人工林として有名な「吉野杉」の地で、植林・育林・伐採・運搬に至るまで広い視野で心を配る「土倉式造林法」を編み出した。明治十五年（1883）農商務大輔品川弥二郎は川上村を訪れている。

造林育成の技術を地元吉野だけに生かすのではなく、全国の山林を見て歩き、指導・講演を行い、造林の実践を行った。静岡県天竜川流域・群馬県伊保・滋賀県塩津・奈良県西吉野・兵庫県但馬、ついには遠く台湾にも及んだ。

利益は「三分の一は国のため、三分の一は教育のため、三分の一は自分の仕事のために使う」という方針を貫き、社会事業に莫大な私財を投じた。道路や河川の改修をし、川上村に奈良県初の小学校を創り、同志社大学・日本女子大学創設に尽力した。その業績は、各方面に及んでいる。

大滝の鐘崖には「土倉翁造林頌徳記念」の文字が刻まれ、業績を称えている。

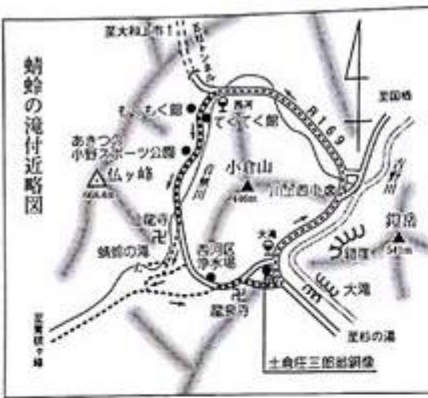




「清明滝 (蜻蛉の滝)」大和名所図会

コース概観

吉野は古来人々の憧憬の地。山河の景観に魅せられ、しばしば足を運んだ。風光明媚な吉野は、桜で知られる吉野山ではなく吉「野」であった。この地に行幸され、秋津と名づけられたのは万葉集巻頭の歌でも知られる雄略天皇。宮滝遺跡は持統天皇の吉野離宮と推定される。「樹と水と人の共生」をめざす川上村に、先人の足跡を訪ねて出かけてみた。



時雨かな」の句碑がたたずむ。滝見台に戻る。滝の水が引かれているので口を含む。なんとなく甘みがある。不動堂の横から遊歩道を登る。急な階段を登り、吊橋を渡って音無川を左手に見ながら進む。しばらくで遊歩道と吉野山との道が分かれる。案内板に従い右にとると吉野山。やがて大滝から来る道と合流する。蜻蛉の滝の上流にあたる音無川を右に見ながらならかな道を行く。右手奥の高い峰は仏ヶ峰。古道に歴史を感じながら進む。谷

近鉄吉野線大和上市駅下車。2番のりばから湯盛温泉杉の湯行きに乗る。駅を出たバスは吉野川に沿って進む。宮滝を通り、五社トンネルを抜けると川上村。西河停留所下車。バス約25分。少し戻り歩道橋の所で左へ曲がる。右に林業資料館山幸彦の「もくもく館」、左に川上村観光案内所の「てくてく館」が建っている。土倉庄三郎の像が迎える「もくもく館」は、吉野杉の歴史や特徴、林業のことを紹介する木造二階建ての林業資料館。建物そのものが展示物になっている。「てくてく館」は、山々に囲まれた山村の雰囲気を感じる特産品を販売している。二つの建物の間の車道を行く。蜻蛉の滝0・8kmの標識が立つ。すぐ右に「あきつ小野スポーツ公園」。川上村の豊かな自然に囲まれたスポーツゾーン。右手に山が迫り駐車場が見えてくる。きれいに整備された「あきつ小野桜の庭園」の入口の茶店風の建物は「桜の香和家」と名付けられたトイレ。真新しい忠霊塔が目に入る。音無川で水遊びする子どもたちの歓声がこだましている。園内はバーベキューなどが禁止されている。このあたりは、仙龍寺のあった所。文

が徐々に浅くなり、流れも遅ってきた所で小さな橋を渡る。川と別れ「右よしの施主大滝辻之内久左衛門」と刻まれた古い道標を見る。杉林の山腹を絡む道をしばらく急登する。急に視界が開けたと思ったら、そこは吉野大峰林道。すぐ目の前が青根ヶ峰(857.9m)の頂上である。遊歩道を進むと、西河区浄水場に出る。くだると「あきつ小野桜の庭園」。登ると大滝の集落。龍泉寺の入口に斎藤茂吉の「滝のべの龍泉寺にて夏ふけし白さるすべり見つつ旅人」の歌碑がある。昭和五年八月、茂吉は高野山から明日香・吉野を経て丹生川上神社上社を訪れた。12日に龍泉寺に立ち寄っている。龍泉寺は、雄略天皇・持統天皇の行宮址に建立されたと伝わる。急な道をくだると明治の様式を今に伝える大滝公会堂。右手に道をとると、杉木立のなかを登ると小滝。林道を少しくだと正面に落差約50mの小滝が現れる。小滝より少しくだと国道169号線に出る。大滝郵便局の横に、土倉庄三郎翁の銅像が建つ。芭蕉が「ほろほろと山吹散るか滝の音」と詠んだ大滝が望める。

政年間の山崩れで倒壊し、対岸に移された。鳥居の右の苦むした岸壁に大日如来を意味する梵字「ア」が刻まれている。鳥居をくぐり石段を登る。水音が次第に大きくなり、左に弁財天堂を見て岩角を回る。深く切り立った大きな岩陰に、巨大な円筒を縦に割ったような垂直の絶壁のなかを激しい水勢で落下する。落差は約50m。滝見台から螺旋階段で滝壺近くにおりる。滝の中段正面に渡された橋の上立つ。頭上からかぶさるように降ってくる水は眼下で二段に落ち、碧色の水がお釜に溢れている。滝の飛沫が虹をつくる。このあたりは一名「虹光」といわれる。

大峰山中にはもっと大きな滝がいくつもあるが、手近に行ける最も見応えのある滝で、名瀑の名に恥じない。滝の周囲は鬱蒼とした森林に囲まれ、昼なのに薄暗く、真夏も涼しげな空気が漂う。周囲の緑と調和した瀑布は、吸い込まれるように美しい。来て本当によかったと思う瞬間である。蕉門十哲の一人、其角が元禄七年9月未を訪れた時の「三尺の身をにしかうの

大滝ダムがつくられ、水量は少なくなり、花を散らすほどの激湍の潮音は聞くすべもないが、谷底を深めた吉野川上流の荒々しい眺めは、絶景というに値する。「土倉翁造林頌徳記念」の文字が目に入る。鐘崖は源義経が鎧を脱ぎ捨てた所と伝わる。国道を左に折れ、西河の集落を歩く。正面に旧吉野林業高校の正門が見える。今は川上西小学校の裏門。十二社神社境内のイチヨウを見て西河停留所に戻る。

大滝ダムがつくられ、水量は少なくなり、花を散らすほどの激湍の潮音は聞くすべもないが、谷底を深めた吉野川上流の荒々しい眺めは、絶景というに値する。「土倉翁造林頌徳記念」の文字が目に入る。鐘崖は源義経が鎧を脱ぎ捨てた所と伝わる。国道を左に折れ、西河の集落を歩く。正面に旧吉野林業高校の正門が見える。今は川上西小学校の裏門。十二社神社境内のイチヨウを見て西河停留所に戻る。

- △コースタイム▽
  - 近鉄大和上市駅(バス約25分)西河(5分)もくもく館(20分)蜻蛉の滝(青根ヶ峰・2時間)・(大滝・西河周道2時間30分)西河
- △地形図▽2万5千1和歌山
- △費用▽近鉄阿倍野橋駅・大和上市駅
  - 大和上市駅・西河停留所 700円
  - 950円
- △問い合わせ先▽
  - 川上村役場産業振興課 07465(2)0111
  - もくもく館 07465(3)2929

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑩

「愛宕山」(上)

西尾 寿一

愛宕山の由来はその歴史的な重厚さからみて歴大なものがあるだろう。登山で身近かな山だけにこれを解き明かすのは容易ではない。

例によって「コンサイス日本山名辞典」を引くと、驚いたことに愛宕山の総本山である京都の山を十八番目に登場させ、しかも山名由来にアイヌ語・レブチャ語まで持ち出す念の入れようである。そして「愛宕神社が山頂にあるので山名になったものが多い」と結んでいる。この辞典の解説は愛宕の名称を自然発生的にとらえ、宗教的伝播にふれていない。

御嶽・白山・秋葉山などがわが国に多くあるのはなぜなのか、との問いにこれでは愛宕山と同様、答えることができない。

「古代地名を歩く」の吉田金彦氏は、「和名抄」によるとして「山城国に愛宕

女性が自分のことを「アテ」と言うことを知っているから理解しやすいが、謙遜する意味に使っていたようで、京都にこの古い言葉が残っていることが貴重だったと今では思っている。

小生はこの柳田説をみて直感的に愛宕山はひょっとすると「丹波から山城へ移動した」のではないかと考えた。その意味で柳田説のもつ洞察力・直観力というもののすこささ思い知ったのである。

これをもう少し詳しく説明すると次のようになる。

愛宕山はいくつもの峯をもつ山群と違ってよいかから実質の問題として、どの峯に愛宕神社があってもよいのである。この場合、丹波側の信仰対象の山は現在の地蔵山だったのでないかと思う。この山は一等三角点が置かれ、山塊の最高峰であり、山の風格も現愛宕山より格上とみている。

地蔵山を元の愛宕山とすると話が早い。丹波国分の元愛宕神社は里宮であり、原の社は中宮となる。この中宮からすぐ上部に地蔵山があり登拝は容易である。現愛宕山へは登路(登拝路)の設定に難があるようにみえる。

郡があり、その十二郷の中に愛宕(於多木)郷や上下の出雲郷がある。亀岡の愛宕神社の辺とは別に、今の京都市北部地区にオタギ郷があったわけで、平安時代にはアタゴ山を中心として、西にも東にもオタギと呼ばれる土地があったわけだ。平安京の繁栄とともに愛宕神への崇敬が高まり、全国の愛宕信仰の総本山としての勢力を有するに至った」と述べ、アタゴとオタギは共に地形語で同じ意味があると考え、「アタゴはアフ(逢)タゴ(曲折)で険阻な山(路)に出逢うところ」と結論づけている。

この説はたいがい他の、例えば「古代地名語源辞典」なども似ていて地名語源説の有力な一大勢力となっている。

この分野の大御所の人物である柳田国男はさすがにすこし違ったとらえ方である。「地名の歴史」には次の記述がある。「アタゴという地名は京都の北部だけでなく、それから天竜をへだつた遠州の磐田郡にも有名な阿多古がある。いずれも命名者のいる所と反対側にあることを意味し、したがって京の愛宕山なども、以前の登り口は丹波の方であったということになる」と述べているが、この文章に

わざわざ丹波の信仰が国境の山城を望む位置へ進出する理由がないのである。

愛宕信仰が朝日峯と呼ばれる(東に開け、京都盆地が一望でき朝日も当たる。地蔵山は不可)山城境へ移動した理由は山城(平安京)の開発と関係が深い。どうして多くの信者をさばくには山頂の社の移動が欠かせなかったわけである。信者数と信仰の規模において丹波側は次第に京都側に吸収される形で統合したとすれば、柳田説が裏側をアテという解釈に整合性が出てくる。朝日峯は現在の同名の山ではなく、現愛宕山の旧名であり、ここにも愛宕信仰の中心が丹波側から京都側に移った意味がかくされているような気がする。

愛宕山の参道(清滝道)がいかに強引につけられたものかは現在でもわかる。しかも高度差700mという落差である。全国の愛宕山でこれほど峻しいものは見当たらないと思う。峽間をたどり峠を越え、やっと登拝口の清滝に至るコースは都市の山にしては異例である。さすが総本山としての貫禄が十分である。

最後に天理大学の日本史研究家アンヌ・マイ・ブッシュ氏の「愛宕山の山岳信仰」

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市清池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

先立ちアタゴのうちの「アテ」について述べている所をみると、「アテ」という語は(中略)一本の木材の日を受けない側、すなわち成長が悪く木理が伸びず節だつて加工の困難な部分だからきらわれ、ひいては物のよくないのをみなアテといひて醜態までをアテという隠語までできているが、語の起りは単に、こちらから見えない側・遠近のオチなどと同じ語だつたようだ」とある。伊勢でも木の谷側をアテと呼び、成長のよくない場合に使い、山の谷に面した急斜面をいう場合もある。「アテ」は小生が子どものころ、親戚の

を軸に別の角度から愛宕山の謎にせまってみてみた。

まず論文では愛宕山の異名をあげている。

阿当護(延喜式)・愛当護(三代実録)・阿多古(神名帳)・愛宕護(今昔物語)・愛太子(法華験記)・愛宕護山(秋家官班記)とあって一定しないのであり、従って漢字の愛宕は単なる宛て字であり、アタゴまたはアテ・オタギの音に比重を置くべきことがわかる。

次にこの論文はわずかな資料を見逃さず、次々と謎を明らかにしていく。

「延喜式」と「三代実録」は一致して「此山撰丹州桑田郡、今山城国也」とするにもかかわらず、すでに鎌倉末期から宛字を逆に名称の発祥と考え、愛宕郡の鷹峯の東隣に旧社地があったために名称ができたと解釈するようになった。その上この社地の移動をなしたのは慶長僧都であるとした。これ以後すべての愛宕の由来や縁起はこの説を唱え……と続くが、今日でもなおこの説を流す地名辞書があるくらいだから、一度定説化した論は容易に直らないのは世の習いでもある。

(つづく)

〈山のレポート〉  
 《山・詩・夢》  
 わたむきやまの  
**綿向山・日野**

紀平 龍雄

深田久弥は百名山選定に当たり、その山の品格・歴史・個性を大きな筆に書いたという。どれもが妥当な基準と思うだろう。これには入っていないが、しかし山の名も深田の脳裏にあったのではなからうか。

名前に惹かれて登る山がある。私の場合は論鶴羽山(兵庫)・青葉山(福井)・巻向山(奈良)などだが、綿向山(滋賀)がそうだった。文字も見ると柔らかなそうだし、山容もゆったりとしているのではない。眺めてよし、登ってよし、心が癒やされる山に違いない。綿向山への思いを温めていた。

初めて登ったのは5・6年前だった。わが家からは交通の便が悪く、やっと息子の車で登る機会に恵まれた。いつものように妻と、そしてこのときは息子も頂上まで付き合ってくれた。期待にそむか

ぬ心温まる山で、とりわけ途中のブナ原生林が生き生きと輝いていた。義理という顔でついてきた息子もこのあたりから口数が多くなった。頂上には大鷲神社がまつられてあり、ここからの眺めは言うことがない。五月晴れの空の下、目の前にどかんと雨乞岳が坐り、その右後方には鎌ヶ岳が顔を覗かせていた。

大満足で下山し、少し時間があるので日野の街をぶらついた。登る前、道を訊いたときもそうだったが、町の人が綿向山のことをよく知っている、やや自慢する気配さえあるのが気に入った。土地の人に訊くと、えてして、「こんな田舎は何もいいことはない」とか「山の名前は知らない」「小学校のとき、遠足で一度登ったことがある」という程度の答えしか返ってこないことが多いのに、ここでは意外だった。

ふとしたことで「綿向山讃歌」があるということを知り、教育委員会に問い合わせると、早速、歌詞が送られてきた。4番まであるが、私はとくに2番が好きだ。

いまもお神います山ふかみどり

「あの子はたあれ」歌碑



そのあけくれの かがやきに  
 人は のぞみを抱きます  
 町はあしたへ進みます  
 ああ わたむきは 夢さそう山  
 夢さそう山  
 これは童謡「あの子はたあれ」や「ちんから峠」などを作詞した細川雄太郎の作で、この人は日野町出身。ついでに



馬見岡綿向神社

「日野町は人口2万3千ながら、合唱団が10余あり、この讃歌も好んで歌われています」と書き添えられていた。

綿向山は標高1110mで、それにちなんで11月10日を「綿向山の日」としている。近年はどこも活性化とか町起こしとかであれこれ施設がつくられたり、イベントが行われたりする。なかにはケバケバシイ、いかにも取ってつけたようなものもあるが、「綿向山の日」は落ち着いた催しに違いない。

地元の人の手で「あの子はたあれ」の歌碑が建てられているらしい。それに近

江日野商人館や綿向神社もあり、雪をかぶった綿向山が見られるかもしれない。それで親しい友人に頼んで車を出してもらった。あいにく天気予報が外れて、この日は途中からかなりの吹雪になった。引返そうかとか話す間に歌碑を見つけた。雪を除けながらカメラに収めた。神社は正式には馬見岡綿向神社といい、いかにも由緒ありそうで荘厳な空気が漂っていた(当初は綿向山頂上にまつられていたが、中世、山麓の現在地に遷座された)。

京都育ちの私には日野葉漬けが懐かしい。あのほろ苦さと酸っぱさ、それに赤菜の色合いは冬の味覚である。本場でみやげに買おうと店に入ると「わたむき漬け」の名で並んでいた。

日野商人館では女の子がメモを取りながら一人で見学していた。冬休みの宿題で、ここを取材しているらしい。校歌に綿向山が歌われているからと尋ねると、出てくると言う。歌ってくれと頼んだら、大きな声ではないけれど恥ずかしがらずに歌ってくれた。日野町立日野中学校校歌である(木俣修作詞)。

綿向山わか葉燃えて  
 くない匂う花の石楠



山の版画家・松田敏男が18年の歳月をかけ、日本の山々を明彩色で、豪快かつ繊細に表現した珠玉の版画集。黒アラスカ・黒アラスカ・大雪山(北極圏の山々)……また、有明や山のほとと、日本の山の季節の移り変り、山への愛着に満ちた目で描いた作品の数々。シムラステーションの山と谷間に、両手両足の「山」を眺めた4本の山々をそとで構成。全頁112頁・A5判・2000円(税別) (東京新聞出版局刊)

中学 この窓にも声も凛々として  
 ひとすじに ひとすじに  
 われら学ぶ  
 育まん 育まん  
 夢をゆたけく  
 眉に 眉に 未来は光れり  
 われらが 日野 日野中学校  
 彼女は学校ではコーラス部に入っていると言う。空はどんよりと雲雲におおわれて、雪化粧の綿向山は見えなかった。

(平成14年12月26日)

琵琶湖に浮かぶ沖島の

尾山

初級コース(★)  
慶佐次 盛一

琵琶湖に浮かぶ主な島は、竹生島と沖島と多景島の三島だが、竹生島と多景島は宗教の島で、唯一、人が住む島が沖島である。

沖島は昔から漁業の島で、島には小学校もあり民宿もある。最近では観光にも力を入れて船便も増えたが、まだまだ観光途上で、静かでひなびた漁村風景を見ることが出来るだろう。私たち男女22人は、この島の最高峰尾山を目指した。

この日は、偶然にも北山グループの出口憲次さんとこいっしょになった。出口さんとは20年米のお付き合いで、懐旧談を楽しむことができたが、この日お別れしてから約4ヶ月後に82歳で急逝された。

出口さんは、「新ハイキング関西の山」創刊当時から積極的に協力された方で、その功績は大きい。このガイドは出口さんへのレクイエムとして捧げたい。

近江八幡駅前から8時37分発、国民休暇村行きの近江鉄道バスに乗る。乗客の中に、赤いタオルで鉢巻きをした独特なスタイルの出口さんを見つけてあいさつする。

終点の国民休暇村で下車。宿舎の前は日本の水泳場55選に選ばれている美しい砂浜である。沖島へはここから約20分ほど歩いた堀切漁港から連絡船が出ていますので、琵琶湖沿いの車道を歩く。

沖合に沖島が見えている。人が仰向けに寝ているように見え、頭に見える所を頭山と呼んでいるのもうなずける。

堀切漁港は、鮎漁の船がびっしりと帆を休め、比良連山が望める所である。船待ち時間が少々あり、出口さんと初めて出会った敦賀の岩龍山のことや、金葉岳で当会の会員の山上新婚式に立ち会っていたことなど、懐かしい話に花が咲く。出口さんはヒマラヤトレッキングも予定しているとか、相変わらずお元気な姿が印象的だった。

尾山の2等三角点



約15分で沖島漁港に着く。ここも鮎漁の船が停泊しており、棧橋正面の漁業会館では漁協婦人部の湖魚販売所が店を開いていた。

湖魚の佃煮のいい香りがするが、お土産は下山してからと、販売所の前を過し突き当たりを左折する。しばらく進んで右の公民館の前を通り、民家の細い路地を抜けると墓地へのセメント舗装の坂

道となる。

漁港を見下ろしながら進むと、最後の墓地に着く。細い山道が現れ、やや急な傾斜を稜線へと登って行く。先発していた出口さんと友人2人を追い抜いて稜線に着く。

稜線はなかなか道が続く、楓や桜の植樹も見られ、ヒトツバが群生している所もあった。しばらく進むと下りとなり、最低鞍部に着く。南へくだる分岐がありマージングもある。下山はこのルート



くだることにして先へ進む。

ゆるい傾斜の道が続く、道端には花の終わったササユリやイワカガミが見られたから、花の季節に訪れるのもいだろう。ゆるい傾斜を登りつめて、平坦な道となる。尾山の三角点を通り過ぎたことに気づいたが、先に蓬菜ヶ岳に行くことにした。

すぐ蓬菜ヶ岳に着く。青々と茂った森のなかで登頂標が残されていた。終始展望のないコースだったが、トンビの鳴き声が聞こえ、通り抜ける風が涼しかった。

しばらく休んでみると、出口さんも姿を現す。どうやら、出口さんも尾山の三角点を見過ごしたようだ。入れ違いに私たちは尾山へと引き返す。

尾山の三角点は最高地点から低い所であり、しかも道から南側へ少しはずれているのでわかりにくい。北向きの2等三角点だった。ゆっくりと歩いていると、出口さんも戻って来られ、三角点を確認されてくたがった。

しばらくして私たちも最低鞍部まで戻り、南へとくだる。この道も展望はなかったが、すぐに沖島小学校の横にくだり着き、また出口さんに追いついた。

学校から琵琶湖のほとりの、ひなびた漁村をたどると元の漁港である。出港にはまだ時間があり、漁港裏の焼浜に出て比良連山や湖北の山並の展望を楽しむ。湖面を渡る涼風にすっかり汗も乾き、漁港に戻って湖魚店の佃煮を冷やかす。

稚アユ・ゴリ・インガイと大豆の佃煮など、いずれも魚協婦人部の主婦たちの手づくりの土産物である。味もよく、値段も手頃で仲間たちによく売れた。売店の奥では出口さんが、どこで手に入れたのか、缶ビールを手にして手招きをしている。また話に花が咲き、こいっしょして連絡船に乗った。

(平成14年6月23日歩く)

▲コースタイム▼  
国民休暇村前(20分) 堀切漁港(船15分)  
沖島漁港(50分) 蓬菜ヶ岳(15分) 尾山(20分) 沖島小学校(10分) 沖島漁港  
△地形図▽2万5千1:1 沖島  
△問い合わせ先▼  
近江八幡市観光課

☎0748(33)3111  
近江鉄道バス ☎0749(22)3306

(里山シリーズ15 敦賀・西浅井)  
 峠の地蔵と湿原を結ぶ道

深坂から山門水源の森

一般コース(★)  
 長宗 清司

余呉トンネルを抜けると琵琶湖は遠ざかり、家の数が極端に減って一層さびしく、近江の果てを感じる。JR湖西線と合流する近江塩津駅からはいよいよ若狭の国(福井県)である。

長い深坂トンネルを抜けると、すぐ無人の新定田駅に到着する。今回のコースは、南下して深坂古道を行く。追分・深坂の集落から道はやがてせせらぎの音がやさしい谷筋に入る。この道は、先ほど通過した深坂トンネルの上部にある。

この峠道は「塩津海道」と呼ばれた旧街道で、今も昔の面影を残している。昔、柴式部が父と通った情景を歌に残し、笠朝臣金村も故郷に残した家人を偲んで歌

を詠んだ。そのことを紹介した案内板が峠への道に立ててある。

深坂峠を少しくだった所に広場があり、地蔵堂が静まっている。

古くは、越前の国守だった平重盛が琵琶湖と日本海を結ぶ運河を計画し、深坂峠から塩津へ流れる大川と、敦賀で日本海に注ぐ笙川を利用しようとした試みが行ったが、大きな岩が現れて工事が進まない。石工の職人が金矢で打ち砕こうと穴を開けたところ、にわかに腰痛をおこし、以後も同じことがおこった。役人が不思議に思って作業を中止し、この岩石を掘り起こしたところ、これがお地蔵様の姿をしていた。それ以来、このことを後世に伝えるため、「掘止め地蔵」としてこの地に安置された。塩の道でもあるこの街道、旅人が安全を願って塩をお供えしたので、別名「塩掛け地蔵」とも呼ばれ、今も多くの参拝者が訪れている。二間四方のりっぱな堂内中央には、高さ約1・8mの大きな花崗岩一石を使った地蔵仏が安置されている。石面いっぱい立像を厚肉彫りしたものが、以前は頭から足元深く塩で真っ白に埋っていたが、今はきれいに洗われている。しかし、長

い歳月で薄茶色の石面には、かすかにお顔が判別できる程度である。道は、ここで三本になる。参道をそのまま「中部北陸自然歩道」をたどれば、近江鶴ヶ丘の集落に出て、国道にバス停があるが、きょうのコースは、いったん林道に戻り、中間の下り道を歩いて次の目的地に向かう。



落ち葉踏みく深坂峠

ら流れ込んだ土砂も多少含まれているが大部分が泥炭層で、なかには氷河期に遡く九州から飛んで来た火山灰が含まれているとのことである。

深坂地蔵(塩津県有林・集いの森ゾーン)案内板の所から国道8号線に向かってくだる。上番掛のバス停付近で国道を離れて、265号線(県道大浦番掛線)へ右折。清掃センター前の上り坂を越えたと齊苑駐車場がある。山門水源の森はここから右手に入る。

案内板に従って標高310m付近近くへ登ると分岐点になる。外周は健脚コース。途中から距離が短く湿原を廻る散策コースとあるが、今回は、健脚コースの半分、



深坂から山門水源の森付近略図

最高地点500m付近まで登る。

以後、ここから県境尾根に向かうが、踏み跡程度で読図中心となる。

県境杭や標識で尾根が確認できれば、あとは踏み跡を南へ忠実にたどればよい。544m地点から標高にして約80m急登して上りつめた所を90度尾根を左折すれば、△657・5mの東ヶ谷山に到達する。その後は関西電力の高圧線鉄塔の巡視路となり、二つ目の鉄塔から西へくだると国道161号線(山中と国境の間)に出る。

バス停は国境集落の南はずれにある。メンバーの体力・時間の配分、バスの時刻によって、山門水源の森のコースを

一周して元の入口から県道大浦番掛線を北上か、または南行すれば、いずれにもバス停があるの、国境までが無理なときは、判断して決める。また

国境でもバス便が少ないから注意する。

(平成14年9月22日歩く(後半分))  
 (平成14年11月23日歩く(前半分))

△コースタイム▽

- JR新定田駅(1時間) 深坂峠(10分)
- 深坂地蔵堂(1時間) 上番掛・分岐点(15分) 山門水源の森入口(40分) 健脚コース最高地点(10分) 県境尾根(45分) 東ヶ谷山(1時間) 二つ目の鉄塔下(40分) 国道161号線(25分) 国境バス停(バス24分) JRマキノ駅

△地形図▽

2万5千1:敦賀・駄口・木之本  
 △問い合わせ先▽

- 滋賀県びわ湖環境部林務緑政課 0775 (28) 3917
  - 西浅井町役場産業観光課 0749 (89) 1121
  - 湖国バス・長浜(宮) 0749 (62) 3201
  - 伊香交通・永原(宮)(タクシー) 0749 (89) 0135
- 〈付記〉山門水源の森  
 散策コース一周4・3h(1時間)  
 健脚コース一周5・0h(1時間15分)

会越の谷川岳(新潟側室谷コース)

御神楽岳

一般コース(★)

金谷 昭

新潟・福島県境にそびえる御神楽岳(1387m)は、標高こそ1400mに満たないが、豪雪により研ぎ澄まされた岩壁とやせ尾根とでガードされ、「会越の谷川岳」と呼ばれる。かつては熟練者にもみ許された山で、安山岩の岩壁群はロッククライマーの領域であり、一般登山者には近寄り難い山となっていた。しかし、新潟県側では、熟練者向きのスリルに富む蛸ヶ平からの栄太郎新道に代わって、平成9年に室谷からの昔の雨乞道が復元された。最近では毎年6月第一土曜日に、山開きを兼ねて小中学校生のいっせいで登山が行われるほどで、一般登山者に近寄りやすい山となっている。

山名は昔、伊佐那美明神をまつる山として崇められ、西日光寺の覚道上人が雨乞に登ったと伝えられている。その後、日照りに悩まされた農民が、この山の頂に祭壇を設けて神楽を奉納し、雨乞の祈禱を捧げる。そして、山頂の池の水を一同が掻き回すと里に雨が降る、との言い伝えによるとされる。古くから霊山として室谷集落の許可なしでは立ち入りが禁じられていた。また春に山麓から見ると、安山岩の岩壁に御幣の雪形が現れると農耕の始まりとしたが、このミテグラが変化したとも言われている。

室谷へはJR磐越西線津川駅より入るが、バスは1日3便と少なく、タクシーかマイカーに頼らざるを得ない。

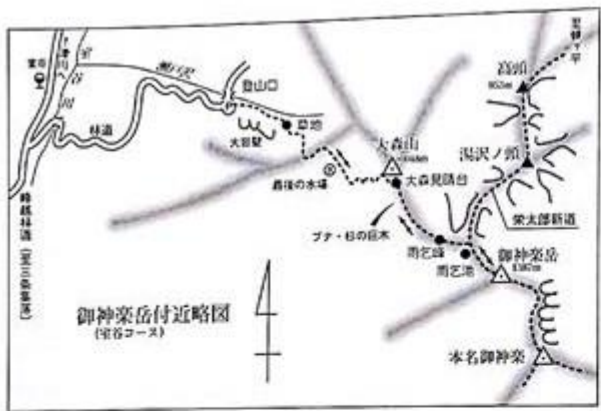
バス終点の室谷からさらに上流に向かつて福島県三条集落に通ずる峠越林道を行き、すぐ左に分岐する林道を約3kmとると、瀬戸沢を渡る手前に登山口が出てくる。5・6台置ける駐車場の脇に登山ポストがある。林道はなお奥にのびているが、ここから山頂まで約1.5kmのよく整備された登山道が、瀬戸沢沿いに始まる。見事なブナ・トチ・ミズナラ等の自然林のなかを瀬戸沢左岸に沿ってゆるやかに

雨乞峰から御神楽岳



に上っていく。左に沢音を聞きながら、しばらく行くと右に大岩壁が出てくる。豪雪で研ぎ澄まされた岩壁にガードされている御神楽岳の一端がうかがえる。

コースの途中からは山頂や水場までの所要時間を示す案内板が設置され、迷うことのない一本道である。最初に「山頂まで3時間」の案内板が出てくる。さらに少し行くと「水場まで1時間」の案内



板が出てくると、林を抜け小広い草地に出て、左の支尾根の乗越へと取りつく。稜線に出ると「山頂まで2時間40分」の案内板と見事なブナの巨木群が出てきて、いったんくたつて再び急登すると、さらに奥の支尾根にのる。ここに「大森見晴台まで1時間」の案内板が出てきて、さ

らに15分程して最後の水場となる。

水場には「山頂まで2時間」の案内板がある。水の補給をして、ここから本峰よりのびている大森尾根への急登が始まる。稜線に飛び出すと、大杉のある大森見晴台である。

大森山の三角点はやぶで確認できないが、東西の展望が広がる。本峰は頂上手前の雨乞峰に隠されて見えないが、飯豊連峰や越後山脈の山々が眺められ、休憩には最適である。ここからは豪雪に耐えて立つ巨大杉やブナの茂る樹林の尾根を行く。小さなアップダウンを繰り返して登って行くと、雨乞峰の平坦な頂上の一角にたどり着く。ここで初めて左奥に本峰の鋭峰が望める。その左下には熟練者向きの栄太郎新道が、そのやせ尾根を激しい起伏で繰り返してのびてきている。道はゆるやかとなり、しばらく行くと「石楠花通」の案内板が出てくる。季節によっては文字通りの白いシャクナゲやその他の高山植物が咲き乱れる。それらと池畑のある草原と、雪に押されて曲がりくねった灌木とが織り成す自然庭園が出現し、この山の見所の一つとなっている。やがて栄太郎新道が合流し、いったん

少しくだつた鞍部からは栄太郎新道のすばらしい岩壁と研ぎ澄まされた岩壁を間近にして、その難しさがうかがえる。鞍部には小さな雨乞池があり、これより登り返すと、伊佐那美神社の石の祠が出てきて、すぐ頂上である。

2等三角点を中心に低い灌木に囲まれた狭い頂上であるが、展望はよい。近くは越後の山々が、遠くは上越国境から奥日光・那須・吾妻・飯豊の山々と佐渡島等、360度のパノラマが広がる。展望を堪能したら往路を忠実にくだらう。

(平成14年6月9日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(2時間) 最後の水場(40分) 大森見晴台(45分) 雨乞峰(30分) 御神楽岳(1時間) 大森見晴台(25分) 最後の水場(1時間30分) 登山口

△地形図▼

2万5千1御神楽岳・猪ヶ森山

△交通▼

新潟交通バス

津川タクシー

02549 (2) 2430  
02549 (2) 2440

特選コースガイド④

鈴鹿

一繞・近江側から登る鈴鹿の山々⑧  
御池川林道

## 伊勢尾から御池岳

健脚コース(★★★)  
磯部 純

今回紹介する山は御池岳。これまで御池岳へ登る岩野さんの例会では、鞍掛橋から鈴ヶ岳を経て御池岳へ。小又谷から巡視路をたどり土倉岳を経て御池岳へ。または、T字尾根を経て御池岳テンプルランドへ登るなどのルートをとっていたのだが、今回紹介するルートは伊勢尾に登り、お花池から奥ノ池まで歩き、T字尾根をくだるといふ岩野さんの例会では初めて歩くルートである。

中畑から御池川を通り、君ヶ畑先の小又谷分岐からさらに御池川を奥へ向かい、ゴロ谷分岐にある御池橋まで車を走らせる。この付近には車を置く広場がないので、車は林道の広くなった所へ駐車する

わかる。その岩の近くには、マユミの木が何本もあり、秋には真っ赤に色づき、秋の到来を知らせてくれる。

その斜面を登り切り、ササをかき分け進むと「お花池」。直径10メートルの池である。水が少ないときには、ヌタ場に毛の



生えたようなものしか見えない。御池岳山頂の広大なテンプルランドには、多くの池やドリーネがあるが、池の大部分がテンプルランド西部の池ノ平に点在している。この「お花池」はその中で最も西にある池だが、この池の周りに花が多いわけではな

く、池の名は雨乞いのため

に里の女「お花」が

山上池の大蛇

## 鈴鹿の山を歩く

草川啓三著 四六判 二五〇〇円

新刊

昭文社の地図「鈴鹿山系」の著者が鈴鹿の全貌を語る。鈴鹿約85山のプロフィールとガイド。案内書にない珠玉の尾根歩きコース20紹介。山の時間を切るカラー&エッセイ32、など。

## 関西の(1)台高の沢

樋上嘉秀著 四六判 一九〇〇円

新刊

谷姿美型にして水量豊富。吉野川、北山川、楠田川、宮川、鏡子川、往古川の各水系の百を超える沢から32本を厳選して、各谷ごとに詳細通行図付きで紹介する。

★表示の価格は消費税を含みません  
ナカニシヤ出版  
http://www.nakanishiya.co.jp/  
京都市左京区吉田二本松町2  
☎075-751-1211 〒606-8316

「お花池」手前の日本庭園さながらの斜面



渡り、さらに斜面を捲くように登っていくと、そこはアザミ谷の源頭附近で、ヒルコバ下の谷分岐であった。

ここからヒルコバまで登らずに、浅い谷の右手からのびてきている尾根に取りつく。小石のゴロゴロしている尾根で、周辺の木々は疎らで登りやすい。やがて、斜面がゆるくなると、苔が付いた岩が現れ、日本庭園さながらの光景に変

の嫁になったという伝説に由来しているという。ただ、伝説のお花池はもっと東にあったともいわれ、その位置は定かではないようだ。

ここから尾根をたどれば「西のボタンブチ」へ行けるが、この例会では、斜面を横切り「日本庭園の池」へ向かった。このあたりは展望がきかず、同じようなササ斜面と丘があり、地形の読み取りが難しい。地形図を読む自信のない人は、「お花池」から尾根を少し東へ登り、北の方向へくぐって、鈴北岳から来ている一般道へ出るのが無難だろう。わざわざ見に来た「日本庭園の池」も、「お花池」と変わらず、日本庭園の景観とは全く縁のないような池だった。

「日本庭園の池」から斜面を東南へ登

# 沿線ハイキングガイド

京福・京電 叡電 山陽電車 神鉄 南海 急電 阪急 阪電 京阪 近鉄 公開  
 その他 歴史散歩 文学散歩 大会 歩け歩け 歩け歩け

- 京阪・叡山電車・江若交通**  
 ▼コトジヤクMハイキング「滋賀県最北端武奈ヶ嶽」 7月17日(雨) 雨天中止(集合) JR安曇川駅 9時(コース) 安曇川駅(バス) 近江角川(光明寺) 赤岩山(武奈ヶ嶽) 石田ダム 角川林道 近江角川(バス) 安曇川駅(約8km) 健脚回 電話申込制(2ヶ月前か) 参加費3000円(バス代含む) (申込先) 江若交通本社077(573)2701
- ▽モーニングハイイク「松尾坂」**  
 7月19日(雨天中止)(集合) 八潮比叡山口駅8時30分(コース) 八潮比叡山口駅 浄殺精進林 林道 鎮護国家の碑 比叡山頂(約5km) 一般回 参加自由・無料 叡山電鉄鉄道部075(781)5121
- ▽北山ウィークデーハイキング**  
 (ひまわり鑑賞)「真裏ヶ岳・静原」 8月6日(雨天中止)(集合) 岩倉駅10時(コース) 岩倉駅 繁原坂 真裏ヶ岳 村松分岐 静原(ひまわり) 薬王坂 鞍馬駅(約10km) 一般回 参加自由・無料 叡山電鉄鉄道部075(781)5121
- ▽比良連峰アタック「蓬萊山・権現山」** 8月31日(小雨決行)(集合) JR志賀駅8時40分(9時40分)(コース) 志賀駅(バス) 山麓駅(ゴンドラ) 打見山・山頂駅 笠原 蓬萊山 小女郎峠 ホッケ山 権現山 アラク峠 平(バス) 出町柳駅(約7km) 一般回 参加自由・参加費大人2000円 小人1000円(往復バス代ゴンドラ代含む) 京阪電鉄ハイキング担当06(6947)3702
- 京都バス・比良ロープウェイ**  
 ▼京都北山三角点トレック「マキノ・赤坂山」 7月5日(出) 12日(出) 雨天中止(集合) 出町柳駅 コース8時(8時30分)(コース) 出町柳駅(バス) 黒河林道口 明王寺 赤坂山 赤坂峠 平の木 平マキノ高原(バス) 出町柳駅(約10km) 健脚回 電話申込制(2ヶ月前か) 各自共定員2000名・参加費無料(バス代別途)(申込先) 京都バス運輸部営業課075(871)7521・7522
- ▽フラワー・ウォッチング「愛くらしのサギソウ」** 8月14日(出) 18日(出) 20日(出) 23日(出) 雨天中止(集合) 比良リフト山麓駅10時5分(コース) 山麓駅(リフト・ロープウェイ) 山上駅 八雲高原周辺 山麓駅(ロープウェイ・リフト) 電話申込制(2ヶ月前か) 各自共定員300名 参加費2500円(ロープウェイ・リフト代含む) (申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596)0516 各自共定員120名・参加費2600円(申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596)0516
- 神戸電鉄**  
 ▼木曜ハイイク「高丸山・蓬萊山ハイイク」 7月10日(雨天中止)(集合) 田尾寺駅8時(コース) 田尾寺駅 太陽と緑の道 高丸山 蓬萊山 有馬温泉駅(約10km) 一般回 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
- ▽木曜ハイイク「地獄谷・逢山峡ハイイク」** 8月28日(雨天中止)(集合) 大池駅8時(コース) 大池駅 地獄谷 大滝 シュラインロード 逢山峡 有馬口駅(約12km) 健脚回 参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611

り、テーブルランドの南の尾根にのる。やがて、岩が見えてくると、そこが「夕日のテラス」と呼ばれている場所。岩の上に立つと鈴鹿山系の南の山々が一望できる。この日はあいにくの霧で、その向こうは白一色の世界。何も見ることができなかつた。

斜面をくだり、「ひょうたん池」のそばを横切り、尾根を越え「丸池」の南の縁。底の方に水を溜めた暗い池である。「丸池」から南へ向かい、左手の斜面を登らないで、テーブルランドの南斜面の標高1150〜1180m付近を東南へ横切る。斜面にはササが生い茂っていて、それをかき分け進むのは、苦労するほどだ。もちろん、道などあるはずもない。歩くこと25分、大きな岩を廻り込むと「風池」だった。二つの尾根の間に眠る静かな池である。

「風池」から、さらに、ササを漕いでテーブルランドの縁を進むと、「天狗の鼻」の先からすぐの所に「ポタンブチ」があった。この岩からの展望は最高のはずだが、この日の霧は相変わらず濃く、全く何も見ることはできなかった。天気がよければ北に広がる鈴鹿の山並を

眺めながら、この岩で昼食をとるのが最高ののに……。

この日は雨が降っていたので、「ポタンブチ」は通過し、「幸助の池」へ向かう。ポタンブチから見て、すぐ東の盛り上がり「幸助の池」がある。

帰路は南峰を踏んで「奥ノ池」から「字尾根」へくだることになっていたが、天気が悪く、南峰へは寄らず、直接「奥ノ池」へと向かった。「奥ノ池」から「字尾根」へのは、その南にあるピークの一つ東の鞍部から、南斜面にくだればよい。くだってすぐ、右(西)の尾根にのると、それが「字尾根」である。ただし、南の斜面は石が多く、そのうえ急なので注意してくだらなくてはならない。また、この下り地点を見逃し、東へ寄り過ぎると土倉岳へくだってしまうので、それにも注意が必要だ。

「字尾根」へのつら。後は尾根をくだるだけ。尾根の途中は、ブナ権現と呼んでいるブナの大木、大きなブナの木に敬意を表した後、尾根にのる。やせ尾根の標高点967mに立って、木の間から見えるポタン岩は、ものすごい迫力で目の前に迫ってくる。

シヤクナゲの細尾根を歩き、登り返すと静かなブナの大木が続く。小さく切り切るとその上は標高点918mのピークで、尾根の分岐だった。左へ向かえば標高点878mから御池川林道へくだれるが、今回は右の尾根をくだる。左杉、右羅木の尾根をはずさないようにたどり、尾根先端へくだると車を置いてある御池橋へ出た。

このルートは登り下りのルートは難しいが、テーブルランドにのってからの「お花池」から「幸助の池」への間、また、テーブルランドから「字尾根」へくだる地点が間違いやすいので、御池橋をよく知った人とか、地形図を読める人と歩くことをおすすめする。

(平成13年11月3日歩く)

**△コースタイム**  
 ▲ゴロ谷出合(1時間45分) ヒルコバ下(30分) お花池(20分) 日本庭園の池(15分) 丸池(30分) 風池(15分) 幸助ノ池(25分) 奥ノ池(40分) ブナ権現(45分) 「字尾根」分岐(1時間) ゴロ谷出合

**△地形図** 2万5千ニ録立・竜ヶ岳



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 京阪・叡山電車・江若交通**  
 ▼こうじやくMハイキング「滋賀県北端武奈ヶ嶽」 7月17日 雨中止(集合) JR安曇川駅 9時(コース) 安曇川駅(バス) 近江角川・光明寺・赤岩山・武奈ヶ嶽・石田ダム・角川林道・近江角川(バス) 安曇川駅(約8分) 健脚回) 電話申込制(一ヶ月前から) 参加費3000円(バス代含む) (申込先) 江若交通本社077(573) 2701
- ▼モーニングハイク「松尾坂」 7月19日(出雨天中止(集合) 八瀬比叡山口駅8時30分(コース) 八瀬比叡山口駅―浄殺経路跡―林道―鎮護国家の碑―比叡山頂(約5分) 一般回) 参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781) 5121
- ▼北山ウィークデーハイキング(ひまわり鑑賞)「箕裏ヶ岳・豊原」 8月6日(出雨天中止(集合) 岩倉駅10時(コース) 岩倉駅―繁見倉―箕裏ヶ岳―村松分岐―静原(ひまわり)―藤子坂―鞍馬駅(約10分) 一般回) 参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781) 5121
- ▼比良連峰アタック「蓬萊山・権現山」 8月31日(小雨決行(集合) JR志賀駅8時40分~9時40分(コース) 志賀駅(バス) 山麓分岐(ゴンドラ) 小見山・山頂駅―笹平―蓬萊山―小女郎峠―ホッケ山―権現山―アラキ峠―平(バス) 出町柳駅(約7分) 一般回) 参加自由・参加費大人2000円/小人1000円(往復バス代ゴンドラ代含む)、京阪電鉄ハイキング担当06(6947) 3702
- 京都バス・比良ロープウェイ**  
 ▼京都北山三角点トレック「マキノ・赤坂山」 7月5日(出)・12日(出雨天中止(集合) 出町柳駅コンコース8時~8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 黒河林道口―明王亮―赤坂山―赤坂峠―ブナの木平―マキノ高原(バス) 出町柳駅(約10分) 健脚回) 電話申込制(一ヶ月前から) 各日共定員200名・参加費無料(バス代別途)(申込先) 京都バス運輸部営業課075(877) 7521・7522
- ▼フラワー・ウォッチング「愛くししいサギソウ」 8月14日(出)・18日(出)・20日(出)・23日(出雨天中止(集合) 比良リフト山麓駅10時5分(コース) 山麓駅(リフト・ロープウェイ) 山上駅―八雲高原周辺―山麓駅(ロープウェイ・リフト) 電話申込制(一ヶ月前から) 各日共定員300名参加費2500円(ロープウェイ・リフト代含む) (申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516
- 神戸電鉄**  
 ▼木曜ハイク「高丸山・蓬萊山ハイイク」 7月10日(出雨天中止(集合) 田尾寺駅8時(コース) 田尾寺駅―太陽と緑の道―高丸山・蓬萊山―有馬温泉駅(約10分) 健脚回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611
- ▼木曜ハイク「地獄谷・逢山峡ハイイク」 8月28日(出雨天中止(集合) 大池駅8時(コース) 大池駅―地獄谷大滝―シューライン―逢山峡―有馬温泉駅(約12分) 健脚回) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

り、テンプルランドの南の尾根にのる。やがて、岩が見えてくると、そこが「夕日のテラス」と呼ばれている場所。岩の上に立つと鈴鹿山系の南の山々が一望できる。この日はあいにくの霧で、その向こうは白一色の世界。何も見ることができなかつた。

斜面をくだり、「ひょうたん池」のそばを横切り、尾根を越えると「丸池」の南の縁。底の方に水を溜めた暗い池である。「丸池」から南へ向かい、左手の斜面を登らないで、テンプルランドの南斜面の標高1150~1180付近を東南へ横切る。斜面にはササが生い茂っていて、それをかき分け進むのは、苦勞するほどだ。もちろん、道などあるはずもない。歩くこと25分、大きな岩を廻り込むと「風池」だった。二つの尾根の間に眠る静かな池である。

「風池」から、さらに、ササを漕いでテンプルランドの縁を進むと、「天狗の鼻」。その先からすぐの所に「ポタンブチ」があった。この岩からの展望は最高のはずだが、この日の霧は相変わらず濃く、全く何も見ることはできなかった。天気がよければ北に広がる鈴鹿の山並を眺めながら、この岩で昼食をとるのが最高ののに……。

この日は雨が降っていたので、「ポタンブチ」は通過し、「幸助の池」へ向かう。ポタンブチから見て、すぐ東の盛り上がり「幸助の池」がある。

帰路は南峰を踏んで「奥ノ池」からT字尾根へくだることになっていたが、天気が悪く、南峰へは寄らず、直接「奥ノ池」へと向かった。「奥ノ池」からT字尾根へのには、その南にあるピークのひとつ東の鞍部から、南斜面にくだればよい。くだってすぐ、右(西)の尾根にのると、それがT字尾根である。ただし、南の斜面は石が多く、そのうえ急なので注意してくだらなくてはならない。また、この下り地点を見逃し、東へ寄り過ぎると土倉岳へくだってしまうので、それにも注意が必要だ。

T字尾根へのつたら。後は尾根をくだるだけ。尾根の途中は、ブナ権現と呼んでいるブナの林で、大きなブナの木に敬意を表した後、尾根にのる。やせ尾根の標高点967mに立って、木の間から見えるポタン岩は、ものすごい迫力で目の前に迫ってくる。

シャクナゲの細尾根を歩き、登り返すと静かなブナの林が続く。小さく登り切るとその上は標高点918mのピークで、尾根の分岐だった。左へ向かえば標高点878mから御池川林道へくだれるが、今回は右の尾根をくだる。左杉、右雑木の尾根をはずさないようにたどり、尾根先端へくだると車を置いている御池橋へ出た。

このルートは登り下りのルートは難しいくないが、テンプルランドのつてから「お花池」から「幸助の池」への間、また、テンプルランドからT字尾根へくだる地点が間違いやすいので、御池岳をよく知った人とか、地形図を読める人と歩くことをおすすめする。

(平成13年11月3日歩く)

▲コースタイム▼  
 ゴロ谷出合(1時間45分) ヒルコバ下(30分) お花池(20分) 日本庭園の池(15分) 丸池(30分) 風池(15分) 幸助ノ池(25分) 奥ノ池(40分) ブナ権現(45分) T字尾根分岐(1時間) ゴロ谷出合

▲地形図▼2万5千ニ縮立・電ヶ岳

# やせらぎ

## 題字・小林玻璃三

4月上旬、北摂の千荷貯水池を取り巻く山々の一つ、大岩ヶ岳(384m)へ登った。

快晴の日を選んだので、頂上からは低山ながら360度といわれる大展望を眺めることができた。特に北側正面に支峰を従えた羽東山、その右手に大船山、そして左手に少し離れて小さい富士山の形をした有馬富士もはっきりと認識されたし、それらの山々にはすでに登っているのひとしお印象に残る登山となった。

2等三角点も大切にされておられ、展望台のような大がかりな人工物はない。周囲に車道がないので静かであり、時折、ホケキョーが心を和ませてくれる。

山頂が三田市・神戸市・宝塚市の分岐点になっていることも初めて知って感激した。

JR道場駅からの標高差は240mに過ぎないが、途中、登り下りが多く、累積標高差はかなりなものになるのでないかと思われる。急登もあるのに、登山道には木材や樹脂材による土止め階段は全く存在せず、山歩きの気分が満喫できた。

往路はもちろん、帰路にもこの時期花見客のために開放されている神戸市水道局貯水池を通って、有名なしだれ桜の満開を鑑賞した。さらに千荷ダムの壮観な放水状態を、千荷橋やその決から眺めたりした。ダムの上方へは脇の階段を昇ったのである。

が大堰堤は鉄橋で立入禁止になって渡れなくて残念だった。その代わり、登山途中にときどき見下ろした貯水池の水面を近々と眺め、登りに歩いた尾根を展望して満足した。

(枚方市 東谷 宏)

背割りの桜を歩く。前夜、JR向日町から京阪八幡市の乗り継ぎをヤフーでプリントする。拙宅からのバスの関係で京阪東福寺にはヤフーの乗り継ぎより早く着く。時刻表を見て待つが電車はなかなか来ない。

「来ない」を大阪弁で「ケーヘン」と言い、又、京阪は住宅街をカーブしながら走るのから、大阪人は京阪電鉄株式会社のことを「ケーヘン電鉄カーブ式会社」と駄洒落で遊ぶ。ちなみに、「全身乗っても半身(阪神)電車」、「一回乗っても何回(南海)電車」と遊ぶ。囁は

外れた。石清水八幡に50人近くが集まると、車整理のガードマンから邪魔だからと押しやられ、巫女(みこ)も遠くから、うさぐさげな目で見ている。

鳩ヶ峰で2等点名・八幡142・55mを撮り、背割りでソメイヨシノを賞する。さらに流れ橋の手前で土に埋もれた3等点名・上津谷20・7mを撮り出し、花見でなければ来ることない三角点を二つ得て、ご機嫌で帰路についた。

追伸、4月、比良ヤケオ山の東南尾根で地図と地図ケースを拾った。「ジョン・アンディリュス」とあり、お心当たりの方は連絡を。(向日市 湯浅康夫)

4月10日、敷物・酒・鍋・コンロと思いつく限りの花見セットを抱えて息を切らせながら吉野の七曲りの坂を登った。

桜情報では「下は見頃」だったが、改札を出た第一印象ではまだ少し早かったかな? というのが実感だった。

金峯山寺を越えたあたりの展望の開けた桜の下に敷物を広げ

た。頭上の山桜はまだ蕾だったが、前方には満開の桜が四・五本あった。

デンと腰を据えて、この一年のこと家族のこと、最近登った山のことなど話題は尽きず、綱を囲みながら酒も少し入ったせいか2人の場所だけは大きいに盛り上がりがあった。

吉野の桜は木が痛んできているのか、昔の華やかさが、ここ数年で少しずつ色褪せてきたように思うのは私だけだろうか? 十数年前、初めて行った吉野は見渡す限りの桜で、満開の花吹雪の中に立っていると身体の花びらで染まってくような感動を覚えたものだが、それ以来、二度とそのような場面に出くわしたことがない。

観光吉野に危機感を抱いているのか、前山を伐採してまで桜の苗木を植えてあったのもかえって切なくなってきた。口には出さなかったが、目を見張るような桜を見せつけてあげたかったの……。

それでも帰り道では天気も回復したせいか朝より多く桜が開いていた。カメラに収めながら

「やっと吉野の桜が見れた」と満足げに言ってくれた友の一言がとて嬉しかった。

羨がなき事 喜び合ふて花の宴 (生駒市 井上久子)

北鈴鹿・靈仙山の隣、谷山付近に新たな池の情報を得て4月12日と29日に行った。

池は二つ確認でき、12日に確認した縦穴は、以前に聞いていた縦穴とは別物と判明した。

その縦穴は懸子穴と同じ程度の規模で池の近くにある。縦穴の探査は専門家に任せるとして、もう一つ小さな縦穴もだれかが見つけてテープで表示してあった。

石灰岩の山は鍾乳洞に繋がる縦穴が多く、冬場は特に気をつけたい。

小生のフィールドである御池岳においても六カ所ほどは縦穴を知っているが、登山道のそばでないのが安心である。無用に穴には近づかないほうがよいでしょう。(南濃町 山田明男)

5月の連休を利用して紀泉の猿子城山から猿尾山を歩いた。

## ○新ハイ関西サービスチェーン

<p>名所・二岐山 小白山 大白山 甲子(郡)への観光小径 一日でも山歩きが楽しめる(登山者) 霧天候と雨</p> <p>福島・二岐温泉</p> <p>日鏡連 大和館</p> <p>〒9962100621 福島県福島市安積町二岐温泉 0248184120205 0248184120702</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石割山・ハルモと純粋)</p> <p>三國山の麓</p> <p>ペンション コットンテール</p> <p>〒4011105502 山梨県南都留郡山中湖村平野 電 055516518515</p>	<p>大宮駅南口からバス乗換分岐点 備前・備中あり JR中央線山崎下車徒歩10分 バス停分岐山崎下車徒歩10分</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒404100323 山梨県山崎町上原323-323 山(自宅) 0553133146339 (山小屋) 0330114192215</p>	<p>尾崎 平ヶ岳尾崎町内の山小屋 結露・山小屋自備炊爨具 清四郎 小屋</p> <p>ほんもの手作りそば売店</p> <p>〒9946100000 新潟県北魚沼郡妙高高原町(東) 東山北魚沼 02550225505 (東山北魚沼) 期間外(11月~4月)は 0255791215026</p>
--	---	--	---

<p>ハイカーの宿・池の平温泉</p> <p>ナガサキロッジ</p> <p>百名山を二つ登れる山小屋</p> <p>黒沢池ヒュッテ</p> <p>〒949121000 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 電 025518612261</p>	<p>休憩飲食入浴も歓迎 10名以上マイクロボスで送迎</p> <p>箱根仙石原温泉</p> <p>福 島 館</p> <p>〒2550106331 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 電 0460149041</p>	<p>四季織りなす乗鞍湖のハイイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日鏡連</p> <p>温泉旅館 けやき山荘</p> <p>〒390115000 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 電 0263193122555</p>	<p>さわやか信州</p> <p>露天風呂 山吹の湯</p> <p>湯田中温泉 (穂波)</p> <p>日野屋旅館</p> <p>〒38104000 長野県下高井郡山内町湯田中温泉穂波 電 026913313578</p>
--	---	---	---

平日だったので河内長野駅からの南海バスが使えず、コミュニティバスになった。  
山の終わりにある施福寺は、ダイヤモンドトレールの終点だそうだった。

滝畑ダムからそのダイヤモンドトレールに入ると、二上山から岩湧山までの道幅の広いコースほどではなかったが、歩きやすい道だった。

ポテ峠から施福寺に至るダイヤモンドトレールは下におりていく。猿子城山は左の尾根を登ることになる。急登だと思っていたがそのようなことはなく、自然林のなかを行くと猿子城山に着いた。山頂は木に囲まれていて展望はなかった。

十五丁石地蔵から猿子城山を通過して巖岩に着くと、そこは岩山でロッククライミングの練習場になっている。ロープにつかまりながら西国三十三ヶ所の第四番札所施福寺に向かう。

施福寺は小じんまりしたお寺であった。本堂ではご本尊に女性が一人お経を唱えている。50代の真ん中あたりであろうか、声にハリがあり美しい響きがあった。

た。読経後、納経粘を窓口の受付に出していた。観音巡礼の旅とは本来こういうものかも知れない。

施福寺の長い石段をくだり、谷川のせせらぎを聞きながら山門をくぐるバス停に出て、山が終わった。  
(刈谷市 小出良春)

携帯電話は爆発的に普及し、登山者の間でも広く利用されるようになりました。電話機能ばかりではなく、メール通信というすぐれものの機能を具備しているところが大きなセールスポイントといえるのかも知れません。

このメール通信は東海地方から関西の会員の方々への連絡には特に利用価値が高いので、自然観察山行に参加される際に、差し支えなければメールアドレスを教えてください。メールアドレスを知らせていただいた方々には、メールサービス(?)として、定員割れを生じた山行(最近が多い)やキャンセルが続いて定員に空きができた山行などの情報をお送りします。

3月14日 山科高塚山  
春遅くして驟りゆく日の果てに  
頭文字Mの忘れられぬ君  
3月18日 北山天ヶ森  
美しき跳躍もう見られない野鹿  
骸となりて雪尾根に眠る  
3月23日 但馬水ノ山  
名の通りに氷色した水ノ山の  
しろがね眩しき雪稜を越ゆ  
3月28日 紀北清冷山  
戦火に燃ゆるアラブの国想いき  
森のむこうは砂あらしに昏れ  
4月6日 鈴鹿藤原岳  
マリローランサンンの淡き色の  
春がはじまる坂本谷の道  
4月10日 山科醍醐山  
きみがきみでなくなる枝を離れ  
風にさらわれていく花嫁よ  
4月19日 丹波波見四十八滝  
腸長ける舞姫のおもかげ秘めし  
ヒカゲツツジを忘れかねつとも  
4月22日 鈴鹿鎌ヶ岳三ツ口谷  
雲が越え我等も越える鈴鹿槍の  
越えがたき谷にオウレン開く  
(吹田市 木村太郎)

背(せな)の荷に鳥の止まりて  
鳴くと思えば メール着信  
今宵集えと  
信貴山の堂宇の間さまよえど  
花には早し 花桃咲けり  
空鉢堂 周りを巡り 竜神に  
手合わず女(ひと)の願いよ叶え  
霧雨に濡れそぼちたる大楳の  
新葉開く あえかに光りて  
今日も雨 明日もだろうか そ  
ぞろにて 一時間おき予想図  
覗む  
一本立て 喉に嬉しき冷やしゼ  
リー 君は三つ目我は四つ目  
憂き世ゆえ 八雲ヶ原の水に遊  
ぶ 井守ぞ 我の手本となり  
ける  
吾も紅しと告ぐは誰にか吾亦紅  
穂先に休む秋津も紅し  
稜線に笹分け現れたる君は  
主の呼び声耳に届かず  
(松阪市 葦木伸人)

3月4日 六甲天狗岩南尾根  
季節はずれの雪に吹かれて帰る  
レディ・デイの熱き曲に酔う  
3月11日 六甲東お多福山  
誰も知らない草原を駆ける娘は  
山で生まれた春の精なのに

3月9日 雨乞岳  
地吹雪は清水ノ頭吹き荒れて  
銀の樹氷もたわわに咲いて

ていますが、このメールを受け  
て参加されることとなった方も  
けっこうありますので、われな  
がらなかなかいいところに着目  
したものだといっているよう  
な次第です。  
ところがつい先日、M・Oさん  
に送ったメールに、私が全く  
知らないメールが混じり込むと  
いう奇怪な事件がありました。

M・Oさんによれば、人格を疑  
うような内容のものとのことで  
私は事態が飲み込めず驚愕する  
ばかりでしたが、ひよっとする  
と、他の会員の方へのメールに  
もそんなことがあったのではな  
いかと、心配しています。

便利さというつつを抜かしてい  
ると思わぬところで揚げ足をと  
られかねない世の中ですが、注  
意は怠らず、今後もメール通信  
を利用していくつもりですので  
、メールによる情報をご希望の方  
は、どうぞメールアドレスをお  
知らせください。  
(各務原市 鷺見守康)

山行短歌(春〜夏)  
後になり先になりして案内する  
君の巻き尾も元気に揺られて

3月14日 山科高塚山  
春遅くして驟りゆく日の果てに  
頭文字Mの忘れられぬ君  
3月18日 北山天ヶ森  
美しき跳躍もう見られない野鹿  
骸となりて雪尾根に眠る  
3月23日 但馬水ノ山  
名の通りに氷色した水ノ山の  
しろがね眩しき雪稜を越ゆ  
3月28日 紀北清冷山  
戦火に燃ゆるアラブの国想いき  
森のむこうは砂あらしに昏れ  
4月6日 鈴鹿藤原岳  
マリローランサンンの淡き色の  
春がはじまる坂本谷の道  
4月10日 山科醍醐山  
きみがきみでなくなる枝を離れ  
風にさらわれていく花嫁よ  
4月19日 丹波波見四十八滝  
腸長ける舞姫のおもかげ秘めし  
ヒカゲツツジを忘れかねつとも  
4月22日 鈴鹿鎌ヶ岳三ツ口谷  
雲が越え我等も越える鈴鹿槍の  
越えがたき谷にオウレン開く  
(吹田市 木村太郎)

3月9日 雨乞岳  
地吹雪は清水ノ頭吹き荒れて  
銀の樹氷もたわわに咲いて

標高2000m 山雲上の温泉  
湯の丸高峰自然休養林  
ハイキングにXCSキー  
高 峰 温 泉  
〒384-0000  
長野県小諸市高峰高原  
電 0267-2512000

ハイキングにノスキーにノ  
志賀高原 石の湯ロッジ  
バス 熊の湯温泉床下車  
電 0269-342241  
東京本社・東京新宿区新宿3  
1-20-15 (新丸第2ビル)  
随スポーツサービス  
電 03-3341-0211

樹池高原・八方尾根まで車7分  
白馬村内全て送迎します  
スノーシュー&歩くスキー開催  
大人たちのペンション  
白馬・ヴィヴアルディ  
〒399-9301  
長野県北安曇郡白馬村後志高原  
電話 0266-7217255  
http://www.vivaldi.jp/~vivaldi/

塩の道 千間街道  
百八十七体「観音原」  
ホテル  
白馬ブランドシエ  
〒399-19300  
長野県北安曇郡白馬村いわけ  
電 0266-17214452

八ヶ岳南北縦走の中心地  
59年秋新築完成全館個室  
木の香匂う新築養生水炊釜  
オーレン小屋  
1泊2食付き 6000円  
4月末〜11月末開設  
〒391-0213  
茅野市豊平2720 小平勇夫  
電 0266-61721279

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー  
J.R.茅野駅・北八ヶ岳登山口ま  
で送迎します  
茅野高原  
プテホテル カナール  
〒391-0301  
茅野市北山薬科高原笹丸55  
13の1  
電 0266-6712268

日本百名山の宿  
信州戸隠山  
森の宿めるへん  
高妻山・黒坂山登山口まで送迎  
クロカン・コースご案内  
〒381-4100  
長野県戸隠村越水ヶ原  
電 0266-22542081

日本唯一の女人禁制の山「大  
峰山」(百名山)の登山口  
稲村ヶ岳女人コースもあり  
温泉・名水の里  
旅館 紀の国屋甚八  
1泊2食付 7,000円から  
〒638-1043  
奈良県吉野郡天川村川崎  
電 074761410309

**山行計画**  
(7・8月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点等の隣、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。(株式会社損害保険ジャパンと契約) 死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
入院保険金 5000円  
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病気の発症(詳細は係まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)  
 期日  
 住所 〒  
 氏名  
 会員番号 (会員でない方は会員外と記入)  
 電話番号  
 生年月日  
 緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自己の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

ファミリーハイックウ  
大峰・福村ヶ岳(中級向き)  
期日 7月3日(日) 日帰り  
集合 近鉄吉野線下市口駅8時  
コース 10分  
下市口駅(タクシ) 母  
公室前登山口→法力峠→  
山上→上ノ尾→福村ヶ岳→山上  
→上ノ尾→清浄大橋  
→海川温泉(バス)→下市  
口駅(解散19時15分頃)

費用 約4500円(下市口駅  
よりタクシ・バス代)

地図 昭文社「大峰山脈」  
係 木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員20名(会員に限る)  
夏に短期間だけ開く清楚なオオ  
ヤマレンゲを求め、花の百名山の  
女人大峰山へ登る。雨天中止

自然観察山行122  
越美・金堂岳(一般向き)  
期日 7月5日(出) 日帰り  
集合 JR大垣駅8時40分  
コース 大垣駅(バス) 冠峰→松  
尾峠→白倉岳→金堂岳→  
白倉岳→松尾峠→ンバコ

九州の最高峰・日本百名山  
宮ヶ浦岳に一番近い宿  
屋久島安房登山口  
屋久島グリーンホテル  
〒8991431  
鹿児島県毛部郡久安房  
099741613021

御在所登山に  
愛知川溪谷沢歩きに  
山好き仲間集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒5101251  
三重県三重郡菟野町千草  
059319311789

那岐山麓の滝近く(登山者の大山  
二百名山の水ノ山・上ノ山などあり  
三百名山 那岐山のもと  
岡山県 那岐山荘  
〒70811307  
岡山県田部郡余義町高円  
086813614154

山行例会の実施について  
山行例会は保険を掛けたり、  
登山届けを提出しますので、実  
施日の7日前までに上記記入  
例の通り、必ず往復ハガキで申  
し込んでください。

マタ林道→林道入口(バ  
ス) 大垣駅(解散19時頃)  
費用 約3500円(大垣駅か  
らバス代等)  
地図 2万5千→宅良・冠山  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員34名

奥美濃最奥の山。冠山の西にた  
おやかな稜線を描く金草岳を歩き  
ます。昨夏撤退したコースを再計  
画しました。小雨決行

週末ハイック50  
大峰奥駈・弥山から大普賢岳  
(一般向き)  
期日 7月5日(出) 6日(回)  
1泊2日  
集合 近鉄吉野線下市口駅9時  
15分  
コース (5日) 下市口駅(タク  
シ)→行者道トンネル西  
口→井天の森→聖宝宿跡  
→弥山小屋(泊)  
(6日) 弥山小屋→一の  
塔→行者道小屋→七曜  
岳→大普賢岳→釜ノ窟→  
和佐又ヒュンテ(タクシ)→  
申込み 〒50310535

大和上市駅(解散)  
費用 約1800円(タクシ・  
宿泊代等)  
地図 昭文社「大峰山脈」  
係 ◎狩野東彦  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名

オオヤマレンゲの弥山から大峰  
奥駈道を女人結界の大普賢まで歩  
きます。雨天決行

美濃の山3・三周ヶ岳  
(健脚向き)  
期日 7月6日(回) 日帰り  
集合 ①JR大垣駅北口7時00  
分/②(マイカー参加の  
人は)池の又林道奥の夜  
又ヶ池登山口駐車場8時  
30分  
コース 夜又ヶ池登山口駐車場→  
幽玄の滝→夜又ヶ池→三  
周ヶ岳→往復→夜又ヶ池  
登山口駐車場(解散)  
費用 交通費各自(車代100  
0円)  
地図 2万5千→横山  
係 ◎山田明男 ○高野芳彦  
申込み 〒50310535

海津郡南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\*定員16名程度  
\*集合地を明記ください  
5月連休後は夜又ヶ池のカタク  
リがきれいですが、7月はササユ  
リの時期でどれだけ咲いているで  
しょうか。小雨決行

鈴鹿を歩く172  
元越谷(沢歩き健脚向き)  
期日 7月6日(回) 日帰り  
集合 国道477号線元越谷林  
道入口手前広場8時30分  
コース 広場→元越谷林道→元越  
谷→仏谷→左原→大岩→  
仏峠→猪足谷林道→元越  
谷林道→広場(解散)  
装備 溪流シューズか地下タビ・  
ワラジ必須  
費用 交通費各自(沢歩き山行  
のため保険対象外・救済  
対策費50円)  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ  
岳」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

毎年、夏恒例の元越谷沢歩きで  
す。清流感をたっぷり味わいま  
しょう。雨天中止

鈴鹿・三池岳(一般向き)  
期日 7月6日(回) 日帰り  
集合 ①近鉄名古屋駅地下7時  
50分/②近鉄四日市駅湯  
の山線ホーム8時55分  
コース 四日市駅(電車) 藍野駅  
(タクシ) 八風射撃場  
→登山口→お菊池→三池  
岳→八風峠→三休八  
風射撃場(タクシ) 藍  
野駅(電車) 四日市駅  
(解散15時頃)  
費用 約3500円(名古屋か  
ら)  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ  
岳」  
係 ◎小出良春  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合地を明記ください  
山と溪谷社の分県登山ガイド  
「三重県」①にある山で、栗木谷  
の溪谷美はすばらしいものがあり  
ます。雨天中止

比良を歩く24

コメカイ道から地蔵山

(一般向き)

期日 7月6日(日) 日帰り

集合 JR新西線新神戸駅タクシーのりば8時40分

コース 堅田駅(タクシー)朽木橋生一ササ峠・ツルベ岳分岐―地蔵山―畑(バス)近江高島駅(解散)

費用 約3200円(京都駅から)

地図 2万5千北小松昭文社「比良山系」

係 ◎秦 康夫

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで緑陰を求めて、旧コメカイ道を歩きます(本誌52号参照)。

雨天中止

平日ふれあいハイク39

六甲・布引ノ滝から穂高湖

期日 7月8日(火) 日帰り

集合 JR新幹線新神戸駅前「滝ノ広場」8時50分

コース 新神戸駅―布引ノ滝―布引貯水池―桜茶屋―トエ

ンテイクロス―森林公園前―シニール道―穂高湖―そま谷峠―カステイド―パレ―護国神社―阪急六甲駅(解散16時頃)

費用 約1000円(大阪・梅田から)

地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」

係 ◎寺井恒夫 ○川上久堅

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで六甲布引溪谷を歩くポピュラーコースです。雨天中止

三重の山88

鈴鹿・釈迦ヶ岳(やや健脚向き)

期日 7月12日(日) 日帰り

集合 ①近鉄湯の山温泉駅8時30分 ②朝明バス停9時00分

コース 朝明バス停―庵屋ノ滝―松尾尾根―釈迦ヶ岳―猫岳―羽鳥峠―朝明バス停(解散)

費用 1500円

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

係 ◎尾崎英五 ○稲垣逸夫

申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065

種垣逸夫まで

\*マイカー山行

\*集合地を明記ください

第17回山行と同じコースです。暑い時は滝!。雨天決行

紀泉・猿子城山から橋尾山

期日 7月13日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅6時11分

②近鉄・南海河内長野駅前④番バスのりば10時10分

コース 河内長野駅(バス)滝畑ダム―ボテ峠―猿子城山―十五丁地蔵―橋尾山―蔵岩―橋福寺―橋尾山バス停(バス)和泉中央駅(解散16時05分)

費用 約6700円(名古屋から)

地図 2万5千岩湧山・内畑

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*集合地を明記ください

ダイヤモンドトレールの終点

(西の起)に西園札所四番の施福寺があります。蔵岩から見る展望はすばらしいと思います。

雨天中止

近畿百名山に登る(第60回)

但東・東床尾山(一般向き)

期日 7月13日(日) 日帰り

集合 JR新大阪駅正面口7時40分

コース 新大阪駅(バス)福崎(バス)糸井溪谷登山口

―糸井の大カッラ―床尾峰の家―東床尾山―往路―登山口(バス)やぶ温泉(入浴・バス)大阪駅(解散19時頃)

費用 約4000円(新大阪駅からバス代)

地図 2万5千直見・出石

係 ◎村田智俊 ○奥比呂英

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

\*定員23名(倉員に際)

1等三角点の山で展望がよい。糸井の大カッラ(国天然記念物)を見て往復します。小雨決行

自然観察山行123

北アルプス

大目三山と立山三山(中級向き)

期日 7月18日(金)夜22日(火)前夜発3泊4日

集合 ①18日 JR岐阜駅23時00分

コース ①18日(岐阜駅(バス)19日(バス)弘法―八郎坂―称名滝―大目平山荘(泊)

②20日 大目平山荘―大目岳―奥大目岳―新室堂乗越―剣御前小屋(泊)

③21日 剣御前小屋―別山―立山主峰―浄土山―室堂―みくりが池温泉(泊)

④22日 みくりが池温泉―地獄谷―天狗平―弥陀ヶ原(バス)岐阜駅(解散)

費用 約50000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)

地図 昭文社「剣・立山」

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで

\*定員20名(6月23日まで)

大目三山と立山三山のちょっと

しんどい逆回り。自然を楽しみながら、夏の立山を歩き尽くします。

雨天決行(コース変更あり)

鈴鹿を歩く173

綿向山のヒミズ谷

期日 7月20日(日) 日帰り

集合 西明寺手前八丁野広場8時30分

コース 広場(車)表参道取付広場―ヒミズ谷―左横―行者コパー―水無尾根―広場(解散)

装備 溪流シューズか地下タビ・ワラジ必携

費用 交通費各目(沢歩き山行のため保険対象外・救援対策費50円)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

係 ◎岩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*マイカー山行

手頃な滝・ナメ滝が源流まで続

綿向山のヒミズ谷にアタック

します。雨天中止

兵庫丹波・高山(一般向き)

期日 7月20日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR大阪駅福知山線②番ホーム9時20分

コース 大阪駅(電車)谷川駅(タクシー)地蔵の森公園―林道終点―けやき峠―高山―大呂坂―林道―首切地蔵―地蔵の森公園(タクシー)谷川駅(電車)大阪駅(解散17時05分)

費用 約3500円(倉庫18きつぷ使用・名古屋から)

地図 2万5千川谷川

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*集合地を明記ください

本誌52号と京阪神ワンデイ・ハイクに紹介されている山で、山頂には4等三角点があります。

雨天中止

京都北山歩き109

オークラノ尾(大倉谷山)

期日 7月20日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

コース 京都駅(バス)美山町江和―民ヶ谷林道終点790坪峠―オークラノ尾―往路―江和(バス)京都駅(解散18時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「京都北山2」

係 ◎中西信行 ○森脇貞義

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

北山の奥深いオークラノ尾(△826・33)に登る。雨天中止

北山ちよっと歩き47

頭巾山と野鹿の滝(一般向き)

期日 7月23日(水) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

コース 京都駅(バス)福居―頭巾山―野鹿の滝―林道(バス)京都駅(解散18時頃)

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*集合地を明記ください

本誌52号と京阪神ワンデイ・ハイクに紹介されている山で、山頂には4等三角点があります。

雨天中止

費用 約3000円(バス代)  
 地図 昭文社「京都北山2」  
 係 ◎奥山繁三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 頭巾山に登り、神秘的でとても涼しい野原の滝へくだります。雨天中止

上越・谷川岳と赤城山  
 期日 7月25日(午後)27日(前夜発)泊2日  
 集合 (25日) JR大津駅22時30分  
 コース (25日) 大津駅(バス) (26日) (バス) 天神平  
 ロープウェイのりば→天神尾根→谷川筋沖の耳→トマの耳→蔵新道→一ノ倉沢出合→土倉橋(バス) 赤城国民宿舎(泊)→予定

費用 約30000円(バス・宿泊・ロープウェイ代等)  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

地図 昭文社「谷川岳」  
 係 ◎妻籠ひろ子  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*定員30名(6月末まで)

谷川岳は歩行時間5時間。下山後、一ノ倉沢見物(往復1時間30分)。箱根等、危険箇所はありませぬ。赤城山は黒槍直下の宿に泊まり歩行時間3時間の初級です。両山とも花が多く、展望抜群の上越の名山です。バスはリクライニング、トイレつき。雨天決行

滋賀県福井県境の山  
 期日 7月26日(日) 日帰り  
 集合 国道161号線滋賀県福井県境9時30分(JRマキノ駅からはタクシーで)  
 コース 国道161号線県境→県尾根→東ヶ谷山→往路→園道環状(解散)  
 費用 交通費各自  
 地図 2万5千11駄口  
 係 ◎高島伸浩  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

\*マイカー山行  
 国道から東へピークを一度登り、鞍部から北の奥尾根へ向かう(上り2時間、下り1時間30分・東ヶ谷山は本誌74ページの文中にあります)。雨天決行

福井・鬼ヶ岳(一般向き)  
 期日 7月27日(日) 日帰り  
 集合 ①JR名古屋駅中央改札口7時30分 ②JR米原駅北陸線ホーム9時00分  
 コース 米原駅(電車) 武生駅(タクシー) 農協登山口→小鬼展望台→鬼ヶ岳→鞍部→農協(タクシー)  
 費用 約3300円(食料18きつ) ぶ使用・名古屋から  
 解散16時22分  
 地図 2万5千11武生・糠  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください  
 鬼の家族が生活していたという鬼ヶ岳 山頂から周囲コースで歩きます。雨天中止

鈴鹿百山45  
 天狗堂・サンヤリ(健脚向き)  
 期日 7月27日(日) 日帰り  
 集合 ①三岐鉄道大安駅8時20分 ②永源寺町紅葉尾・ひろせや(車) 君ヶ畑(車)  
 コース 集合地(車) 君ヶ畑(車) 水波谷登山口→天狗堂→サンヤリ→瀬川谷→御池  
 林道→水波谷登山口(解散)  
 費用 交通費各自(車代1000円)  
 地図 2万5千11電ヶ岳  
 係 ◎山田明男 ◎高原秀彦  
 申込み 〒503-0533  
 海津郡南濃町松山624の19  
 山田明男まで  
 \*定員20名  
 \*集合地を明記ください  
 暑い時期なので、谷を下りますのが渡渉が多い。長靴または保護シューズ等準備ください。雨天中止

自然観察山行124  
 中信・美ヶ原(初級向き)  
 期日 8月1日(前夜)2日(前夜発)日帰り  
 集合 (1日) JR岐阜駅23時00分

コース (1日) 岐阜駅(バス) (2日) (バス) 美ヶ原  
 自然保護センター→王ヶ頭→王ヶ鼻→壱ヶ嶺→美ヶ原高原美術館(バス) 岐阜駅(解散)  
 費用 約10000円(岐阜駅からバス代等)  
 地図 昭文社「美ヶ原・霧ヶ峰」  
 係 ◎警員守康  
 申込み 〒504-0828  
 各務原市蘇原村南町1の19の5 警員守康まで  
 \*定員24名(6月30日まで)

◎村田智俊  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 村田智俊まで  
 涼風に吹かれて比良南部の縦走コースを歩きます。小雨決行  
 静岡・牛ヶ峰(一般向き)  
 期日 8月3日(日) 日帰り  
 集合 JR名古屋駅中央改札口7時10分  
 コース 名古屋駅(電車) 静岡駅(バス) 原田→林道→高山ノ池→牛ヶ峰→谷沢分岐→林道→敷地(バス)  
 静岡駅(電車) 名古屋駅(解散19時51分)  
 費用 約3300円(食料18きつ) ぶ使用・名古屋から  
 地図 2万5千11牛表  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 広い草原の山頂は安曇奥の山の展望台。途中の高山ノ池は神秘的です。雨天中止

(沢下り健脚向き)  
 期日 8月3日(日) 日帰り  
 集合 杖栗尾神崎橋広場9時00分  
 コース 広場(車) 神崎川林道終点→神崎川→取水口→林道(車) 茶屋川林道遊野→茶屋川下の橋→茶屋川林道(車) 神崎橋広場(解散)  
 装備 溪流シューズか地下タビ・ワラジ・浮輪またはライフジャケット必携  
 費用 交通費各自(\*沢歩き山行の為に保険対象外・救護対価費50円)  
 地図 昭文社「御在所・織ヶ岳」「雲仙・伊吹・藤原」  
 係 ◎近野 明 ◎山田景三  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*マイカー山行  
 去年好評だった神崎川と茶屋川の沢下りです。浮輪を捨ててアカブカと流れをくだります。清流満点。雨天中止

期日 8月10日(日) 日帰り  
 集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR天王寺駅9時5分  
 コース 天王寺駅(電車) 山中溪駅→第一バノラマ台→ザレ場→雲山峰→青少年の森展望広場→四ツ池→十六谷駅(電車) 大阪駅(解散17時56分)  
 費用 約2300円(食料18きつ) ぶ使用・名古屋から  
 地図 2万5千11岩出・淡輪  
 係 ◎小出良春  
 申込み 〒610-0121  
 城陽市寺田大群10の10  
 新ハイキング関西まで  
 \*集合駅を明記ください  
 砂岩の露出した明い尾根道で、紀泉アルプスの名前にふさわしい樹林と展望の山です。雨天中止

飛騨・仏ヶ峰山(一般向き)  
 期日 8月13日(日) 日帰り  
 集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR岐阜駅高山線ホーム6時55分  
 コース 岐阜駅(電車) 上宮駅→下野上登山口→展望台

ろー穴岩―猿嶽一仏ヶ尾  
山―往路―吉野(電車)  
名古屋駅(電)18時03分  
費用 約2300円(青春18きつ  
ぶ使用。名古屋から)

地図 2万5千ニ森原  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

飛騨では駅から歩いて登れる数  
少ない山です。朝が早いです。  
この時間しか高山線が不便なため  
日帰りはできません。雨天中止

会越の山  
越後駒ヶ岳・平ヶ岳・燧ヶ岳  
期日 8月13日(休夜)17日(日)  
前夜発3泊4日  
集合 (13日) J R京都駅八条  
口団体バスのりば22時00  
分

コース (13日) 京都駅(バス)  
(14日) (バス) J R小  
出駅(タクシー) 枝折峠  
―明神峠―小倉山―百草  
の池―越後駒ヶ岳―往路  
―明神峠―銀山平石抱

ワラジ・浮輪またはライ  
フジャケット必須  
交通費各自(\*沢歩き山  
行のため保険対象外・救  
援対策費50円)  
昭文社「御在所・鎌ヶ  
岳」

費用 約50000円(バス・  
宿泊・タクシー代等)  
昭文社「越後三山」  
[屋簷]  
◎村田智俊 ◎安倉正勝  
◎奥比裕美  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

百名山三山に登ります。地帯の  
広がる高原にはたくさん的高山植  
物が鑑賞できます。バスはゆった  
りのデラックスバスを用意しまし  
た。雨天決行

費用 約33000円(岐阜駅  
からバス・宿泊・資料代  
等)  
昭文社「堀見・赤石・  
聖」  
◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(7月12日ま

期日 8月17日(日) 日帰り  
集合 美浜町役場9時00分(J  
R美浜駅からすぐ)  
コース 美浜町役場(車) 新庄変  
電所―屏風の滝―雲谷山  
―往復―新庄変電所(車)  
美浜町役場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千ニ三方  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
美浜町の雲谷山に屏風の滝コー  
スを登ります。雨天決行  
鈴鹿を歩く175  
神崎川源頭から取水口まで  
(次下り健脚向き)  
期日 8月17日(日) 日帰り  
集合 打越神崎峠広場7時30分  
コース (置き車) 武平峠広場―  
交谷―沢谷源頭―神崎川  
大滝―天狗滝―取水口―  
林道(車) 武平峠広場  
(解散)  
装備 溪流シューズを地下タビ・

(バス) 廣ノ果「清四郎  
小屋」(バス)  
(15日) 清四郎小屋(送  
迎バス) 中ノ岐川林道登  
山口―平ヶ岳―池ノ岳―  
台倉山―下台倉山―清四  
郎小屋(泊)  
(16日) 清四郎小屋(バ  
ス) 尾瀬湖池―広沢田代  
―熊沢田代―燧ヶ岳―長  
蔵小屋―大江原―沼山  
峠(バス) 尾瀬湖池ロッ  
ジ(泊)  
(17日) 御池ロッジ(バ  
ス) 草津駅(解散19時頃)

費用 約50000円(バス・  
宿泊・タクシー代等)  
昭文社「越後三山」  
[屋簷]  
◎村田智俊 ◎安倉正勝  
◎奥比裕美  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

自然観察山行125  
南アルプス  
荒川三山と赤石岳(健脚向き)  
期日 8月14日(休夜)17日(日)  
前夜発2泊3日  
集合 (14日) J R岐阜駅23時  
00分  
コース (14日) 岐阜駅(バス)  
(15日) (バス) 畑畑ロッ  
ジ(朝食・バス) 畑畑第  
一ダム(送迎バス) 棋島  
ロッジ―千枚小屋(泊)  
(16日) 千枚小屋―千枚  
岳―栗沢岳―荒川岳―赤  
石岳―赤石小屋(泊)  
(17日) 赤石小屋―棋島  
ロッジ(送迎バス) 畑畑  
第一ダム(バス) 赤石温  
泉(夕食・バス) 岐阜駅  
(解散)

費用 約33000円(岐阜駅  
からバス・宿泊・資料代  
等)  
昭文社「堀見・赤石・  
聖」  
◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(7月12日ま

近畿百名山に登る(第61回)  
兵庫丹波・栗原山(一般向き)  
期日 8月24日(日) 日帰り  
集合 J R新大阪駅正面口7時  
40分  
コース (新大阪駅(バス) 福崎  
(バス) 栗原青少年の家  
キャンプ場―栗原山―与  
布土の奥山登山口―与布  
土(バス) 新大阪駅(解  
散19時頃)  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員25名  
一等三角点の山で、頂上付近ま  
で林道が上っていますが、但馬  
側からの登山道を登り下ります。  
小雨決行

高山のお花畑を楽しみながら、  
南アルプス南部の3000m峰を  
走破しますが、急登が続きます。  
雨天決行

湖北・柳ヶ瀬山(初級向き)  
期日 8月16日(日) 日帰り  
集合 ①J R名古屋駅中央改札  
口7時30分/②J R米原  
駅北陸線ホーム9時00分  
コース 米原駅(電車) 木ノ本駅  
(バス) 柳ヶ瀬―登山口  
―玄蕃尾城の案内板―柳  
ヶ瀬山―往路―柳ヶ瀬  
(バス) 木ノ本駅(電車)  
米原駅(解散15時18分)  
費用 約31800円(青春18きつ  
ぶ使用・名古屋から)  
地図 2万5千ニ余良湖  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

福井・権現山(一般向き)  
期日 8月24日(日) 日帰り  
集合 ①J R名古屋駅中央改札  
口7時30分/②J R米原  
駅北陸線ホーム9時00分  
コース 米原駅(電車) 武生駅  
(タクシー) 裏参道登山  
口―柳の五滝―権現山―  
表参道―赤の鳥居―小次  
郎公園(バス) 武生駅  
(電車) 米原駅(解散17  
時52分)  
費用 約42000円(青春18きつ  
ぶ使用・名古屋から)  
地図 2万5千ニ福崎  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
剣菱佐々木小次郎ゆかりの地か  
ら柳谷にかかる「柳の五滝」を見  
ながら登って行きます。雨天中止

鈴鹿百名山46  
キトラ・東山・旭山・ヒキノ  
期日 8月24日(日) 日帰り  
集合 ①三岐鉄道大安駅8時20  
分/②水郷寺町紅葉尾の

7:50 山崎商店  
93-  
0942-84-1594

**山行報告**  
(3・4月号)  
新ハイキングクラブ関西

北摂・剣尾山  
○(近畿百名山に登る第51回)  
3月2日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅八条口8・00  
10(バス) 能勢の郷9・30→45  
1行着山登山口10・00(六甲山10・  
30→六地蔵11・25→剣尾山11・35  
(昼食) 12・30→横尾山13・00→  
鉄塔広場13・30→能勢の郷・かん  
ぼの湯14・30(入浴) 16・00(バ  
ス) 京都駅17・15(解散)  
○(参加者) 仲谷和司 中村英雄  
長尾節子 石川 敏 田中 明  
谷川俊一 小谷和男 中嶋日出男  
佐野信江 V 西村文男 森 美香子  
角田一江 近藤 恭 渡部美美子  
磯野重治 川中 保 渡部和美  
松尾麗子 松尾芳洋 中村佳津子  
田中善雄 岡崎知子 菅生 成

しました。小雨決行

費用 約2000円(堅田駅か  
ら)  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ©木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
澤田ふじ子が小説「比良の水底」  
に描いた、安曇川に流れ込む美しい  
葛川谷を歩き、伝説の滝と神秘的  
の山池を巡る。雨天中止  
自然観察山行126  
越美・能勢白山(一般向き)  
期日 8月30日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅8時40分  
コース 大垣駅(バス) 温見峠→  
能勢白山→温見峠(バス)  
費用 約3500円(大垣駅か  
らバス代等)  
地図 2万5千≡能勢白山  
係 ©警見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨野1の  
19の5 警見守康まで  
\*定員30名  
奥美濃の名峰、二百名山の能勢  
白山に温見峠から短時間で登りま  
す。昨夏中止したコースを再計画

兵庫丹波・五台山(一般向き)  
期日 8月31日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札  
口6時15分/②JR大阪  
駅福知山線ホーム9時  
20分  
コース 大阪駅(電車) 石生駅  
(タクシー) 独結ノ滝→  
小野寺山→五台山→鶴内  
峠→幸世橋(バス) 石生  
駅(電車) 大阪駅(解散  
17時05分)  
費用 約3000円(青春18き  
つ ぶ使用・名古屋から)  
地図 2万5千≡黒井  
係 ○小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
新緑と紅葉で知られる丹波の名  
山です。雨天中止

ろせや酒店9時20分  
各集合地(重) 粟川トン  
ネルキトラ→東山→旭  
山→ヒキノノクノ坂→  
小文谷分岐(重) 集合地  
(解散)  
費用 交通費各自(重代100  
0円)  
地図 2万5千≡竜ヶ岳  
係 ©山田明男 ○高原芳彦  
申込み 〒503-0535  
海津郡南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\*定員20名  
\*集合地を明記ください  
少し長い尾根歩きです。昨年見  
事に咲いていたあの花はまた見ら  
れるか。雨天中止

ファミリアハイク28  
比良・白滝山(一般向き)  
期日 8月28日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線堅田駅8時40  
分  
コース 堅田駅(バス) 坊村→牛  
コバ→白滝→夫婦滝→音  
羽池→長池→白滝山→ワ  
サビ大滝→明王谷林道出  
合→坊村(バス) 堅田駅  
(解散16時30分頃)

菅生幸子 松本 博 久保田玲子  
小田潤子 原 幸子 竹内喜久子  
中村静香 市野博文 ○安倉止勝  
○高比恰美 ©村田智俊(計21名)

台高・三峰山  
3月2日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄榛原駅9・10→20  
(バス) みつえ青少年旅行村10・  
25→林道終点11・13→新道峠11・  
57→12・15→稜線上12・20(昼食)  
12・50→三峰山13・20→30→八丁  
平13・37→遺林小屋13・50→不動  
滝14・33→みつえ青少年旅行村15・  
15(バス) 榛原駅17・00(解散)  
前日の雨は山は雪で三峰山は樹  
水の山になっていた。みつえ村の  
クリンハイックの目でゴミ袋をも  
らって出発。山頂の空はまさにプ  
ルースカイ。室生の山々が美しい  
姿で私たちを迎えてくれた。  
(参加者) 高岡信男 光川一美子  
金森節子 藤崎流石 森 つる子  
大和 絃 山根弘美 前田喜久子  
井上久子 村端和子 中尾美智子  
白根清子 牧 和夫 竹辻 勝  
佐々木三子代 ○福岡 章  
○小出良春 (計17名)

3月6日(日) ©木村太郎  
\*雨天のため中止しました。

美濃・小島山  
(自然観察山行112)  
3月8日(日) くもりのち雪  
(集合) JR大垣駅8・40→45  
(バス) 滝バス停付近9・30→茶  
畑登山口9・45→L80鉄塔10・30  
→L82鉄塔11・00→L84鉄塔  
11・40→小島山11・50(昼食) 12・  
40→林道出合12・55→R83鉄塔13・  
25→35→林道出合14・10→滝バス  
停14・40(バス) モリモリ村15・  
00(入浴) 15・50(バス) 大垣駅  
16・50(解散)  
強い冬の気圧配置で風に乗っ  
て雲雲が飛来した。残雪は少なかつ  
たが、雪上にリスと珍しいヤマド  
リの足跡があった。黄化の季節で、  
マンサクとタンコウバイ、そして  
シキミの花に早春の薫りを味わっ  
た。  
(参加者) 石田高敏 伊藤 直  
岩城豊子 岡田直規 神 伸  
尾崎光子 金森節子 朽名生石  
栗柄真吉 栗柄君子 森戸喜久江  
島田信吾 夏山春子 袴田流石  
堀田輝子 前田悦子 宮崎美智

森 昌好 山縣勝美 若林文夫  
○森崎貞義 ©警見守康(計21名)

尾鷲九鬼・頂山(三重の山66)  
3月8日(日) 晴れ  
(集合) 滝原駅駐車場8・00(車)  
道の駅海山(車) 九鬼駅9・55→  
頂山11・20→アンテナ広場11・50  
(昼食) 12・10→展望台12・30→  
林道13・20→九鬼駅14・00(車)  
大曾根公園14・25(橋岡登亭) 15・  
00(解散)  
二度下見をした。一度目は、紀  
州テンマウチン代表の川端守氏  
に同行してもらった。二度目は海  
側からの急斜面を一人登った。頂  
上には川端氏の手になる「山は海  
の恋人」と刻まれた標識柱が立て  
られている。ひなびた漁村のいい  
里山だった。帰りに立ち寄った、  
世界の橋を集めた公園も見応えが  
あった。  
(参加者) 池田 茂 石田真由美  
平 龍一 平 幸子 岡本美子  
永戸鉄治 新野幸夫 藤井みつあ  
○福垣逸夫 ©尾崎英五(計10名)  
残雪の雨乞岳  
3月9日(日) くもり時々晴れ  
(鈴鹿を歩く163)

(集合) かもしが荘8・25(車)  
清水平林道広場9・00→P835  
10・05→草原10・40→清水ノ頭  
11・15→南雨乞岳12・00→雨乞岳  
12・10(昼食) 13・10→シャクナ  
ゲ尾根取付13・25→林道14・45→  
広場15・05(解散)  
カンパキを着て深雪のラッセ  
ル。大パノラマと樹水の花を楽し  
みながら清水ノ頭に着くと、地吹  
雪が粉雪を巻き上げていた。白一  
色の雄大な雨乞岳を楽しんだ。  
(参加者) 服部 晃 原 光一  
原 幸子 竹村千鶴 鈴木 浩  
鈴木友子 永戸鉄治 奥野太一郎  
小林 稔 大石裕美 友田美保子  
友田 毅 佐治光江 白木やす子  
白木良弘 樫田勝利 石田真由美  
谷 守 杉山能久 的場たか子  
炭田明美 谷 久雄 山野志保江  
横井 徹 横井恭子 加納由紀子  
今井武司 小松志信 網木美重子  
○山田辰三 ©岩野 明(計21名)



20 (昼食) 12・55―高厚里峠13・27―中興保育園14・23 (バス) 静岡駅15・31 (車) 名古屋駅18・09 (解散)  
 ゆるやかな道なので疲れることなくグイグイ歩いていた。雪の富士山を望み、眼下に駿河の海が青く見えた。  
 (参加者) 岩城豊子 石原順次 朽名生石 森 晴代 渡辺美代子  
 ◎藤原 邦 ◎小出良春 (計7名)  
 六甲・打越山から西のお多福山  
 3月16日(日) ◎小出良春  
 \*雨天のため中止しました。

榛州西部・植松山  
 3月16日(日) 雨  
 (集合) J R西明石駅7・40〜55 (バス) 登山口10・10〜20―林道終点10・46―小河内の滝11・50―尾根取付12・25―植松山13・05 (昼食) 13・25―林道終点14・50―登山口15・20 (バス) エーガイヤちくさ入浴 16・40 (バス) 西明石駅18・35 (解散)  
 谷筋を離れて尾根にかかる頃から本格的な雨となった。雪に埋もれた山頂の樹林のなかで昼食。しかし寒くて早々に下山。膨らんだ

咲いた花は見られず残念だったが、見事な咲きぶりにみな満足した。  
 (参加者) 山田妙子 後藤久美子 丹下由子 吉橋孝次 伊藤恵美子 栗橋聖子 栗橋聖子 山本千鶴子 木村 豊 竹田博美 小原きぬ子 若松朝子 竹田美英 猪狩美枝子 鈴木輝雄 多田陽子 佐古田文子 西村文男 井上 光 島田遊子 首藤百子 高橋洋治 尾崎光子 池田隆一 ◎吉村 昭 (計26名)  
 ◎山田明男

北摂・るり深から深山  
 3月23日(日) 晴れ  
 (集合) J R園部駅9・53〜10・00 (バス) るり深10・40―通天湖11・35―深山登山口12・00―平地尾根道12・23 (昼食) 13・00―深山13・25―天王14・17―奥るり深14・51〜15・35 (バス) 園部駅16・33 (電車) 京都駅17・25 (解散)  
 (参加者) 半額 (シーズン割引) だったので得した気分。るり深は小流が連続する美しい渓谷で、深山はササが続く道。山頂は360度の大展望だった。  
 (参加者) 田中 明 水本加津栄 中村啓一 岩野健司 若林文夫

アシビの雷に力強さを感じた。  
 (参加者) 小谷和子 宮村孝次郎 中島 隆 馬場直盛 松上美代子 栗橋聖子 栗橋聖子 光川二美子 上田久子 長田美子 岡田恵美子 角田一江 美村孝治 原 文字 森 瑞代 岩村雅司 佐野信江 三井敏一 松野健子 石倉真佐子 吉藤孝次 渡辺靖子 前田喜久子 東山澄夫 遠藤 率 大谷章子 前川 一 堀尻香織 岡本佳子 石田高教 福岡 章 八木四郎 田中博子 ◎岡田 昇 (計35名)  
 ◎古賀慶一

北山・天ヶ森  
 (平日ふれあいハイイク37)  
 3月18日(日) 晴れ  
 (集合) 地下鉄国際会館前8・10 (バス) 小出石8・53〜9・05―P812〜12・10 (昼食) 12・50―三谷峠13・35―天ヶ森14・40―50―小出石16・10 (バス) 解散  
 雪の残る雑木林はやわらかい光のなかにあり、尾根筋がきれいに見えていた。  
 (参加者) 若林文夫 光川二美子 谷 守 西村耕一 石倉真佐子 松尾麗子 栗橋聖子 加藤浩一

上田建男 植原良彦 飯田豊子 三浦弘幸 林 信男 名倉マサ子 白富中子 小田潤子 岡本美子 原 文字 山口喜弘 森美喜子 前田幸子 大和 絃 中尾美智子 奥村清一 中谷嘉多 鈴木恵美子 植原次子 松本勝子 ◎市野博文 小出良春 (計27名)

大津ワングル道からヤケオ山・横谷道  
 3月23日(日) 晴れ  
 (集合) J R比良駅8・45〜9・10 (バス) イン谷口9・00〜20―雄松山荘道合10・26―岩場11・10―ヤケオ山13・50 (昼食) 12・30―ヤケオ山13・10―横谷道入口14・03―梨ノ木林道登魚場15・00〜25―鹿ヶ瀬16・00〜20 (バス) 解散  
 近江高島駅16・38  
 とびきりの快晴。展望は抜群。シヤカ岳からヤケオ山北面にかけての稜線には雪がたっぷり残り、今シーズン最後の雪山歩きは快適だった。  
 (参加者) 三下伸夫 三上泰子 中島 隆 西原俊弥 西原裕子 蓮井洋子 上山正二 妹尾公代 馬籠忠男 武部 剛 武部美美子 磯野重治 松尾麗子 小山誠次

岩本健二 岩本彰子 山岸勝雄 本間 隆 本間繁子 野里マツ代 本間昭雄 市野博文 中澤チズ子 松本忠雄 和田直樹 妹尾一正 田中善雄 菅生幸子 中嶋日出男 角江朝子 舟岡 武 岩城豊子 青木一雄 木村太郎 古川正子 榎木金三 中山峰雄 岩本いすゞ 半田光郎 石原君子 仲谷礼司 中川久堅 ◎寺井恒夫 (計39名)  
 ◎中村英雄  
 中信・八子ヶ峰と車山  
 (自然観察山行1-3)  
 3月20日(日) 22日(出)  
 前夜発泊2日  
 (20日) 晴れ (集合) J R岐阜駅23・00〜10 (バス)  
 (21日) 晴れ (バス) 白樺湖ペンション6・30〜8・30 (バス) 女神堂屋8・50〜9・00―八子ヶ峰東峰9・40〜10・00―持楽沢ノ頭付近11・30 (昼食) 12・45―無人休憩舎13・15〜30―ペンション14・00 (泊)  
 (22日) くもり ペンション8・40 (バス) 車山9・15〜25―車山9・45〜10・00―車山10・55〜11・05 (バス) 仏智温泉11・50 (入浴・昼食) 14・00 (バス) 岐阜

和田鶴子 宮野哲郎 中嶋日出男 山根弘美 川中 保 森本幹雄 山科邦彦 白根清子 堅田美奈子 辻 行子 仲谷礼司 小谷和子 角田一江 ◎宮下淳一 ◎秦 康夫 (計29名)  
 ◎桑 康夫  
 御池岳・奥の平  
 (鈴鹿を歩く164)  
 3月23日(日) 晴れ  
 (集合) 小又谷分岐広場8・30 (車) 御池林道広場8・40―登山口8・55―上尾根P87899・25―フナ権現10・40―奥の平11・15―南峰11・40 (昼食) 12・20―ボタンブチ12・30―東のボタンブチ13・00―真ノ谷尾根往復14・35―土倉岳15・00―巡視路分岐15・25―小又谷林道16・35―広場17・10 (解散)  
 春つらら最高の登山日和。T字尾根の雪は消えていたが、奥の平は白銀の世界。南峰、ボタンブチ、東のボタンブチと絶景を楽しんだ。真ノ谷の頭頂の雪を白指してくださったが、雪が深く引き返して、土倉岳にくだった。  
 (参加者) 服部 堯 後藤康幸 小林 稔 櫻田勝利 大石将美 谷 守 白木良弘 白木やす子

細野欽也 炭田明美 磯部 純 水戸鉄治 栗本敏夫 余谷 昭 杉山龍久 今井武司 石田真由美 奥田貞雄 ◎山田景三 ◎岩野 明 (計20名)  
 ◎岩野 明  
 廣村田尻から松尾峠・高嶺  
 (北山ちよっと歩き43)  
 3月26日(日) 晴れ  
 (集合) J R京都駅8・00〜10 (バス) 愛宕道9・30〜40―廣村田尻10・40―松尾峠・朝日峰11・45―林道11・50 (昼食) 12・55―高嶺14・25―萬葉分池15・35―大覚寺16・10 (解散)  
 早春の花を見ながら歩いた。萬葉分池のサクラは花見に少々早かった。  
 (参加者) 木下朝子 武村千鶴 森本淳子 馬籠忠男 森 つる子 岡崎知子 梅 昭司 梅 美奈子 栗橋聖子 市野博文 砂原恵美子 本間 隆 山根弘美 原 みとえ 松尾麗子 妹尾一正 宮村孝次郎 西 悦子 谷 守 山本千鶴子 宮崎純正 岩城豊子 大西由希子 磯部 純 磯 嘉子 大久保秀子 星野正弘 小野典子 赤松しげみ 渡部和美 安良陽子 岩本いすゞ 菅生幸子 浦上 明 加納由紀子

早稲18・20 (解散)  
 八子ヶ峰では、真っ白な雪原から薬科山・八ヶ岳連峰・南ア北郡・中ア全山・御嶽・乗鞍・槍ヶ岳連峰・後立山連峰・妙高・黒姫・戸隠・四阿・浅間などの山岳を仰ぎ、翌日の車山からはこれらの山岳がつくる墨絵のような世界に感動した。動物のフィールドサインも楽しく観察した。  
 (参加者) 近江秀子 荻野美紀恵 栗橋聖子 加納由紀子 金森節子 小松志信 下村啓子 多田陽子 田中善雄 谷川俊一 島岡信吾 中尾和子 仲谷礼司 宮本真幸 宮本悦子 船本裕巳子 宮西和子 村井寿和 森本淳子 ◎森脇真哉 ◎鷲見守康 (計39名)

高望山・鍋尻山(鈴鹿百山40)  
 3月23日(日) 晴れ  
 (集合) J R米原駅8・00〜10 (バス) 案合林道分岐8・40〜45―高望山9・55〜10・10―地蔵峠手前11・15 (昼食) 12・00―地蔵峠12・12―保月乗落12・25―鍋尻山12・55―13・05―地蔵峠13・35―案合林道分岐14・15 (藤原乗落散策・車) 彦根駅15・30 (解散)  
 早春のフクシユウぐらいしか

岩本健二 岩本彰子 山岸勝雄 本間 隆 本間繁子 野里マツ代 本間昭雄 市野博文 中澤チズ子 松本忠雄 和田直樹 妹尾一正 田中善雄 菅生幸子 中嶋日出男 角江朝子 舟岡 武 岩城豊子 青木一雄 木村太郎 古川正子 榎木金三 中山峰雄 岩本いすゞ 半田光郎 石原君子 仲谷礼司 中川久堅 ◎寺井恒夫 (計39名)  
 ◎中村英雄  
 中信・八子ヶ峰と車山  
 (自然観察山行1-3)  
 3月20日(日) 22日(出)  
 前夜発泊2日  
 (20日) 晴れ (集合) J R岐阜駅23・00〜10 (バス)  
 (21日) 晴れ (バス) 白樺湖ペンション6・30〜8・30 (バス) 女神堂屋8・50〜9・00―八子ヶ峰東峰9・40〜10・00―持楽沢ノ頭付近11・30 (昼食) 12・45―無人休憩舎13・15〜30―ペンション14・00 (泊)  
 (22日) くもり ペンション8・40 (バス) 車山9・15〜25―車山9・45〜10・00―車山10・55〜11・05 (バス) 仏智温泉11・50 (入浴・昼食) 14・00 (バス) 岐阜

小谷和子 諏訪綾子 舟岡 武  
山岸勝雄 和田直樹 林 弘毅  
岡田甲子 ○玉原 一 (計44名)  
◎奥山登三

六甲・旗塚山から再度登山  
(週末ハイクル)

3月29日(日) 晴れ  
(集合) 山陽須磨浦公園駅9・00  
10・10 旗塚山9・40 旗塚山9・  
55 10・00 旗塚山10・35 10・  
40 旗塚山10・55 10・東山11・15 20・  
旗塚山小学校11・40 妙法寺小学校  
11・50 旗塚神社12・30 (昼食)  
13・20 旗塚山13・25 丸山町13・  
50 旗塚山14・20 旗塚山15・30 14・  
50 15・00 旗塚山15・30 14・  
40 天王宮橋16・10 旗塚山16・  
35 15・大橋17・00 市ヶ原17・  
25 布引成道台17・45 50 J R  
新神戸駅18・10 (解散)  
高倉台にいったんくだり、40  
0段の階段を登り返して旗塚山に  
到着。旗塚山からは風化した花崗  
岩の須磨アルプスを通して下山。  
次に神戸の港町を見晴らす一山を  
越え、布引の流を見ながら新神戸  
駅まで長下場を歩き通した。  
(参加者) 宮本真幸 宮本悦子  
宮下淳一 馬瀬勇 石倉真彦子

立川郁夫 森 環代 井上由紀晴  
田中善雄 渡辺一雅 中嶋日出男  
井上恭子 若林文夫 市井ユリエ  
大平 漸 辻 富子 川崎敏雄  
小松友彦 ○仲谷礼司  
◎狩野東彦 (計20名)

湖北・山中山  
3月29日(日) くもりのち晴れ  
(集合) 隈境9・30 40 第一鉄  
塔10・10 カンジキ着着地点10・  
45 10 隈境11・00 山中山12・05  
(昼食) 13・20 隈境14・10 (解  
散)  
尾根から頂上まで残雪を踏む。  
岩龍山が近くに、野坂岳は一段と  
高く、伊吹山から金莨岳・横山岳  
と連なり、岐阜・福井県境の山々  
はまだまだ白く輝いていた。

静岡・千葉山  
3月30日(日) 晴れ  
(集合) J R名古屋駅7・10 20  
(電車) 島田駅9・32 35 (タク  
シ) 北中前9・55 赤松地蔵堂  
10・03 柏原10・33 ドウタン原  
角田一江 井上泰利 ◎高島伸浩  
(計8名)

春つらら(西南尾根は花見の行列)  
南嶺岳の北尾根は別荘沢、福寿草  
の花園を登仙山に登る。下りでは  
イワウチワ・ショウショウバカマ・  
マンサク・マメザクラ等、早春の  
花々を愛でながら行者谷から権現  
谷を歩いた。  
(参加者) 後藤康幸 松上美代子  
武村千鶴 鈴木 浩 鈴木友子  
小林 隆 西村文男 原 光一  
原 幸子 下村啓三 下村啓子  
佐治光江 白木良弘 白木やす子  
日野恵一 日野照代 奥野太一郎  
森本 勝 森本淳子 吉村 昭  
永戸鉄治 炭田明美 伊藤喜久男  
樺田勝利 池田繁美 網本美恵子  
多賀周二 多賀久子 石田真由美  
栗本敏夫 谷 守 加藤園計  
◎岩野 明 (計35名)

11・35 慶雲寺12・01 千葉山12・  
25 智高寺12・40 (昼食) 13・20  
1 島山13・26 豊橋14・42 (タク  
シ) 島田駅15・16 (電車) 名古屋  
駅17・37 (解散)  
赤松地蔵堂からは山桜の続く快  
適な道だった。ドウタン原は5月  
の開花期に訪れるとすばらしいそ  
うだ。本コースは昔の参道だったの  
か歩きやすい道だった。  
(参加者) 白木良弘 白木やす子  
森 晴代 藤本桂吉 宮戸喜久江  
森澤順子 炭田明美 渡辺美代子  
水谷陽子 吉岡美津香  
◎廣果 邦 ◎小出良春 (計12名)

雲仙山(鈴鹿台山)  
3月30日(日) 晴れ  
(集合) J R米原駅8・00 (車)  
今畑登山口8・40 笹野9・45 1  
南嶺岳10・50 雲仙山三角点11・  
45 (昼食) 12・30 最高峰12・40  
1 峰塚山13・00 お虎池13・30 1  
早瀬台13・56 汗ふき峠14・30 1  
落合15・20 今畑登山口15・30  
(車) 彦根駅16・00 (解散)  
群生するフクジュソウに堪能し  
た。山上の池ほか4つの池を巡っ  
て一廻りできたが、花はフクジュ  
ソウ・ミスミソウ等10種が確認で

きたに過ぎなかった。  
(参加者) 山田妙子 後藤久美子  
竹田博美 竹田善英 伊藤恵美子  
丹下由子 平塚明美 三上須美恵  
佐治光江 若林文夫 多田陽子  
仲谷礼司 金森節子 奥比呂美  
寺田久広 後藤康幸 武村千鶴  
吉藤孝次 木下朝子 小椋きぬ子  
小林 稔 鈴木吉和 鈴木輝雄  
原 幸子 原 光一 山村恭男  
栗橋崇吉 栗橋君子 山野志保江  
鳥居信吾 ◎高原芳彦 (計32名)  
◎山田明男

奥美濃・野伏ヶ岳  
(自然観察山行1-14)  
4月4日(日) 5日(日)  
前夜発日帰り  
(4日) 雨(集合) J R岐阜駅8・  
00 (バス)  
(5日) 雨のちくもり (バス)  
(集合) 奥美濃遊園センター12・00 (飯  
朝食) 5・50 (バス) 白山中居神  
社付近6・30 和田山牧場跡8・  
30 50 トレイル尾根下の池9・  
30 トレイル尾根標高約1200  
0 トレイル尾根標高約1200  
0 トレイル尾根標高約1200 北東尾  
根との合流点手前11・15 (撤退)  
1 湿地帯ブナ林12・15 (昼食) 13・  
00 和田山牧場跡 白山中居神社

高見城山は山城にしては急登だっ  
たが360度の大展望。一等三角  
点の石戸山から山城の岩屋山はゆる  
やかな山道で、コースタイムが  
間違っているのではないかと懸念  
するほど快調に歩いた。  
(参加者) 保田 正 石倉真彦子  
石原順次 荒木光雄 小椋きぬ子  
馬瀬忠男 橋本和彦 東中次夫  
小田潤子 若林文夫 中村英雄  
高橋寿治 眞田久子 栗橋崇吉  
栗橋君子 藤本桂吉 中尾美智子  
池田 茂 渡部和美 兼田幸子  
松井菊子 飯田良子 森実喜美子  
岡本美千子 ○宮下淳一  
◎福岡 章 ◎小出良春 (計17名)

京都西山・唐橋越  
4月6日(日) 晴れ  
(集合) 阪急上桂駅9・00 10・  
1 葛地9・30 40 鹿野所10・55 1  
11・00 香掛山11・30 (昼食) 12・  
50 車道出合13・20 1 主ヶ辻広場  
13・45 55 1 みずき山14・20 40  
1 吉楽寺15・05 25 J R馬場駅  
16・00 (解散)  
春真っ盛り、咲き乱れる花を賞  
でながらの地形図とコンパスの勉

付近14・35 50 (バス) 満天の湯  
15・10 (入浴) 16・10 (バス) 岐  
阜駅18・00 (解散)  
雨で気落ちしたまま残雪多い林  
道を2時間歩く。到着した和天山  
牧場跡は大雪原。雨も気にならな  
くなり、西に形の良い野伏ヶ岳を  
見て気力は充実した。トレイルト  
尾根ではラッセルも必要で雪山の  
登高となった。やがて降雪となり、  
ガスの急斜面ではクレパス状の亀  
裂が縦横に走る。これ以上の前進  
は危険と判断し、北東尾根との合  
流点手前で撤退した。  
(参加者) 石田高敏 大須賀 實  
井上恭子 緒方由子 荻野美紀恵  
栗橋崇吉 栗橋君子 加納由紀子  
金森節子 小松志信 砂原恵美子  
佐治光江 杉山能久 船本裕巳子  
鈴木 浩 鈴木友子 夏山春子  
森本淳子 ○三井 一 (計20名)  
◎鷺見守康

静岡・安倍大滝と十枚山  
4月5日(日) (集合) 1泊2日  
(5日) 雨(集合) J R大津駅  
8・30 9・20 (バス) 梅ヶ島温  
泉15・15 安倍大滝16・00 10・  
宿17・00 (泊)  
(6日) 晴れ(宿) 宿7・15 (バス)

関の沢入口8・20 中の段登山口  
9・30 1 杖峠11・45 1 杖峠12・  
25 (昼食) 13・00 1 杖峠13・25  
1 出合橋15・30 (バス) 大津駅21・  
00 (解散)  
ゆらゆらゆれる吊り橋を、いく  
つも越えた奥に迫力満点の豪瀑が  
あった。麓の雨は山では雪になり、  
1 財の新雪が積もった。樹冠の空  
の下に富士も南アルプスも白く眩  
しく、春の雪山を堪能した。  
(参加者) 若松朝子 武部美恵子  
川田洋子 狩野東彦 安田文美江  
岡 倍弘 岡 菊江 前田悦子  
入江武史 大西幸孝 三上伸夫  
松尾純子 加藤元彦 牧 和夫  
内田康夫 黒河内東洋明  
◎妻籠弘子 (計17名)  
◎妻籠弘子

花の霊仙山西南尾根  
(鈴鹿を歩く165)  
4月6日(日) 晴れ  
(集合) 甲津倉登り口広場8・00  
(車) あげん原8・20 1 行者の森  
9・30 1 笹峠10・05 1 近江原望台  
11・15 1 南嶺岳11・40 (昼食) 12・  
30 1 雲仙山13・10 1 最高峰13・25  
1 岩ノ峰13・35 1 林道15・15 1 行  
者谷14・50 1 奥ノ峰現15・40 1 1  
けん原16・20 (解散)

春つらら(西南尾根は花見の行列)  
南嶺岳の北尾根は別荘沢、福寿草  
の花園を登仙山に登る。下りでは  
イワウチワ・ショウショウバカマ・  
マンサク・マメザクラ等、早春の  
花々を愛でながら行者谷から権現  
谷を歩いた。  
(参加者) 後藤康幸 松上美代子  
武村千鶴 鈴木 浩 鈴木友子  
小林 隆 西村文男 原 光一  
原 幸子 下村啓三 下村啓子  
佐治光江 白木良弘 白木やす子  
日野恵一 日野照代 奥野太一郎  
森本 勝 森本淳子 吉村 昭  
永戸鉄治 炭田明美 伊藤喜久男  
樺田勝利 池田繁美 網本美恵子  
多賀周二 多賀久子 石田真由美  
栗本敏夫 谷 守 加藤園計  
◎岩野 明 (計35名)

兵庫丹波・高見城山から石戸山  
4月6日(日) 晴れ  
(集合) J R大阪駅9・20 25  
(電車) 柏原駅10・56 11・00  
(タクシー) 三玉寺11・20 1 高見  
城山12・15 (昼食) 12・50 1 境界  
石13・23 1 石戸山13・52 1 岩屋山  
14・15 1 石戸寺14・55 (タクシー)  
谷川駅15・10 42 (電車) 大阪駅

高見城山は山城にしては急登だっ  
たが360度の大展望。一等三角  
点の石戸山から山城の岩屋山はゆる  
やかな山道で、コースタイムが  
間違っているのではないかと懸念  
するほど快調に歩いた。  
(参加者) 保田 正 石倉真彦子  
石原順次 荒木光雄 小椋きぬ子  
馬瀬忠男 橋本和彦 東中次夫  
小田潤子 若林文夫 中村英雄  
高橋寿治 眞田久子 栗橋崇吉  
栗橋君子 藤本桂吉 中尾美智子  
池田 茂 渡部和美 兼田幸子  
松井菊子 飯田良子 森実喜美子  
岡本美千子 ○宮下淳一  
◎福岡 章 ◎小出良春 (計17名)

京都西山・唐橋越  
4月6日(日) 晴れ  
(集合) 阪急上桂駅9・00 10・  
1 葛地9・30 40 鹿野所10・55 1  
11・00 香掛山11・30 (昼食) 12・  
50 車道出合13・20 1 主ヶ辻広場  
13・45 55 1 みずき山14・20 40  
1 吉楽寺15・05 25 J R馬場駅  
16・00 (解散)  
春真っ盛り、咲き乱れる花を賞  
でながらの地形図とコンパスの勉

強 熱心な初心者が多かった。

- (参加者) 長田英子 光川二美子 田中 明 鈴木吉和 染谷つや子 岩間健司 楠原良彦 真島貞台子 堀尾香織 小谷和子 名倉マサ子 時光直一 岡本洋子 竹安寛代子 吉野愛子 本間 隆 上田千枝子 舟岡 武 松本 博 徳田千代子 小山誠次 前田幸子 北川良子 栄 敏光 ◎中村 登 (計25名)

室生・額井岳

(近隣百名山に登る第52回) 4月6日(日) 晴れ

- (集合) 近鉄榛原駅 8・25〜33 (バス) 天満台東二丁目 8・45〜18 神社 9・10〜20 分岐峠 9・45〜55 額井岳 10・10〜30 反射板 10・45 (昼食) 11・40 成場峠 12・00 成場山 12・15〜20 成長寺 12・45〜13・00 山部赤人 13・20〜30 511・9 三角点 13・40 里道 下山 14・00 天満台東三丁目 14・35〜44 (バス) 榛原駅 15・00 (解散)

額井岳は広くて見晴らしのよい展望台となっている。冷たい強風が吹いていたので、反射板広場で昼にした。戒長寺からのどかな里におおると春の陽気でツクシを採った。

たりしてのんびりと歩いた。

- (参加者) 須藤浩子 中島 隆 澤田高治 鈴木敏彦 森 つる子 近藤 恭 岩田育士 上山正二 西條良彦 実重正子 市野博文 永富律子 前田栄三 亀本廣治 高木 晋 山本博子 佐野信江 山口喜弘 小林 桂 小林博子 中西信行 ◎安倉正勝 (計23名) ◎村田智俊

西山・小塩山からポンボン山

(北山ちよっと歩き44) 4月9日(日) くもりのち晴れ

- (集合) J R 高槻駅 8・30 (バス) 中畑回 8・30 小塩山登山口 10・10 カタクリ谷 11・10 森林公園案内事務所 11・40 (昼食) 12・30 鎌ヶ谷カタクリ群生地 13・40 50 ーポンボン山 14・40 50 ー本山寺 15・20 鉄塔 16・10 原大橋 16・50 (解散)

カタクリの花を求めて小雨のなかを歩いた。天気は回復してくれしたが、花はまだ時期尚早で残念だった。

北野貞子 榊 照司 榊 美栄子 栗橋君子 馬籠忠男 森 つる子 三浦弘幸 入江武史 斎藤百合子 田中善雄 尾崎光子 原 みとえ 宮崎紀正 西 悦子 中嶋日出男 大和 紘 森 瑞代 小嶋野里子 黒河内東洋明 川原上知恵子 市野博文 若林文夫 松尾麗子 安根陽子 網 徳三 小谷和子 山根弘美 山下恒三 速水 保 川上久堅 角江朝子 岡田史一郎 塚元一彦 藤井妙子 中上紀代子 平 幸子 岸本苗美 砂原重美子 妹尾一正 橋本 薫 宮村孝次郎 中村 保 上田久子 石井重美子 山岸勝雄 岩村春子 南 ミヤ子 武村千鶴 辻 行子 高岡富美子 石原君子 磯 湯子 加納由紀子 白根清子 櫻置康一 長沢佑美 白鳥忠子 渡部和美 中尾博子 浦上 明 谷 守 細野欽也 奈良邦子 西村耕一 中村カイユ 辻 富子 岩本彩子 首藤百合子 山根邦枝 星野正弘 山本博子 長塚重子 玉原 一 ◎吉藤孝次 ◎奥山繁三 (計89名)

- (参加者) 木村 豊 松上美代子 近藤 恭 森本淳子 井上由紀晴 堀田輝子 宮西和子 沖 伸 中尾和子 中村幸子 前川和佳子

- 4月10日(日) 晴れ (集合) 京阪交差点・柳丸神社 9・00〜10 音羽山 10・20〜40 法蔵寺 11・15 桜の馬場 11・30 (昼食) 12・35 高塚山 13・20〜30 横峰 13・50 上醍醐開山堂 14・20 40 ー不動の滝 15・10 下醍醐女人堂 15・30 (解散)
- 逢坂の関・音羽山・音羽川など歌枕名所や、歌人になつたる物語を訪ねて歩いた。桜満開の醍醐寺周辺を見学する人のため女人堂で解散した。
- (参加者) 中村啓一 井上由紀晴 中江清剛 眞田久子 木田久美子 川上久堅 佐原浩二 成川みさお 本間昭恵 平政英子 村上喜子 二宮 元 兼田幸子 山中あさみ 青木一雄 古川正子 千葉千枝子 山口富子 飯田良子 光川二美子 渡部和美 高木忠夫 田所真里子 盛 敏子 柏木美子 ◎中村友昭 ◎木村太郎 (計27名)
- 比良・鳥越峰 4月12日(日) くもりのち晴れ (集合) J R 近江高島駅 8・55〜9・00 万葉公園 9・15 日本庭園 9・50 観音堂 10・15 岳山 10・45 ーオーム岩 11・25 (昼食)

- 11・55 ー岩阿沙利山分岐 12・00 ー鳥越峰 13・05 ー見張山 12・55 ー鉄塔分岐 13・10 ー日吉神社 14・00 ー近江高島駅 14・15 (解散)

一日中雨模様。オーム岩の下で雨宿りをしながら昼食。岩阿沙利山との分岐から西南尾根へくだるとまもなく鳥越峰を通過。尾根伝いにくだると見張山の2等三角点。鉄塔分岐から急斜面を北へくだって日吉神社へ出た。

但馬・須留ヶ峰

4月13日(日) くもり

- (集合) J R 姫路駅南口 9・10〜20 (バス) 建屋 10・50 ー山の神分岐 11・15 ー林道終点 11・30 ー作業道 12・25 (昼食) 12・55 ー大杉山 13・50 ー須留ヶ峰 14・20 ー大杉山 15・00 ー作業道 15・30 ー建屋 16・30 (入浴・バス) 姫路駅 18・40 (解散)

谷間の急登中、オオルリの美しい姿と音にひととき疲れをいやされた。下山途中は餅餅地の祭りに出合い、全員が接待を受け感激することしきり。

(参加者) 奥田則夫 吉藤孝次

- 大和 紘 島田亮子 竹田善英 宮本真幸 宮本悦子 栗栖崇吉 栗橋君子 馬場昌盛 石田賢一 松尾麗子 石田高教 河本美千子 上田直代 船越利明 船越みよ子 君塚郁子 竹田博美 前田喜久子 美村孝治 前田悦子 砂原重美子 石原順次 秋田楠輝 兼田幸子 中島 隆 前川 昇 岡田重美子 三輪浩子 岡田 一 光川二美子 三井紘一 岩田育士 小林 桂 住田源隆 角田一江 柳川常雄 森本 勝 森本淳子 八木八重子 荒木光雄 宮西和子 田所真里子 岩間健司 小林修子 小谷和子 馬籠忠男 岩城豊子 (計50名) ◎須藤岡 緞

近江舞子から シャカ岳・ヤケオ山・中井新道 (比良を歩く21) 4月13日(日) 晴れ

- (集合) J R 近江舞子駅 8・50 ー55 ー八幡神社 9・05 ー15 ー雄松山 9 道登山口 9・34 ー大津ワングル 道 10・40 ーシャカ岳 11・50 (昼食) 12・30 ーヤケオ山 13・00 ー10 ー大堂川堰堤 14・20 ー近江舞子駅 15・10 (解散) シャカ岳の北斜面にはたっぷり

雪が残っていた。頭上はるかとても手の届かない木の枝に、前月つけた赤布テープがひらひらと舞っている。1ヶ月前の雪の深さがわかっておもしろい。下りのヤケオ山東尾根(近年、登山地帯にも破線で紹介され、中井新道という名になっている)は、ずいぶん歩きやすくなっていった。

- (参加者) 田中 明 小林 稔 西居俊弥 西原裕子 蓮井洋子 小山誠次 若林文夫 平塚明美 武部 剛 松井明忠 瀬戸内伸子 宮野哲郎 福岡 章 和田純子 山岸勝雄 山口喜弘 谷川俊一 俵谷礼司 古川裕子 堅田美奈子 増田正明 湯浅康夫 湯浅みや子 ◎宮下淳一 ◎秦 康夫 (計50名)

- 美濃・大船山 4月13日(日) 晴れ (集合) J R 幸谷駅 7・55 ー8・03 (電車) 恵那駅 9・03 ー13 (電車) 明智鉄道岩村駅 9・44 ー53 (バス) 中島 10・15 ー白山青面金剛童子の墓 10・45 ー中電黒田ダム 取入口 11・15 ー大船山 12・03 ー大船山 12・27 (昼食) 13・10 ー往路 14 ー中島 15・05 ー39 (バス) 恵那駅 16・43 (電車) 名古屋駅 17・51
- (解散) 大船神社への道はアカマツ並木の参道で道幅も広く歩きやすかった。山頂は雑木林に囲まれた3等三角点の静かな山だった。
- (参加者) 藤崎流石 森 美香子 森 晴代 佐々木三三子 岡本美千子 六角喜久江 ◎廣果 邦 ◎小出良春 (計8名)
- 鈴鹿・雨を浴と御在所岳 (近隣百名山に登る第53回) 4月13日(日) 晴れ (集合) J R 京都駅 7・35 ー40 (バス) イナガ谷登山口 10・00 ー10 ー雨乞岳 12・40 ー展望の岩広場 13・00 (昼食) 13・50 ー杉峠 14・10 ーコクイ谷分岐 15・50 ー16・10 ー沢谷峠 17・00 ー10 ー武平峠 18・10 ーバス駐車場 18・20 ー40 (バス) J R 草津駅 20・10 (解散) 春浅い谷沿いの道を歩いたので水量が多い。岩飛び渡渉の繰り返して時間をく。予定の御在所岳はカットして沢谷峠に道って下山した。イナガ谷の高巻を道ではイワウチワの花が群生していた。
- (参加者) 片山克博 片山喜代子 川田洋子 青木一雄 中尾美智子 中川光郎 狩野東彦 斎藤よし子

木下朝子 木村豊 中嶋日出男  
渡辺功子 松村輝子 武部美美子  
水尾邦子 奈良邦子 長尾節子  
井上恭子 入江武史 武村千鶴  
▽西村文男 大西幸孝 小嶋野里子  
南 利運 山高義治 山高多恵子  
加藤正彦 山根弘美 石井恵美子  
川村裕保 尾崎光子 牧 和夫  
奥中 保 田田 正 中村佳津子  
妹尾公代 朝倉松雄 竹内喜久子  
鈴木輝雄 ○安倉正勝  
○呉比呂美 ◎村田智俊(計17名)

東吉野・鳥見霊時  
4月17日(日) 晴れ

(集合) 近鉄橋原駅9・15(バス)  
繁家9・45 近畿自然歩道 鳥見  
霊時11・10 尾根林道 展望  
台11・35 八雲11・50(昼食) 13・  
00 天照等13・40 小村大橋14・  
30 44(バス) 橋原駅15・30(解  
散)

雑木林の山頂では展望に恵まれ  
なかったが、公園の展望台で春霞  
みの高嶺の山々を望み満喫した。  
(参加者) 永富律子 宮村孝次郎  
木村 豊 櫻田勝子 水本加津栄  
宮西和子 妻重正子 木村千代子  
藤井益子 竹田勝英 井上由紀晴  
奥田則夫 藤本桂吉 前川和佳子

池田 茂 亀本敏治 ○中村英雄  
◎西上利和 (計18名)

美濃・舟伏山  
(自然観察山行1-5)  
4月19日(日) くもりのち雨

(集合) J R 大垣駅8・40(バス)  
夏坂林道終点あいの森駐車場10・  
25 35 1 さくら峠11・25 1のみのお  
平11・50 舟伏山12・50(昼食)  
13・30 小舟伏あいの森駐車場  
15・20 30(バス) 大野温泉16・  
50(入浴) 17・30(バス) 大垣駅  
18・10(解散)

さくら峠からは雨だったが、イ  
ワザクラがちょうど満開で感激。  
カタクリやニリンソウなどの花  
たちはまだこれからで、群落の大  
きさを感じやうって感動した。  
(参加者) 石田高敏 萩野美紀恵  
今津吉司 岩城豊子 草野智穂子  
岡田直規 朽名生石 三上須美恵  
小谷和子 上田久子 光川二美子  
角田一江 田中 明 村田はる江  
谷川俊一 俣谷礼司 森 美香子  
夏山登子 藤田明子 森本真智子  
細野欽也 松村輝子 村井寿和  
宮本真幸 木本悦子 若松朝子  
原 幸子 佐々木三三子  
○三井社一 ◎鷺見守康(計30名)

秩敷ヶ岳から城丹園境尾根  
(京都北山歩き107)  
4月20日(日) ◎中西信行  
\*雨天のため中止しました。

鎌ヶ岳(鈴鹿百山42)  
4月20日(日) ◎山田明男  
\*雨天のため中止しました。

三池岳・釈迦ヶ岳  
(鈴鹿を歩く166)  
4月20日(日) ◎岩野 明  
\*雨天のため中止しました。  
南信・守屋山と戸倉山  
(自然観察山行1-6)  
4月25日(日) 27日(日)  
前夜発泊2日  
(25日)(集合) J R 岐阜駅23・  
00(バス)

(26日) 雨のち晴れ(バス) 長  
谷村道の駅3・45(飯飯) 5・30  
(バス) 仙流荘5・50(朝食・休  
憩) 9・00(バス) 杖突峠守屋山  
登山口9・45 守屋山キャンプ場  
10・30 守屋山東峰11・20 西峰

11・45(昼食) 12・50 東峰13・  
15 40 岩廻り 立石登山口15・  
00 20(バス) 道の駅15・45 16・  
00(バス) 仙流荘16・15(泊)

(27日) 晴れ 仙流荘6・50(バス)  
戸倉山キャンプ場7・30 40  
1 六合目展望ベンチ8・35 50 1  
戸倉山西峰9・15 東峰9・25 1  
40 西峰9・50 10・05 キャン  
プ場11・30 40(バス) 早太郎温  
泉12・20(入浴) 13・20(バス)  
やまだや13・40(昼食) 14・30  
(バス) 岐阜駅16・40(解散)  
見晴らし不良のため山岳展望は  
期待はずれ。戸倉山のアケボノス  
ミレも花期には早過ぎた。けれど、  
守屋山では思いがけずアケボノス  
ミレとエンアオイスミレに出会っ  
た。特に数株のクロバナアケボノ  
スミレを見てびっくりした。

(参加者) 近江秀夫 加納由紀子  
沖 伸 奥田則夫 川上春枝子  
金森節子 小松志信 砂原重美子  
栗橋崇吉 栗橋君子 船木裕子  
関口恵子 田辺功子 前田悦子  
宮西和子 森本淳子 横井恭子  
○横井 徹 ◎鷺見守康(計19名)

湖北・音波山  
4月26日(日) くもり

(集合) 橋ノ木峠9・00 13 1 泉  
境尾根9・30 17 5 6 4等三角  
点峰10・16 音波山11・50(昼食)  
12・30 4等三角点峰13・40 橋  
ノ木峠14・35(解散)

展望はきかなかったが、ユキツ  
バネとヤブツバネの満開のなかを  
歩き、霧に煙る新緑のブナ林の幻  
想的な風景を楽しんだ。  
(参加者) 後藤謙幸 松上美代子  
蓮井洋子 竹田福男 藤本桂吉  
大石将美 白木良弘 白木やす子  
谷 守 竹田善英 岩城豊子  
岩本彩子 西井博直 ○磯部 純  
◎金谷 昭 (計15名)

大峰奥駈  
玉置山から笠捨山・行者岳

(週末ハイク48)  
4月26日(日) 27日(日) 1泊2日  
(26日) くもりのち晴れ(集合)  
近鉄大和八木駅8・10(バス) 玉  
置神社駐車場12・15(昼食) 13・  
00 玉置神社13・15 20 玉置山  
13・30 40 玉置山展望台13・55  
14・00 1花折家14・20 1推見森  
15・00(バス) 民宿15・30(バ  
21世紀の森・森林公園15・50(見  
学) 16・35(バス) 上高川民宿  
「うらしま」(泊)

(27日) 晴れ 民宿6・45 貝吹  
金剛(塔ノ谷峠) 7・50 8・00  
1 香精山8・35 45 1 四阿路8・  
15 1 地蔵堂9・45 55 1 槍ヶ岳10・  
05 15 1 奥川10・45 笠捨山11・  
10(昼食) 12・05 大峰八大金剛  
童子12・55 13・05 1 行仙宿山小  
屋13・20 25 1 行仙宿13・50 14・  
00 1 白谷トンネル東登山口14・35  
45(バス) 下北山温泉15・30  
(入浴) 16・30(バス) 大和八木  
駅19・00(解散)

(26日) 石楠花はまだ蕾が固く開  
花には早かった。奥駈道から玉置  
山登山口への下山道開城のため種  
児森手前で歩行を終了、森林公園  
で多種類が開花している石楠花を  
鑑賞した。  
(27日) 爽やかな晴天の下、奥駈  
の山筋を見渡し、地蔵岳や槍ヶ岳  
の岩場を楽しんで笠捨山へ到着。  
陽に映えるミツバツツジのなかを  
行仙岳まで縦走した(行仙宿山小  
屋では、新宮山彦の会が管理棟を  
増築中だった)。

(参加者) 入江武史 市橋千代子  
石川 敏 川田洋子 石倉真佐子  
長尾節子 片山克博 片山喜代子  
村井寿和 上西信子 竹内喜久子  
緒方由子 山本京子 安田文美江

岡村美那 船越利明 船越みよ子  
小谷和子 青木一雄 木下朝子  
南 利恵 南 寛子 森 晴代  
○瓜坂利明 ◎狩野東彦(計30名)

高取山・比婆山・イワス  
(鈴鹿百山42)  
4月27日(日) 晴れ  
(集合) J R 米原駅8・00(車)  
男泉峠8・35 落合9・30 45 1  
高取山11・02 比婆山11・45 1 比  
婆峠11・50(昼食) 12・50 1 イ  
ワス13・45 1 男鬼峠14・15 30  
(解散)

(参加者) 吉村 昭 伊藤重美子  
丹下敏夫 白木良弘 白木やす子  
栗本敏夫 服部 堯 小椋さゆり  
平塚明美 鈴木輝雄 幸田正栄  
後藤謙幸 吉藤孝次 瀬戸内伸子  
宮尾信子 本間 隆 佐古田文子  
高藤育子 山田明美 山野志保江  
西村文男 原 幸子 原 光一  
山村恭男 鳥居信吾 ○高尾芳彦  
◎山田明男 (計27名)

紀東・岩湧山  
4月27日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄・南河内長野駅10・  
15(バス) 滝畑ダム10・45 1 水場  
11・18 1 岩湧山12・43(昼食) 13・  
15 1 五ツ辻13・45 1 根石峰14・15  
1 砥石谷14・58 1 車場15・29 1 南  
海天見駅15・50(解散)

3月にカヤトの山焼きがあり、  
岩湧山からの展望はすばらしかっ  
た。登山者が多く、ワラビ採りに  
熱中している人もいた。  
(参加者) 田中 明 徳田暢子  
楠原良彦 楠原次子 森 昌好  
井上恭子 近田智子 小田恵子  
林 信男 山本博子  
佐々木三三子 ○宮下淳一  
○福間 章 ◎小出良春(計14名)

江若園境・三十三間山  
(近畿百名山に登る第54回)  
4月27日(日) 晴れ  
(集合) J R 京都駅7・35 40  
(バス) 倉見登山口9・50 10・  
11 1 水場10・30 40 1 夫婦岩展望  
台11・10 1 山頂下芝生広場11・  
50(昼食) 各百名三十三間山往復  
13・20 1 大崎展望台13・50 14・  
00 1 登山口14・45 15・05(バス)  
京都駅17・30(解散)

この日は三千三間山の山開き日  
で、大勢の地元の人々をいっしょ  
に登った。山頂直下の広場で湖北  
武奈ヶ嶽や三重嶽を展望しながら  
ゆっくり休んだ。山頂ではカタ  
クリが咲いていた。

(参加者) 湯口三郎 中嶋日出男  
須藤孝子 馬場昌盛 河原美代子  
木村 豊 中島 隆 斎藤よし子  
保田 正 近藤 恭 野里マン代  
森本幹雄 岩田育士 村田はる江  
大西幸孝 小林 稔 仲村久美子  
繁田広美 高橋舜治 岡崎知子  
岩瀬健司 乾 和世 田中幸雄  
黒河内東洋明 市野博文  
山根弘美 岡田豊治 武部美美子  
川上久堅 秋田楠師 大岡加代子  
小林 桂 妹尾一正 市井ユリエ  
松本勝子 加藤浩二 前田喜久子  
寺田久広 上田裕子 前田栄三  
仲谷礼司 浅田俊男 朝倉松雄  
佐野信江 松重正子 宮村孝次郎  
前田一代 妹尾一郎 小坂さゆり  
磯野重治 山田幸子 中尾和子  
嶋田幸子 坂田真弓 岩木いすゞ  
田中博子 林 弘毅 高岡富美子  
宮本真幸 宮本悦子 守本あや子  
西尾久枝 ○奥佐裕美  
◎村田智俊 (計64名)

湖北・ブンゲン  
(自然観察山行1-7)  
4月29日(祝) くもり  
(集合) JR大田駅 8:40 (バス)  
奥伊吹スキー場 ロッジ前 9:45  
10:00 品文山展望台 10:35  
10:47 リフト終点 11:15 15分ゲ  
ン 12:05 (昼食) 13:00 スキー  
場下駐車場 14:20 30分 奥伊吹ス  
キー場 ロッジ 14:50 15:00 (バ  
ス) 伊吹町 養老風呂 15:30 (入浴  
16:15 (バス) 大田駅 17:15 (解  
散)

今回も山はガスが巻き、見晴ら  
しは得られなかった。ブンゲン山  
頂から直接西に下る尾根は歩きや  
すく、所どころイワウチワの群生  
が見られた。ずっとブナの純林が  
すばらしかった。

(参加者) 荒木光雄 大須賀 賢  
岩瀬健司 岡田直規 荻野美紀恵  
北村 正 北村 梢 砂原美美子  
朽名生石 小谷和子 林 えい子  
栗栖崇吉 栗栖君子 船本裕二子  
堀尻香織 首藤幸子 森本真智子  
杉本 高 田辺弘子 山添登志子  
原 幸子 藤崎洗石 小原さぬ子  
角田一江 細野欽也 宮下淳一  
◎鷺見守康 (計29名)

尾張・尾張三山  
4月29日(祝) 晴れ  
(集合) 名鉄新名古屋駅 8:02  
(電車) 犬山駅 8:30 43 (バス)  
尾張富士バス停 9:00 尾張富士  
9:32 1分治村 9:55 1白山10:  
50 1尾山三角点 11:10 1奥道 11:  
30 尾張本宮山 12:15 (昼食) 12:  
45 1信貴山 13:07 1相澤山 13:39  
1大徳寺 13:55 1名鉄養田駅 14:  
23 (解散)

尾張三山が信貴山・相澤山を入  
れて五山になった。1等三角点の  
尾張本宮山を含んで三つの三角点  
を踏み、いい山歩きだった。

(参加者) 藤本桂吉 岡本美千子  
徳田暢子 村川春忠 六戸喜久江  
森 明代 ○廣果 邦 (計8名)  
◎小出良春

カ鞍部 9:30 西峰下小屋 12:20  
(昼食) 12:55 1排雲山 15:07  
(山小屋泊)

(15日) 雨のちくもり 排雲山荘  
3:45 1玉山 5:50 1朝倉山 8:  
35 1タカカ鞍部 13:05 1上東埔 14:  
05 (昼食) 14:50 (バス) 東埔温  
泉 16:05 (ホテル泊)

(16日) くもり 東埔温泉 7:30  
(バス) 梨山 12:40 (昼食) 13:  
35 (バス) 武蔵 14:20 15:37 1  
シチカ山荘 16:50 (山小屋泊)

(17日) 晴れ シチカ山荘 3:05  
1雪山峠 5:30 1三六九山荘 6:  
42 17:00 1カール底 9:00 1雪  
山主峰 10:17 11:05 1カール底  
11:45 1三六九山荘 13:40 1シチ  
カ山荘 16:40 (山小屋泊)

(18日) 晴れ シチカ山荘 6:00  
1武蔵 6:40 17:00 (バス) 磯  
深温泉 9:50 (入浴) 10:40 (バ  
ス) 頭城 11:00 (昼食) 12:00  
(バス) 台北故宮博物院 14:10  
(見学) 16:45 (バス) 中正記念  
堂 16:55 (見学) 17:10 (バス)  
台北市ホテル 17:30 (ホテル泊  
(19日) 晴れ ホテル 9:30 (バ  
ス) 市内観光 12:00 (昼食) 13:  
15 (バス) 台北空港 13:55 16:

30 (飛行機) 関西空港 20:05 (解  
散)

イラク戦争と新型コロナウイルスにより参  
加者激減したが、小人数のきわま  
て和気あいあいの海外山行となっ  
た。玉山登頂時を除き晴天に恵ま  
れ、特に雪山では遠来の客を祝福  
するがごとく快晴無風。登山者は  
われわれグループのみの全山貸切  
となり、満開の玉山シヤクナゲの  
大歓迎を受けた。ガイドとツアー  
リーダーの尽力による山頂でのス  
イカの御馳走は忘れられない思い  
出となった。

(参加者) 富田博子 野里マン代  
関口恵子 中村清美 ◎金谷 昭  
(計5名)

30 1 2 回目体験水場 10:00 1 7  
00 1 小屋 11:00 1 20 (19550  
以上の山頂は現在危険のため登山  
禁止) 1 雲室 コース 下山着 12:40  
1 駐車場 13:20 (昼食) 13:50  
(バス) 濟州市南部観光 (バス)  
濟州市三姓六・龍頭岩見学 (ホテ  
ル泊)

(25日) 雨 濟州市内観光後 (飛  
行機) 名古屋空港 (解散)

韓国にいる間中雨だった。漢拏  
山登山中も雨だった。しかし雨は  
火山岩に染みこむため足もとほき  
れい。国立公園のため道も広くよ  
く整備されていた。深い霧のなか  
新緑が清新だった。ツツジが咲き  
出す頃、国鳥のキジがケンケンケ  
ンと鳴き交っていた。

(参加者) 塚元一彦 白福忠子  
原 哲天 津田知浩 津田夏子  
岩佐一男 岩佐愛子 平林辰治  
岩田利嗣 高橋高明 平林きみえ  
小幡立人 藤田 学 各知美告  
吉田高枝 吉畑容子 羽根まり子  
高島洋子 竹越富美江 (計20名)  
◎高島伸浩

\* 紙面の都合で、3・4月号に発  
表した5月連休の山行報告は次号  
に掲載します。

○新入会員(定期購読者) 紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会員登録費4845番から4873  
番まで

【東京】 富田弘幸  
【三重】 向原 誠  
【滋賀】 鹿野嘉孝 北村 稔  
長井幸子 長井善登志  
大田 茂  
【京都】 小泉嘉男 宮本紀美代  
上阪知子 野末あや子  
石井ひろ子

【大阪】 入江一亮 大久保中明  
宮野哲郎 内藤真由美  
山根邦恵 奥村裕裕  
楠原次子 岡田貞男  
森川卓次 大久保秀子  
山田昭三 渡本美和恵  
【奈良】 東久保勝彦  
【兵庫】 遠藤達也 石田美代子  
【和歌山】 田端信介 田端八重子  
(29名)

うによしようにん」が正しい。  
70号(初夏) 23ページ中段7行  
目「ケマン族」は「キケマン風」  
が正しい。  
70号(初夏) 23ページ中段11行  
目「アブキタンボボ」は花弁では  
なくて「舌状花」です。  
70号(初夏) 25ページ中段18行  
目から19行目「ナガカキノハグサ」  
は「ナガバカキノハグサ」が正し  
い。  
70号(初夏) 30ページ中段16行  
目「我味子」のルビ「わがもこ」  
は「わきもこ」が正しい。  
70号(初夏) 40ページ上段と中  
段の写真説明が逆になっています。  
上段が「嘉祭台古墳付近からの展  
望」、下段が「旗振台古墳」で  
す。  
70号(初夏) 44ページ中段終わ  
りから4行目「大・村」と抜けて  
いますが、「大直村」が正しい。  
70号(初夏) 57ページ上段12行  
目「サマツカリスアリ山」は「サ  
マツケスアリ山」が正しい。  
70号(初夏) 58ページ中段終わ  
りから2行目「田中三郎」は「田  
中利一」が正しい。なお、下段2  
行目「彼は」は「東京の田中三郎  
翁」が正しい。(編集室)